

# 博士前期課程

登録コード:MA700100		授業科目区分	必修科目, (周麻酔期) 必須科目
科目名	医療倫理学 Medical Ethics		
担当教員	玉井 真理子 他 福嶋 義光, 濱口 恵子, 大西 香代子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻共通 / 1 年次		前期 土曜, 1 時限
単位数、講義室	2 単位		保健学科 2 1 1 講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。保健学および関連諸科学に対する理解に基づいた高度な倫理性を養う。		
授業概要	医療倫理学 / 生命倫理学の素養を身につけるとともに、当該領域に関する「情報収集能力」「分析能力」「(グローバルな)情報発信能力」を養い、医療現場で起きる倫理問題解決のための方法論を学ぶ。		
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療倫理学 / 生命倫理学の成立と発展の経緯を知る。</li> <li>・医療倫理学の代表的なトピックスについて認識を深める。</li> <li>・医療現場で起きる倫理問題解決のために様々な方法論があることを知る。</li> </ul>		
SBOs (行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命倫理学 / 医療倫理学の成り立ちについて説明できる。</li> <li>2. ヒトゲノム解析, 脳死と臓器移植, ニューロエシックス, 出生前診断など, 生命倫理関連の代表的なトピックスのいくつかについて, それらの歴史と現状について説明できる。</li> <li>3. 医療現場でおきる倫理問題解決のための方法論を応用できる。</li> </ol>		
授業計画	<p>第 1 回 医療 / 生命倫理学入門 ( 4 月 15 日 土曜日 10:40-12:10 玉井 )</p> <p>第 2 - 3 回 先端医療技術と生命倫理 ( 7 月 3 日 月曜日 18:00-21:00 福嶋 ) 旭総合研究棟 9 階講義室 C</p> <p>第 4 - 5 回 研究者行動規範教育のための「CITI Japan プロジェクト e-learning」 についてのグループワーク ( 7 月 8 日 土曜日 9:00-12:10 ) 信州大学医学部第 2 実習室 ( 保健学科校舎の南側の講義棟 2 階 )</p> <p>第 6 - 8 回 シンポジウム / 市民公開授業 ( 仮 ) 現代社会と生命倫理 ( 7 月 8 日 土曜日 13:00-17:50 玉井 ) 旭総合研究棟 9 階講義室 A B</p> <p>第 9 - 11 回 看護と倫理その 1 ( 8 月 19 日 土曜日 9:00-14:30 特別講師 : 濱口恵子 )</p> <p>第 12 - 14 回 看護と倫理その 2 ( 9 月 30 日 土曜日 13:00-17:50 特別講師 : 大西香代子 )</p> <p>第 15 回 試験あるいは最終レポート提出</p> <p>* 医学科の大学院との合同授業。日時および場所に注意。</p>		
授業の進め方	視聴覚教材を用い、受講者同士のディスカッションを中心にすすめる。 他の研究課程 ( 医学科の大学院 ) との合同授業になることもある。		
テキスト, 教材, 参考書	次のテキストを参考図書として推薦する。これ以外にも授業中に適宜, 紹介する。  『捨てられるいのち, 利用されるいのち 胎児組織の研究利用と生命倫理』 ( 生活書院, 2009 年, 単行本 ) 玉井 真理子 ( 編集 ), 平塚 志保 ( 編集 ) 価格 ¥ 3,150		
成績評価の方法	すべての授業に出席することを求める。その上で, 課題に沿ったレポート提出。		
成績評価の基準	自分なりの問題意識とともに考えをまとめているかどうかをポイントにする。		
事前事後学習の内容	社会的な問題に興味を持って学習を進めてほしい。		
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	日時および場所の設定がかなり変則的になります。直前の変更もあり得ますので, 掲示やメール等での連絡に十分注意してください。 質問は, メール mtamai@shinshu-u.ac.jp にて受け付けます。 学籍番号と氏名を明記の上で送信すること。3 日以内に返信がない場合は再送信。		

登録コード:MA700200		授業科目区分	選択科目
科目名	研究方法论 Methods in Health Science Research		
担当教員	相良 淳二 他 玉井 眞理子, 上村 智子, 横川 吉晴, 山崎 浩司		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻共通 / 1 年次 前期(後半) 土曜, 2 時限 土曜, 3 時限		
単位数、講義室	2 単位 保健学科 2 1 1 講義室		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。 問題解決型の保健医療研究の方法および基礎知識を獲得する。		
授業概要	保健医療の分野で研究を遂行するものに必要な知識、態度、技術、科学的根拠に基づく分析能力を獲得するために、保健医療の歴史とその背景を概説しながら、道義的責任と倫理、各分野における科学的研究の種類と特徴、問題解決のための研究方法を探究する。		
一般学習目標G10(期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学・医療系の研究を実施するうえで留意する点を理解する。(玉井)</li> <li>・論文を読むことの重要性を理解する。(相良)</li> <li>・保健・医療・福祉サービスの改良や開発において主要な役割を果たすプログラム評価の理論と方法、プログラムのニーズ、設計、実施、その効果性や効率性を査定する評価の枠組みについて学ぶ。(上村)</li> <li>・修士課程における研究のすすめ方、倫理審査、研究申請書の作成と研究助成。(横川)</li> <li>・保健医療研究における質的研究の概要を知る(質的研究の位置づけ、主な方法論、まとめ方)。(山崎)</li> </ul>		
SBOs(行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義と自由なディスカッションから自分の研究について考える。</li> <li>・科学について調べて考えたことを人に伝える。</li> <li>・科学について人の考えを聞いて自分の意見を述べる。</li> </ul>		
授業計画	第1回 (4月15日) 研究と倫理(玉井; 1コマ) 第2-3回 (6月10日) 質的研究入門I(山崎; 1,2コマ) 第4-5回 (6月17日) 質的研究入門II(山崎; 1,2コマ) 第6-7回 (6月24日) 論文から研究を学ぶことの重要性について(相良; 1,2コマ) 第8-9回 (7月1日) 遺伝と個別化研究-遺伝子バンク探索-(相良; 1,2コマ) 第10-12回 (7月22日) 保健・医療・福祉サービスにおけるプログラム評価(上村; 1,2,3コマ) 第13-15回 (7月29日) 研究の進め方 倫理審査, 研究計画, 研究補助金申請, 論文の書き方, 文献検索 (横川; 1,2,3コマ)		
授業の進め方	講義と自由なディスカッションを両輪として進める。 積極的な学習への参加を望みます。  授業計画や時間は変更されることがある。その場合は皆さんにメールでお知らせします。		
テキスト, 教材, 参考書	【参考書】 秋田喜代美・能智正博監修(2007)『はじめての質的研究法』東京:東京図書。 「医療・看護編」, 「臨床・社会編」, 「生涯発達編」, 「教育・学習編」の4種類あるので、それぞれの目次を確認し、自分の関心に適したものを1冊入手すること。(山崎担当分) Rossi PH他著・大島巖他監訳:プログラム評価の理論と方法。日本評論社。2005。(上村担当分) 古谷野亘,長田久雄:実証研究の手引き。ワールドプランニング。1992。(横川担当分)		
成績評価の方法	授業への出席および電子メールによる授業参加レポート提出		
成績評価の基準	授業への積極的取組と課題レポートの評価		
事前事後学習の内容			
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	学生と教員は常に電子メールでつながっており, 質問や相談は, 何時でも受け付ける。		

登録コード:MA700300	授業科目区分	選択科目, (周麻酔期) 選択科目
科目名	医療情報処理科学 Medical Information Processing	
担当教員	日高 宏哉 他 小林 正義, 横川 吉晴, 五十嵐 久人, 鈴木 治郎	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻共通 / 1 年次	前期 土曜, 2 時限 土曜, 3 時限
単位数、講義室	2 単位	保健学科 2 1 1 講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。 各専門学問分野における情報処理に伴う知識・技能を備え、それらを応用できる。	
授業概要	<p>保健・医療データの解析およびバイオサイエンス分野で活用される統計学的解析法の理論、技術、実践について講義する。</p> <p>さらに、保健医療情報に関する各種のデータの統計的解析、結果全体の解釈、研究・試験計画の検討、画像情報の処理などについて実例を用いて紹介し、生体情報の解析法およびその実践できる技術を教授する。</p> <p>また、E-learning教材を提供し、学生の知識や技術の向上を図る。</p> <p>授業形態は、オムニバス方式でおこなう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統計学的解析法の実践のために、コンピュータープログラムでの統計学的推定、検定およびモデルの処理法を教授する。統計学的解析法の基礎は主にE-learning教材を用い、質問などに応じながら学生の知識や技術の向上を図る。(鈴木)</li> <li>・臨床化学や生化学分野における実験データの統計学的解析法について講義し、実例を用いてその解析法を指導する。また、画像情報の処理について実践する。(日高)</li> <li>・事例研究で用いられるシングルシステムデザインについて、測定値の属性、妥当性、信頼性等について解説し、効果判定の方法と準統計的解析手法について実例を通じて指導する。(小林)</li> <li>・調査研究における調査票の作成方法、尺度の作成方法について解説し、それらに必要な多変量解析手法について実例を通じて指導する。(横川)</li> <li>・看護研究における情報処理の実践を教授する。(五十嵐)</li> </ul>	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) バイオサイエンス分野における医療情報を統計学的解析法、シングルシステムデザイン、多変量解析手法を用いて実践できる能力を養う。</li> <li>2) E-learning教材による統計学的解析法の基礎を学ぶ。</li> <li>3) コンピュータープログラムでの統計学的推定、検定およびモデルの処理法を習得する。</li> <li>4) 実験研究、事例研究、調査研究を行うにあたっての準備、実施、解析、評価の手法を習得する。</li> </ol>	
SBOs (行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) コンピューターでの統計学的推定、検定およびモデルの処理法を説明でき実践できる。</li> <li>2) 統計学的解析法のE-learning教材を用いて学習できる。</li> <li>3) 実験データの解析のための統計学的解析法の基本を説明でき、実践できる。</li> <li>4) 事例研究で用いられるシングルシステムデザインについての基本を説明でき、実践できる。</li> <li>5) 調査研究における調査票の作成方法、尺度の作成方法についての基本を説明でき、多変量解析手法の実践ができる。</li> <li>6) 看護研究における情報処理の実践ができる。</li> </ol>	
授業計画	<p>第 1 - 3 回 ( 4 月 8 日 ) 医療情報処理科学と実験研究手法の基礎と実践 (日高)(1-3コマ)</p> <p>第 4 - 6 回 ( 5 月 6 日 ) 事例研究手法の基礎と実践 (小林)(1-3コマ)</p> <p>第 7 - 9 回 ( 5 月 13 日 ) 統計学的解析法の基礎と実践 (鈴木)(1-3コマ)</p> <p>第 10-12 回 ( 5 月 20 日 ) 調査研究手法の基礎と実践 (横川)(1-3コマ)</p> <p>第 13-15 回 ( 5 月 27 日 ) 看護領域研究手法の基礎と実践 (五十嵐)(1-3コマ)</p> <p>(6月3日;予備日, 5月22日も可;ただし新入生合宿研修)</p>	
授業の進め方	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 統計学の基礎は復習しておくこと。</li> <li>2) E-learning教材の使用方法を習得しておくこと。</li> </ol>	
テキスト、教材、参考書	自作テキスト(プリントおよびスライド), E-learning教材を用いる。	
成績評価の方法	出席(20%)およびレポート(80%)の採点により評価する。	
成績評価の基準	レポートの作成ができ、その内容の質が高いこと(論点、考察、記載方法など)。	
事前事後学習の内容	<p>統計学の基礎を学習しておくこと。</p> <p>ソフトにだけ頼るのではなく、その計算式の意味などを予習、復習する。</p> <p>統計のテキストは、インターネットから得られるので、自分にあったテキストを入手する。</p>	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問などは、授業中、授業後、または、E-メールで受け付け、回答は、授業の中で行う。	

登録コード:MA700400	授業科目区分	選択科目, (周麻酔期) 選択科目
科目名	臨床判断解析学 (内科系) Clinical Assessment in Internal Medicine	
担当教員	藤本 圭作 他 矢崎 正英, 市川 元基, 石田 文宏, 伊澤 淳	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻共通 / 1年次	前期 土曜, 4時限
単位数、講義室	2単位	保健学科211講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。 高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	
授業概要	内科系疾患の病態を理解すると共に、研究や診療の情報収集・分析能力を習得する。 高い倫理観と専門的知識により自ら課題を見つけ解決する能力と高度な実践能力を習得する。	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	大学院医学系研究科保健学専攻において、より専門性の高い実践を行うことを目的として、臨床現場で遭遇する頻度の高い内科系疾患の専門的アセスメント能力を高めるために、循環器系、呼吸器系、脳神経系、感染免疫に関する病態解析の方法論について理解を深める。	
SBOs (行動目標)	<p>(伊澤 淳)</p> <p>循環器疾患の診断、病態把握、治療効果の評価に際して必要な基礎知識を修得し、循環器疾患の病態について講義する。特に重症心不全に対する先進的な治療(補助循環と臓器移植)について理解を深める。</p> <p>(藤本圭作)</p> <p>呼吸器疾患の診断、病態把握、治療法の評価に必要な知識を習得し、呼吸器疾患の病態生理学について講義する。また、睡眠呼吸障害についての病態および診断についても講義する。</p> <p>(矢崎正英)</p> <p>神経・筋の発生・解剖・生理について理解し、脳神経疾患の病態と診断について解析・研究する。さらに、脳神経疾患に対する予防や最新の治療についての検討を行う。</p> <p>(市川元基)</p> <p>生体における免疫系の役割を理解し、細菌やウイルスなどの感染症に対する生体の防御機構について探求する。免疫系の仕組みに破綻をきたして生じるアレルギー性疾患、自己免疫疾患、原発性免疫不全症などの疾患の病態と治療を理解する。さらに、感染症の予防や最新の治療について研究する。</p>	
授業計画	<p>オムニバス形式 / 全15回</p> <p>(藤本圭作 / 3回: 121教室で行います)</p> <p>第1回 (4/8) 43T: 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の病態と治療, 53T: 気管支喘息の病態</p> <p>第2回 (4/15) 43T: 睡眠のメカニズムと睡眠障害</p> <p>第3回 (4/22) 休講</p> <p>(伊澤 淳 / 3回: 121教室で行います)</p> <p>第4回 (5/6) 高血圧, 動脈硬化, 心不全</p> <p>第5回 (5/13) 心不全の治療</p> <p>第6回 (5/20) 補助循環と臓器移植</p> <p>(矢崎正英 / 3回)</p> <p>第7回 (5/27) 免疫性神経疾患</p> <p>第8回 (6/3) 認知症</p> <p>第9回 (6/10) 神経難病, 神経感染症, プリオン病</p> <p>(石田文宏 / 3回)</p> <p>第10回 (6/17) 血液腫瘍</p> <p>第11回 (6/24) 血栓止血機構の異常</p> <p>第12回 (7/1) 休講</p> <p>(市川元基 / 3回)</p> <p>第13回 (7/15) 免疫系の役割・成立</p> <p>第14回 (7/22) ウイルス感染症における免疫</p> <p>第15回 (7/29) 細菌感染症における免疫, アレルギーにおける免疫</p>	
授業の進め方	テキスト, プリント, スライドなどにより進める。	
テキスト, 教材, 参考書	<p>(藤本圭作)</p> <p>1.呼吸器疾患診療マニュアル。監修・編集: 工藤翔二, 編集: 相澤久道, 太田健, 川崎一輝, 弦間昭彦, 酒井文和, 中田敏一郎, 永武毅, 貫和敏博。日本医師会雑誌 第137巻・特別号(2), 平成20年10月15日発行, 日本医師会, 2008。</p> <p>2.病気がみえるvol. 4 呼吸器。編集: 医療情報科学研究所, 発行: メディックメディア。</p> <p>(伊澤 淳)</p> <p>循環器病の診断と治療に関するガイドライン(日本循環器学会ほか) <a href="http://www.j-circ.or.jp/guideline/index.htm">http://www.j-circ.or.jp/guideline/index.htm</a></p> <p>病気がみえるvol. 2 循環器。編集: 医療情報科学研究所, 発行: メディックメディア。</p> <p>なるほどなっとく! 内科学: 浅野嘉延 編(南山堂); わかりやすい内科学: 井村裕夫, 他編(文光堂)</p> <p>(矢崎正英)</p> <p>内科学(朝倉書店第9版)</p> <p>(石田文宏)</p> <p>病気がみえるvol. 5 血液。編集: 医療情報科学研究所, 発行: メディックメディア。</p> <p>(市川元基)</p> <p>ナースとコメディカルのための小児科学 白木和夫, 高田哲編, 日本小児医事出版社</p>	
成績評価の方法	レポートおよび出席状況から評価する。	
成績評価の基準	課題を課し, (i) 問題の設定が適切であり, (ii) その問題の背景を説明できており, (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており, (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており, (v) その上で自分の見解を提示できており, かつ, 教員を感動させるレベルにあれば「卓越している」と評価する。また, (i)~(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」, 4項目までできていれば「やや上にある」, 3項目までできていれば「水準にある」と評価する。以上の結果を総合して, 成績評価を行う。	
事前事後学習の内容	<p>【事前学習について】</p> <p>毎回, 授業の終わりに, 次回までに予習して来るべき教科書の箇所について説明します。また, 事前にe-Alpsにスライド原稿を載せます。</p> <p>【事後学習について】</p> <p>毎回, 授業の始めに, 前回の授業のポイントについて質問をしますので, 復習をして授業に臨んでください。</p>	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	大学院医学系研究科保健学専攻において, 内科系疾患の専門的アセスメント能力を高め, より専門性の高い実践を行うために, 循環器系, 呼吸器系, 脳神経系, 血液学系, 感染免疫に関する病態解析の方法論を教授する。随時, 日進月歩の医学の歩み, トピックスについて紹介し, 学生諸君の夢を広げるような講義を行いたいと考えている。	

登録コード:MA700500	授業科目区分	選択科目, (周麻酔期) 必須科目
科目名	臨床判断解析学 (外科系) Clinical Assessment in Surgery	
担当教員	池上 俊彦 他 金井 誠, 青木 薫, 小川 輝之	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻共通 / 1 年次	前期 月曜, 4 時限 月曜, 5 時限
単位数、講義室	2 単位	保健学科 2 2 3 講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づいた臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	専門職としての立場から研究課題を解決に導くことができる。
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	専門職としての立場から課題解決に必要な研究を推進できる。
授業概要	専門性の高い医療を実践するのに必要な外科系疾患に関する病態生理について理解する。このため、疾患概念・治療法・治療効果を解析するための方法論をふまえながら、外科系疾患の病態生理について論述する。	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外科的侵襲時の病態生理について理解する。</li> <li>2. 消化管疾患手術周術期の病態生理や問題点について理解する。</li> <li>3. 肝臓手術周術期の病態生理や問題点について理解する。</li> <li>4. 肝移植に関する周術期の病態生理、治療成績や問題点について理解する。</li> <li>5. 産婦人科疾患に関する病態と治療について修得する。</li> <li>6. 妊産婦に関連した最新の医療情報についての専門知識を深める。</li> <li>7. 骨・軟骨関連細胞を理解する。</li> <li>8. 骨・軟骨代謝を理解する。</li> <li>9. 整形外科疾患を基礎科学から理解する。</li> <li>10. 泌尿器科疾患に関する病態、診断、治療について修得する。</li> <li>11. 下部尿路機能の調節機構について理解する。</li> <li>12. 下部尿路機能障害の分類と病態生理について理解する。</li> <li>13. 代表的な下部尿路機能障害の診断と治療について修得する。</li> </ol>	
SBOs (行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外科的侵襲時の病態生理と治療について説明できる。</li> <li>2. 消化管手術時の周術期管理について説明できる。</li> <li>3. 肝臓手術時の周術期管理について説明できる。</li> <li>4. 肝移植の周術期管理、治療成績や問題点について説明できる。</li> <li>5. 生殖医療の現状を把握し、不妊症・不育症の原因および治療法を説明できる。</li> <li>6. 妊娠高血圧症候群等のハイリスク妊娠の病態生理および妊婦管理方法を理解できる。</li> <li>7. 婦人科疾患、特に悪性腫瘍の病態生理と治療法を理解できる。</li> <li>8. 静脈血栓塞栓症の病態生理を理解し、周産期・周術期の予防法を実践できる。</li> <li>9. 骨・軟骨関連細胞を説明できる。</li> <li>10. 骨・軟骨代謝を説明できる。</li> <li>11. 整形外科疾患を基礎科学から説明できる。</li> <li>12. 下部尿路の構造、機能と調節機構について説明できる。</li> <li>13. 下部尿路機能障害の分類と蓄尿障害、尿排出障害をきたす代表的な病態について説明できる。</li> <li>14. 過活動膀胱、前立腺肥大症、女性腹圧性尿失禁、神経因性膀胱の診断と治療、ならびに間欠導尿法の原理と留意点について説明できる。</li> </ol>	
授業計画	第1回 外科的侵襲時の病態生理と治療 (池上: 4月10日, 4時限) 第2回 骨・軟骨関連細胞 (青木: 4月24日, 4時限) 第3回 骨・軟骨代謝 (青木: 4月24日, 5時限) 第4回 下部尿路機能の調節機構 (小川輝之: 医学部泌尿器科: 5月1日, 4時限) 第5回 下部尿路機能障害の分類と病態生理 (小川輝之: 医学部泌尿器科学: 5月1日, 5時限) 第6回 消化管手術時の周術期管理 (池上: 5月8日, 4時限) 第7回 下部尿路機能障害の診断と治療 (小川輝之: 医学部泌尿器科学: 5月8日, 5時限) 第8回 異常分娩の病態生理 (金井: 5月15日, 4時限) 第9回 婦人科疾患、とくに悪性腫瘍 (金井: 5月15日, 5時限) 第10回 整形外科疾患の基礎科学 (青木: 5月22日, 4時限) 第11回 整形外科疾患の基礎科学 (青木: 5月22日, 5時限) 第12回 肝切除時の周術期管理 (池上: 5月29日, 4時限) 第13回 肝移植の周術期管理 (池上: 5月29日, 5時限) 第14回 生殖医療の現状 (金井: 6月19日, 4時限) 第15回 ハイリスク妊婦の管理(妊娠高血圧症候群, 多胎妊娠, 合併症妊娠など) (金井: 6月19日, 5時限)	
授業の進め方	講義・討論等	
テキスト, 教材, 参考書	特に指定せず	
成績評価の方法	出席, 授業中の発言内容, レポートの結果などを総合的に判断します。	
成績評価の基準	課題レポートについては, (i) 問題の設定が適切であり, (ii) その問題の背景を説明できており, (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており, (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており, (v) その上で自分の見解を提示できており, かつ, 教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」, (i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」, 4項目までできていれば「やや上にある」, 3項目までできていれば「水準にある」。	
事前事後学習の内容	授業計画に沿い, 事前に講義タイトルに関連した文献を収集し精読することを通じて, 講義中のディスカッションに積極的に参加できるようにするとともに, 情報収集能力の向上に努める。	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	この授業は, 外科系領域に関係する保健学科の教員と医学科(泌尿器科)の教員によるオムニバス授業です。質問は, 授業中もしくは終了後にいつでもしてください。また, 相談・連絡などは, 原則的にメールでお願いします。  池上: tikegami@shinshu-u.ac.jp 金井: makotok@shinshu-u.ac.jp 青木: kin29men@shinshu-u.ac.jp	

登録コード:MA700600		授業科目区分	選択科目
科目名	国際保健論 International Health		
担当教員	奥野 ひろみ 他 GOH AH CHENG		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻共通 / 1 年次		前期 水曜, 5 時限
単位数、講義室	2 単位 保健学科 2 1 2 講義室		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	自らの得た成果を世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力を有するとともに、国際的な諸課題に積極的に取り組むことができる。	グローバルな健康課題を理解し、その解決策を検討できる。	
	国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。	グローバルな健康課題に対して研究的な意識を向けることができる。	
授業概要	<p>This course will examine global health issues and international collaboration of health professionals.</p> <p>Following introductory lectures, students will choose themes of their own interests. They search for information through the Web and published literature, find differences and commonalities in health problems, health delivery systems or health professional roles among countries, and discuss further improvements for each of these issues.</p> <p>This course also explores examples of international collaboration and career development in the international society.</p> <p>Students can also get this course credit by attending the exchange program with Curtin University (Postgraduate course).</p>		
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- To understand concurrent global health issues.</li> <li>- To realize diversity and universality of health problems, health systems and health professional roles in the world.</li> <li>- To identify themes of international collaboration in medical and health fields.</li> </ul>		
SBOs (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- To identify needs of international collaboration in students' own specialties.</li> <li>- To analyze health situations and related factors in selected health problems.</li> <li>- To identify obstacles and discuss possible solutions.</li> <li>- To explore examples of international collaborations and discuss applications in students' own fields.</li> <li>- To identify merits of international collaborations and discuss how each student will develop their careers in the international society.</li> </ul>		
授業計画	<p>&lt;Course work&gt;</p> <p>1 (4/12)Orientation, Introduction to international health</p> <p>2 (4/19)International collaboration in developing countries (problem-based)</p> <p>3 (4/26) International collaboration among health professional (profession-based)</p> <p>4-7(5/10.17.24.31) Group tutorials</p> <p>8 (6/7)Plenary session: group presentations</p> <p>9-12(6/14.21.28.7/5) Group tutorials</p> <p>13(7/12) Plenary session: group presentations</p> <p>14 (7/19)Career development in international society</p> <p>15(7/26) Course summary</p> <p>&lt;Exchange program&gt;</p> <p>Curtin University exchange program (August-September, three weeks)</p> <p>Week 1: Orientation and English language studies</p> <p>Week 2: Professional studies</p> <p>Week 3: Visits to hospitals, nursing homes and clinical institutions.</p>		
授業の進め方	Group discussions Presentations Reports		
テキスト, 教材, 参考書	Will be introduced during the course.		
成績評価の方法	Lectures Group tutorials Presentations		
成績評価の基準	発表内容およびレポートは、(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、(i) から (v) の 5 項目を満たしていれば「かなり上にある」、4 項目までできていれば「やや上にある」、3 項目までできていれば「水準にある」。		
事前事後学習の内容	We will announcement at crass.		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	Students are encouraged to turn their eyes from their own place and settings to international and cross-cultural settings, examining familiar health issues from global points of views. We also encourage students to develop visions of their own career development in the international society related to their own professions.		

登録コード:MA700700		授業科目区分	選択科目
科目名	保健医療福祉システム論 Lectures in Health Care Systems		
担当教員	山崎 浩司 他 下里 誠二, 川口 典男		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻共通 / 1年次	前期	木曜, 4時限 木曜, 5時限
単位数、講義室	2単位	保健学科2 1 2 講義室	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において独自の観点で研究を推進する能力を有する。	保健・医療・福祉そのものを相対化し、クリティカルに考察する能力を身につける。	
	地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	保健・医療・福祉間の連携、さらに一般社会との連携における問題点を同定できる。	
授業概要	保健医療福祉のシステムは、国あるいは地方レベルの行政・立法・司法が複雑に絡み合うだけでなく、保健・医療・福祉の各現場の専門職や専門機関の連携（またはその不足）によって、複雑な様相を示している。さらに、在宅ケア・地域ケアが促進される現在、保健医療福祉システムにおける地域コミュニティの位置づけが、問われるようになってきている。 本年度は、社会保障、福祉社会、精神障害、介護をキーワードに、現代日本における保健医療福祉システムのあり方を検討するのに加え、各教員の専門領域における関連研究について学ぶ。 人数に応じて、文献抄読などを中心にしながら、講師が専門としている各々の専門分野における基礎的な考え方・方法論を知ることを目指す。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健医療福祉システムの複雑さを理解できる。</li> <li>複雑なシステムを前提に専門領域を考え直す。</li> </ul>		
SBOs（行動目標）	複雑なシステムの中で専門領域のあり方をとらえなおし、高度な専門的援助技術の開発へとつなげていくことができる。		
授業計画	<p>(4/13) 第1回 イントロ（山崎） 4限のみ  (4/20) 第2回 保健医療福祉政策：文献抄読1（山崎） 4限のみ  (4/27) 第3回 保健医療福祉政策：文献抄読2（山崎） 4限のみ  (5/11) 第4回 保健医療福祉政策：文献抄読3（山崎） 4限のみ  (5/18) 第5回 保健医療福祉政策：文献抄読4（山崎） 4限のみ  (5/25) 第6回 保健医療福祉政策：文献抄読5（山崎） 4限のみ  (6/1) 第7回 保健医療福祉政策：文献抄読6（山崎） 4限のみ  (6/8) 第8-9回 精神障害者と犯罪（下里）  (6/15) 第10-11回 医療観察法による医療（下里）  (6/22) 第12-13回 介護保険制度改正と今後の課題（川口）  (6/29) 第14-15回 介護福祉サービスの特性・介護マンパワー不足の検討（川口）</p> <p>日程は、文献購読などの運営上および外部講師の予定などで、開講後に変更となる可能性がある。具体的には、山崎担当分が3・4限の連続となる可能性、他の曜日になる可能性が考えられる（変更の場合は、受講生に相談をして決定する）。  上記日程にない木曜日は予備日とする。日程変更の可能性があるので、開講後日程が確定するまでは、木曜日午後はあけておいてもらうことが望ましい。</p>		
授業の進め方	山崎浩司：概要の説明後、指定文献の報告担当を決めて内容のレポート、ディスカッション形式で行なう。 下里誠二：講義、ディスカッション。 川口典男：講義、小レポートなど。		
テキスト、教材、参考書	山崎分（下記の文献から適宜講読箇所を決める） 稲葉陽二・藤原佳典編著（2013）『ソーシャル・キャピタルで解く社会的孤立 - 重層的予防策とソーシャルビジネスへの展望』ミネルヴァ書房 他、各講師が指定する。		
成績評価の方法	すべての講師の企画する内容に参加し、要求された課題をこなしていることが最低条件。 各講師が、それぞれの授業計画に基づき評価を行なう。 その上で、最終的に3人の評価を総合して全体評価を行なう。		
成績評価の基準	<p>指定文献に基づくレジュメ発表で求められる要件は、次のとおり</p> <p>文献の内容が過不足なく要約されている  要約だけでなく文献を読みこんだことで出てきた自分なりの疑問や問題意識が提示されている  全体の議論が極めて論理的に展開されている  自ら追加の関連文献を読み議論を発展させている</p> <p>4項目とも満たしていれば「かなり上にある」、～ できていれば「やや上にある」、と ができていれば「水準にある」とする。</p> <p>下里・川口の評価基準については、それぞれの初回授業で説明がある。</p>		
事前事後学習の内容	山崎担当分については、毎回の授業後にリーディング課題を課す。 それを踏まえ、レジュメを作成して次回の授業で発表する。 下里・川口担当分については、それぞれの初回授業で説明がある。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	履修予定の者は、必ず4月13日の第1回授業の前までに、履修予定である旨を山崎までメールで連絡してください。 hryamazaki@shinshu-u.ac.jp  講義全体のことについては、山崎まで。各回の内容については、各講師に質問してください。		

科目名	社会システム論 Social Systems	
担当教員	辻 竜平	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻共通 / 1年次	前期 金曜, 2時限
単位数、講義室	2単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	
	国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。	
授業概要	開講しない。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	開講しない。	
SBOs(行動目標)	開講しない。	
授業計画	開講しない。	
授業の進め方	開講しない。	
テキスト, 教材, 参考書	開講しない。	
成績評価の方法	開講しない。	
成績評価の基準	開講しない。	
事前事後学習の内容	開講しない。	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	開講しない。	

科目名	地域の生活と福祉 Community Life and Welfare
担当教員	徳井 丞次
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻共通 / 1 年次 前期 火曜, 6 時限 ,
単位数、講義室	2 単位
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。
授業概要	開講しない。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	開講しない。
SBOs（行動目標）	開講しない。
授業計画	開講しない。
授業の進め方	開講しない。
テキスト、教材、参考書	開講しない。
成績評価の方法	開講しない。
成績評価の基準	開講しない。
事前事後学習の内容	開講しない。
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	開講しない。

登録コード:MA710100	授業科目区分	選択科目, (周麻酔期) 選択科目
科目名	看護理論 Nursing Theory	
担当教員	松永 保子	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学分野共通科目 / 1年次	前期 集中,不定期
単位数、講義室	2単位	保健学科212講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	自らの得た成果を世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力を有するとともに、国際的な諸課題に積極的に取り組むことができる。 高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	グローバルな情報発信能力や国際的な諸課題に積極的に取り組む能力を獲得する。 高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力を獲得する。
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>卓越した看護実践の基盤となる主要な諸理論の形成と体系化の歴史の変遷と発展の過程を概説する。</li> <li>諸理論(ニース論, 対人関係論, システム論, 適応論, ケアリング等)は看護の臨床現場で出会う現象や看護実践にどのように活用されているのかを考察する。</li> <li>看護の諸理論の批判的な吟味をとおして, 看護教育・実践・研究における諸理論の活用と新たな看護理論の探求および看護学の発展への貢献の要素を検討する。</li> </ul>	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>卓越した看護実践の基盤となる主要な諸理論の形成と体系化および特性の分析をとおして看護理論の歴史の変遷と発展の過程を説明できる。</li> <li>看護の臨床現場で出会う現象や看護実践への諸理論の位置づけと活用について考察できる。</li> <li>看護の諸理論の批判的な吟味をとおして, 看護教育・実践・研究における諸理論の活用と新たな理論の探求および看護学の発展への貢献の要素を提案できる。</li> </ul>	
SB0s(行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護理論の歴史的發展の変遷を概観し, 看護モデルや理論と関連学問領域との関係について説明する。</li> <li>看護モデルや理論はどのような哲学や概念にもとづき構成されているかを分析し, 看護実践・教育・研究に適用していく際の利点と限界を説明する。</li> <li>看護の視点から新たな理論を開発するために必要な要素を自分の言葉で述べる。</li> </ul>	
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護理論の歴史的發展と変遷</li> <li>看護哲学: ナイチンゲールの看護論, ヘンダーソンの看護の定義など</li> <li>看護理論: ワトソンのケアリング, オレムのセルフケア理論, ロイの適応モデルなど</li> <li>中範囲理論: ストレス理論, 危機理論, 悲嘆, コーピング理論, 自己概念, 自己効力, アンドラゴジー, 病みの軌跡など</li> </ul> <p>* 実施日時については, 後日指示する。</p>	
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義</li> <li>プレゼンテーション</li> <li>ディスカッション</li> </ul>	
テキスト, 教材, 参考書	<p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>アン・マリナー・トメイ, マーサ・レイラ・アリグット / 都留伸子監訳: 看護理論家とその業績, 医学書院, 2004.</li> <li>Hesook Suzie Kim / 上鶴重美監訳: 看護学における理論思考の本質, 日本看護協会出版会, 2003.</li> <li>Fawcett J. 太田喜久子, 筒井真優美監訳: フォーセット看護理論の分析と評価, 廣川書店, 2001.</li> <li>城ヶ端初子監修: 実践に生かす看護理論19, 医学芸術社, 2005.</li> <li>佐藤栄子編: 事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論, 日総研出版会, 2005.</li> <li>Peggy L. Chinn.: Integrated Knowledge Development in Nursing, Mosby-Year Book, Edited by Warren T. Reich: Encyclopedia of Bioethics Third Edition, Macmillan, 2003. における「care」および「nursing」の項</li> </ol> <p>* その他, 適宜, 指示する。</p>	
成績評価の方法	<p>下記の4項目を総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出席状況</li> <li>プレゼンテーションの内容</li> <li>ディスカッションへの貢献度</li> <li>レポート</li> </ul>	
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーション やや不十分だが最低限の内容でのプレゼンテーションができれば「水準にある」 基本的な内容でのプレゼンテーションができれば「やや上にある」 ある程度先行研究を参照したプレゼンテーションができれば「かなり上にある」 先行研究を十分に参照したプレゼンテーションができれば「卓越している」</li> <li>レポート 問題の設定が適切である その問題の背景を説明できている その問題にどのような課題があるのかを指摘できている それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できている そのうえで自分の見解を提示できている</li> </ul> <p>加えるに, 教員を感心させるレベルであれば「卓越している」, から の5項目を満たしていれば「かなり上にある」, 4項目までできていれば「やや上にある」, 3項目までできていれば「水準にある」。</p> <p>秀: 100~90点、優: 89~80点、良: 79~70点、可: 69~60点</p>	
事前事後学習の内容	<p>【事前学習】 配布資料等の授業内容に相当する部分を読んで理解しておく。また, 予習をして質問等があれば, 授業で質問するようにする。</p> <p>【事後学習】 成績評価として, レポートの提出があるので, 授業後に理解できなかったところは, 配布資料等で繰り返し確認して, 理解する。</p>	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	<p>講義を実施し, その後, 学生主体のプレゼンテーションで授業を展開する。 プレゼンテーションの担当部分については, 事前に資料を用意する。</p>	

登録コード:MA710200		授業科目区分	選択科目, (周麻酔期) 必須科目
科目名	看護研究 Nursing Research		
担当教員	坂口 けさみ 他 五十嵐 久人, 山崎 浩司		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学分野共通科目 / 1 年次 前期 月曜, 3 時限		
単位数、講義室	2 単位 保健学科 2 2 3 講義室		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	看護研究を進める上で必要な専門的知識と研究手法を理解できる。	
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	独創的な観点で研究課題を見出す意義とその方法を理解できる。	
授業概要	看護における研究の意義と独自性, パラダイムによる前提の違いを理解した上で, 研究課題に適合する看護理論もしくは概念枠組みを用いた実証主義的な研究デザイン, あるいは現象そのものに迫ろうとする自然主義的な研究デザインにおいて, 適切に研究方法を選択する能力を身につける。クリティークを通して, 研究計画, 実施, 分析, 記述, 論文作成のそれぞれの段階で, 信頼性・妥当性もしくは信憑性・転用可能性などを高めるために研究者に求められる事柄を明確にする。		
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	看護における研究の意義と独自性について理解すると共に, 研究課題を明らかにする研究方法について, 適切な選択ができる能力を身につける。 また, 得られたデータの適切な分析方法について選択できると共に, 科学的な論文作成に必要な能力を身につける。		
SBOs (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・量的研究の種類や特徴を理解し, その進め方について述べるができる。</li> <li>・研究デザインについて理解できる。</li> <li>・量的研究において得られたデータの分析方法について, 適切な方法を選択すると共に, その内容について述べるができる。</li> <li>・科学的な論文作成方法について述べるができる。</li> <li>・質的研究の種類とその背景を理解し, 分かりやすく説明する。</li> <li>・質的研究課題とその課題に適した研究の種類を選択するにあたり, その根拠を述べる。</li> <li>・質的研究の特徴を説明する。</li> <li>・量的研究の各方法の概要と手順を説明する。</li> <li>・研究課題と研究遂行上の条件に応じ, 適切な調査・分析方法を選択する。</li> </ul>		
授業計画	<p>(坂口 けさみ / 5 回:4/10は, 3時限 223講義室 4/17, 24, 5/1, 8は, 1時限 222講義室)</p> <p>看護という現象をモデルないしは概念枠組みを用いて科学的に分析する一手法としての実験研究を取り上げ, 実験研究の原理原則について学ぶと共に, 様々な実験研究方法の看護領域への応用について論述する。</p> <p>(山崎 浩司 / 5 回:5/15, 22, 29, 6/5, 12)</p> <p>看護学と医療現場の研究における質的方法 (ex. 参加観察法, インタビュー法, 資料分析, 質的データの分析手法) の特徴について, 特にそれぞれの方法の拠って立つ認識論の違いについて検討することを通じて, 「量 対 質」という二分法に陥らない理解を目指す。 また, 実際の研究の遂行に際して, 「方法」を選択する前に重要となる, 認識論の選択, 問いの立て方などについても実習課題を通じて学ぶ。 さらに, 購読, 実習, ゲスト講師による研究の実際についての報告を合わせることで質的研究実施の全体プロセスについてもイメージを掴むことを目的とする。</p> <p>(五十嵐 久人 / 5 回:6/19, 26, 7/3, 10, 24)</p> <p>看護学と疫学研究との関係を視野においた研究課題と, 量的研究方法との関係を論じる。 研究課題に適した最良のデータ収集方法ならびにデータの特性に適した分析方法をどのように選定し, どのように結果を解釈するか論述する。</p>		
授業の進め方	坂口担当分は, 一部講義, 一部プレゼンテーションとディスカッションを行いながら進めていきます。 山崎担当分は, 担当者による講義, 担当学生のプレゼンテーション・ディスカッション, ゲスト講師の講義などを行います。 五十嵐担当分は, 担当学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心に進める予定です。		
テキスト, 教材, 参考書	<p>随時, 紹介します。なお, 手元にあると良いと思われる参考書は, 以下のとおりです。</p> <p>Polit DF, Beck CT. Nursing Research-Principles and Methods-7th ed. Lippincott W&amp;W, 2004. Creswell JW. Qualitative Inquiry and Research Design-choosing among Five Traditions. SAGE, 2006. Morse JM, Richards L. README FIRST for a User's Guide to Qualitative Methods. SAGE, 2002. D.F. ポリート, B.P. ハングラー, 押尾祥子他訳. 看護研究-原理と方法. 医学書院, 1994. (上記第3版の邦訳) よくわかる質的研究の進め方・まとめ方・看護研究のエキスパートをめざして. 医歯薬出版, 2007.</p>		
成績評価の方法	坂口: 看護研究の理解度や姿勢・考え方等を総合的に評価したいと思います。 山崎・五十嵐: 演習での報告, セミナーでの討議への参加などで総合的に評価します。		
成績評価の基準	レポートについては, (i) 問題の設定が適切であり, (ii) その問題の背景を説明できており, (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており, (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており, (v) その上で自分の見解を提示できており, かつ, 教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」, (i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」, 4項目までできていれば「やや上にある」, 3項目までできていれば「水準にある」。		
事前事後学習の内容	授業前後には必要な時間, 予習と復習にあてること。		
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	随時, 対応しようと思っておりますが, いないことが多いので, 事前にアポイントをおとりください。		

登録コード:MA710300	授業科目区分	選択科目, (周麻酔期) 選択科目
科目名	看護管理 Nursing Administration	
担当教員	深澤 佳代子	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学分野共通科目 / 1 年次	前期 木曜, 2 時限 木曜, 3 時限
単位数、講義室	2 単位	保健学科 2 1 2 講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	講義・ディスカッション等を通し、修得する。
	国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。	講義・ディスカッションを通し、修得する。
	地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	講義・ディスカッションを通し、修得する。
授業概要	2025年問題に伴い大きく変貌している医療の流れを鑑みながら、看護管理の基本を習得したうえで、看護管理上の課題に学生自らが着目し、様々な手法を用いながらその解決の方策を探ることができるようにする。	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	2025年に基本的な管理と組織に関する知識を学び、看護管理上の諸問題を多方面から捉えることができる。 また、患者や家族への支援者として、現状の看護管理上の課題や問題に気づくことができるとともに、リーダーとしての指導力を発揮した取り組みができる。	
SBOs (行動目標)	看護管理上の諸問題について、活用可能な理論を用いて、本質的な問題が特定でき、さらに問題解決の方策を考える。  1. 看護管理の基礎を理解する。 2. 人材育成の方法について理解する。 3. 公共政策などの行政、医療に関する最新の法制度について理解する。 4. 各自の業務や役割を振り返り、現在の日本の医療現場における課題に気づき、方策を立てることができる。	
授業計画	第 1 - 2 回: 看護の質保証と安全文化 第 3 - 4 回: 看護における人材育成 第 5 - 7 回: 看護集団におけるリーダーシップの取り方とモチベーションマネジメント 第 8 回: 看護の質の評価 第 9 - 15 回: 現在、自分が抱えている看護管理上の課題を明確にし、文献検索を行い、プレゼンテーションを行う。	
授業の進め方	講義とディスカッションを中心に進める。	
テキスト、教材、参考書	適宜、提示する。	
成績評価の方法	開講回数2/3以上の出席の学生に成績評価を行う。 さらに授業への参加度、課題レポート等の内容を総合的に判断し、60%を合格ラインとする。	
成績評価の基準	プレゼンテーションについては課題のまとめ方の内容や発表内容から問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、(i) から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある: 秀」、4項目までできていれば「やや上にある: 優」、3項目までできていれば「水準にある: 良」と判断する。	
事前事後学習の内容	教員の提示した課題に関し、事前に検討し、考えを明確にして参加する。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	希望者は、看護GPなどの講義のみを一部を受講できる。 土曜日開講であるが、出席を半日(3時間)出席で2回分の授業出席に読み替え可能である。	

登録コード:MA720100	授業科目区分	選択科目, (周麻酔期) 選択科目
科目名	看護教育学・基礎看護学特論 Special Lectures in Science of Nursing Education and Fundamental Nursing	
担当教員	松永 保子 他 柳澤 節子, 小林 千世	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護教育学・基礎看護学領域 / 1年次 前期 月曜, 1時限 月曜, 6時限	
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	看護職者および医療職者に必要な専門的知識や技術、高度な実践能力を獲得する。
	地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	他分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を獲得する。
授業概要	教育学の基本的な概念・理念に基づき教育目的・目標の設定, 教育内容の精選・組織化, 教育課程の評価の視点から看護学教育について分析し, 高度な問題解決能力を身につけた看護実践者を育成できる看護教育課程の体系化を論じる。 さらに, 看護継続教育に関して, 看護職者が従事する施設の教育および看護継続教育機関の教育や看護者個々の学習を支援する看護継続教育を探求する。	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護教育の目的・目標の設定, 教育内容の精選・組織化, 教育課程の評価の視点から看護学教育について分析・考察する。</li> <li>看護教育課程のカリキュラムについて分析・考察する。</li> <li>看護継続教育プログラムについて分析・考察する。</li> </ul>	
SBOs (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護教育の目的・目標の設定, 教育内容の精選・組織化, 教育課程の評価の視点から看護学教育について説明できる。</li> <li>看護教育課程のカリキュラムについて説明できる。</li> <li>看護継続教育プログラムについて説明できる。</li> </ul>	
授業計画	第1～5回 看護基礎教育におけるカリキュラムの構造の分析 第6～10回 継続教育における現行教育プログラムについての分析 第11～15回 看護基礎教育と継続教育との関連性についての分析・考察 看護基礎教育と継続教育の今後の課題  * 実施日時については, 後日指示する。	
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義</li> <li>VTR視聴</li> <li>プレゼンテーション</li> <li>ディスカッション</li> <li>レポート</li> </ul>	
テキスト, 教材, 参考書	適宜, 指示する。	
成績評価の方法	下記の4項目を総合的に評価する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>出席状況</li> <li>プレゼンテーションの内容</li> <li>ディスカッションへの貢献度</li> <li>レポート</li> </ul>	
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーション やや不十分だが最低限の内容でのプレゼンテーションができれば「水準にある」 基本的な内容でのプレゼンテーションができれば「やや上にある」 ある程度先行研究を参照したプレゼンテーションができれば「かなり上にある」 先行研究を十分に参照したプレゼンテーションができれば「卓越している」</li> <li>レポート 問題の設定が適切である その問題の背景を説明できている その問題にどのような課題があるのかを指摘できている それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できている そのうえで自分の見解を提示できている</li> </ul> 加えるに, 教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」, から の5項目を満たしていれば「かなり上にある」, 4項目までできていれば「やや上にある」, 3項目までできていれば「水準にある」。  秀: 100～90点、優: 89～80点、良: 79～70点、可: 69～60点	
事前事後学習の内容	【事前学習】 基礎看護学および看護教育学に関連する文献を事前に概観した上で授業に臨むようにする。  【事後学習】 授業の中で疑問に感じたり, 自身の知識が足りないと感じた事柄に関しては, 文献等を通して復習するように取り組んでください。	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	学生主体で授業を展開する。 プレゼンテーションの担当部分については, 事前にレジメを用意する。	

科目名	看護教育学・基礎看護学方法特論 Special Seminar in Science of Nursing Education and Fundamental Nursing	
担当教員	松永 保子 他 柳澤 節子, 小林 千世	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護教育学・基礎看護学領域 / 1年次	前期 月曜, 2時限 月曜, 7時限
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	看護職者および医療職者に必要な専門的知識や技術、高度な実践能力を獲得する。
	地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	他分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を獲得する。
授業概要	教育方法論および学習理論を活用しながら、看護実践力の向上につながる学習形態や教材の開発、看護学実習の展開を探究する。加えて、これらの理論を活用して、看護の対象が自ら健康的な生活へと価値観や認知・行動を変化することができるための教育方法と効果的で専門的な実践について探究する。 第1回から第10回では、看護実践力の向上につながる看護基礎教育および継続教育において技術教育の内容、教育方法、教育評価に関して探究する。 さらに対象の価値観や自己認知への教育的なアプローチと行動変容に関して分析し、看護実践につながる専門的な方法を探究する。 第11回から第15回では、がん、終末期などの患者・家族に対して教育理論や学習理論を活用して、自ら健康的な生活へと価値観や認知・行動を変化することができるための効果的な教育方法について探究する。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護実践力の向上につながる学習形態や教材開発、看護学実習の展開を探究する。</li> <li>看護の対象が自らの価値観や認知、行動を変化させるための教育方法と専門的な実践について探究する。</li> <li>看護基礎教育および継続教育における技術教育の内容、教育方法、教育評価について探究する。</li> <li>対象の価値観や自己認知への教育的アプローチと行動変容について分析し、看護実践につながる専門的な方法を探究する。</li> <li>患者・家族に対して教育理論や学習理論を活用し、自らの価値観や認知、行動を変化させるための効果的な教育方法について探究する。</li> </ul>	
SB0s（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護実践力の向上につながる学習形態や教材開発、看護学実習の展開を探究・考察できる。</li> <li>看護の対象が自らの価値観や認知、行動を変化させるための教育方法と専門的な実践について探究できる。</li> <li>看護基礎教育および継続教育における技術教育の内容、教育方法、教育評価について探究できる。</li> <li>対象の価値観や自己認知への教育的アプローチと行動変容について分析し、看護実践につながる専門的な方法について探究できる。</li> <li>患者・家族に対して教育理論や学習理論を活用し、自らの価値観や認知、行動を変化させるための効果的な教育方法について探究できる。</li> </ul>	
授業計画	<p>第1～5回 看護基礎教育および継続教育における技術教育の内容、教育方法、教育評価に関して探究・考察する。</p> <p>第6～10回 対象の価値観や自己認知への教育的なアプローチと行動変容に関する分析や看護実践につながる専門的な方法を探究する。</p> <p>第11～15回 患者・家族についての教育理論や学習理論を講義する。健康的な生活へと価値観や認知・行動を変化することができるための教育理論や学習理論を活用した効果的な教育方法について事例を通して探究する。</p> <p>* 実施日時については、後日指示する。</p>	
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義</li> <li>VTR視聴</li> <li>プレゼンテーション</li> <li>ディスカッション</li> <li>レポート</li> </ul>	
テキスト、教材、参考書	適宜、指示する。	
成績評価の方法	<p>下記の4項目を総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出席状況</li> <li>プレゼンテーションの内容</li> <li>ディスカッションへの貢献度</li> <li>レポート</li> </ul>	
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーション やや不十分だが最低限の内容でのプレゼンテーションができれば「水準にある」 基本的な内容でのプレゼンテーションができれば「やや上にある」 ある程度先行研究を参照したプレゼンテーションができれば「かなり上にある」 先行研究を十分に参照したプレゼンテーションができれば「卓越している」</li> <li>レポート 問題の設定が適切である その問題の背景を説明できている その問題にどのような課題があるのかを指摘できている それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できている そのうえで自分の見解を提示できている</li> </ul> <p>加えるに、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、から の5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」。</p> <p>秀：100～90点、優：89～80点、良：79～70点、可：69～60点</p>	
事前事後学習の内容	<p>【事前学習】 基礎看護学および看護教育学に関連する文献を事前に概観した上で授業に臨むようにする。</p> <p>【事後学習】 授業の中で疑問に感じたり、自身の知識が足りないと感じた事柄に関しては、文献等を通して復習するように取り組んでください。</p>	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	学生主体で授業を展開する。 プレゼンテーションの担当部分については、事前にレジメを用意する。	

科目名	看護教育学・基礎看護学演習 Practice in Science of Nursing Education and Fundamental Nursing	
担当教員	松永 保子 他 柳澤 節子, 小林 千世	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護教育学・基礎看護学領域 / 1年次 後期 月曜, 1時限 月曜, 6時限	
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。	国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究および活動に参画できる能力を獲得する。
	地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	他分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を獲得する。
授業概要	基礎看護教育の講義・演習への参加を通して、看護学教育課程や看護学教育方法、看護教育制度における課題を明確にする。 課題を説明する上で必要な論理的、系統的、組織的研究を行う基礎的能力を修得するために、学生の関心領域あるいは重要課題を探究する。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護学教育課程や看護学教育方法、教育制度における疑問・課題を明確にする。</li> <li>課題説明のために必要な論理的、系統的、組織的研究を行う基礎的能力を修得する。</li> </ul>	
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護学教育課程や看護学教育方法、教育制度における疑問・課題を明確にできる。</li> <li>論理的、系統的、組織的研究を行う基礎的能力を修得できる。</li> </ul>	
授業計画	<p>第1～5回 課題を説明する上で必要な論理的、系統的、組織的研究を行う基礎的能力を修得する。</p> <p>第6～10回 基礎看護教育の講義・演習への参加を通して、看護学教育課程や看護学教育方法、教育制度における課題を分析する。</p> <p>第11～15回 学生の関心領域あるいは重要課題について探究する。</p> <p>* 実施日時については、後日指示する。</p>	
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義</li> <li>演習</li> <li>ディスカッション</li> </ul>	
テキスト、教材、参考書	適宜、指示する。	
成績評価の方法	<p>下記の3項目を総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出席状況</li> <li>ディスカッションの内容および貢献度</li> <li>レポート</li> </ul>	
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート <ul style="list-style-type: none"> <li>問題の設定が適切である</li> <li>その問題の背景を説明できている</li> <li>その問題にどのような課題があるのかを指摘できている</li> <li>それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できている</li> <li>そのうえで自分の見解を提示できている</li> </ul> </li> </ul> <p>加えるに、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、 から の5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」。</p> <p>秀：100～90点、優：89～80点、良：79～70点、可：69～60点</p>	
事前事後学習の内容	<p>【事前学習】 基礎看護学および看護教育学に関連する文献を事前に概観した上で授業に臨むようにする。</p> <p>【事後学習】 授業の中で疑問に感じたり、自身の知識が足りないと感じた事柄に関しては、文献等を通して復習するように取り組んでください。</p>	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<p>学生主体で授業を展開する。 プレゼンテーションの担当部分については、事前にレジメを用意する。</p>	

登録コード:MA720400		授業科目区分	選択科目
科目名	看護教育学・基礎看護学演習 Practice in Science of Nursing Education and Fundamental Nursing		
担当教員	松永 保子 他 柳澤 節子, 小林 千世		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護教育学・基礎看護学領域 / 1年次 後期 月曜, 2時限 月曜, 7時限		
単位数、講義室	2 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。	国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究および活動に参画できる能力を獲得する。	
	地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	他分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を獲得する。	
授業概要	看護基礎教育における効果的な看護学実習の展開について基礎・成人・老年看護学領域の実習をもとに、看護学各領域に共通した実習展開を探究する。さらに看護教育における臨地実習の教授＝学習活動場面を学習者の視点から分析し、教育上の課題を見出し解決する教育方法と臨床における指導的役割を果たす教育方法を探究する。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な看護学実習の展開について看護学各領域に共通した実習展開を探究・分析する。</li> <li>看護教育における臨地実習の教授＝学習活動場面を学習者の視点から分析する。</li> <li>教育上の課題を見出し解決する教育方法を探究する。</li> <li>臨床における指導的役割を果たす教育方法を探究する。</li> </ul>		
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護学各領域に共通した実習展開について分析できる。</li> <li>臨地実習の教授＝学習活動場面を学習者の視点から分析できる。</li> <li>教育上の課題を見出し解決する教育方法を見出すことができる。</li> <li>臨床における指導的役割を果たす教育方法を見出すことができる。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1～5回 臨地実習の教授＝学習活動場面を学習者の視点から分析する。  第6～10回 基礎看護学領域の実習に参加し、学習者の視点から観察する。  第11～15回 参加・観察した実習展開について考察し、課題を抽出する。</p> <p>* 実施日時については、後日指示する。</p>		
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>講義</li> <li>実習</li> <li>ディスカッション</li> </ul>		
テキスト、教材、参考書	適宜、指示する。		
成績評価の方法	<p>下記の3項目を総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出席状況</li> <li>ディスカッションの内容および貢献度</li> <li>レポート</li> </ul>		
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート <ul style="list-style-type: none"> <li>問題の設定が適切である</li> <li>その問題の背景を説明できている</li> <li>その問題にどのような課題があるのかを指摘できている</li> <li>それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できている</li> <li>そのうえで自分の見解を提示できている</li> </ul> </li> </ul> <p>加えるに、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、からの5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」。</p> <p>秀：100～90点、優：89～80点、良：79～70点、可：69～60点</p>		
事前事後学習の内容	<p>【事前学習】  基礎看護学および看護教育学に関連する文献を事前に概観した上で授業に臨むようにする。</p> <p>【事後学習】  授業の中で疑問に感じたり、自身の知識が足りないと感じた事柄に関しては、文献等を通して復習するように取り組んでください。</p>		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<p>学生主体で授業を展開する。  プレゼンテーションの担当部分については、事前にレジメを用意する。</p>		

登録コード:MA720500		授業科目区分	必修科目
科目名	看護教育学・基礎看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Science of Nursing Education & Fundamental Nursing		
担当教員	松永 保子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護教育学・基礎看護学領域 / 2 年次 通年 月曜, 3 時限 月曜, 4 時限 , 不定期		
単位数、講義室	10 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	看護職者および医療職者に必要な独創的な観点で研究を推進する能力を獲得する。	
	国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。	国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究および活動に参画できる能力を獲得する。	
授業概要	看護教育学領域に関する研究テーマを設定し、適切な研究方法を選択して研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、研究論文を完成させる。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護教育学領域に関する研究テーマを設定する。</li> <li>適切な研究方法を選択して研究計画書を作成する。</li> <li>データ収集・分析を行い、研究論文を完成する。</li> </ul>		
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究テーマを設定できる。</li> <li>適切な研究方法を選択して研究計画書が作成できる。</li> <li>倫理委員会提出用の書類が作成できる。</li> <li>データの収集ができる。</li> <li>データの分析ができる。</li> <li>研究論文を作成することができる。</li> <li>研究成果のプレゼンテーションができる。</li> </ul>		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>文献講読会と研究ミーティングに基づいた研究テーマの設定</li> <li>研究計画の立案</li> <li>研究計画書の作成</li> <li>倫理委員会提出用書類の作成</li> <li>調査・実験の実施</li> <li>研究データの収集およびその処理</li> <li>修士論文の作成</li> <li>研究成果のプレゼンテーション</li> </ul> <p>* 実施日時については、後日指示する。</p>		
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディスカッション</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul>		
テキスト、教材、参考書	適宜、指示する。		
成績評価の方法	<p>下記の6項目を総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出席状況</li> <li>研究への取り組み</li> <li>ディスカッションの内容</li> <li>プレゼンテーションの内容</li> <li>修士論文作成状況</li> <li>修士論文</li> </ul>		
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>修士論文</li> </ul> <p>研究テーマの設定が適切である、研究テーマの背景を説明できている、研究テーマにどのような課題があるのかを指摘できている、それらの課題に対して、計画立案、計画書の作成ができている、倫理委員会提出用書類の作成ができている、研究データの収集およびその処理ができている、博士論文の作成ができている、研究成果のプレゼンテーションができている、加えるに、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、からの8項目を満たしていれば「かなり上にある」、7項目までできていれば「やや上にある」、6項目までできていれば「水準にある」。</p> <p>秀：100～90点、優：89～80点、良：79～70点、可：69～60点</p>		
事前事後学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前事後ともに、研究テーマに関連した文献を多読すること。</li> <li>プレゼンテーションの方法を学習すること。</li> <li>修士論文を作成すること。</li> </ul>		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	早めに研究テーマを決めて、修士論文の作成に取り組んでほしい。		

登録コード:MA723100		授業科目区分	選択科目
科目名	成人看護学特論 Specal Lectures in Adult Health Nursing and Critical Care		
担当教員	深澤 佳代子 他 池上 俊彦, 寺内 英真, 渡邊 千春		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 1年次 前期 月曜, 1時限 月曜, 6時限		
単位数、講義室	2 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。		講義を通して修得する。
	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。		講義を通して修得する。
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。		講義を通して修得する。
授業概要	成人期にある対象（大人）を取り巻く健康状態を維持するうえで障害となる様々な課題について最新の知識を学ぶとともに、プレゼンテーション等を通して深めていく。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	成人期にある対象（大人）を取り巻く健康上の様々な課題に気づき、科学的に対応できる力を修得できる。		
SBOs（行動目標）	成人に関連した様々な理論を学び、応用する力を養う。		
授業計画	成人期の健康を阻む状況，特にクリティカルについて学ぶ。 第1～4回 外科疾患における看護上の課題と対応 第5～10回 クリティカルケア領域（周術期，救命救急，災害急性期）における看護上の課題と対応 第11～12回 がん看護の課題と対応 第13～15回 受講者が現在の医療と看護ついて課題と考える点をテーマにプレゼンテーションとディスカッション		
授業の進め方	講義，各自のプレゼンテーション		
テキスト，教材，参考書	適宜，紹介する。		
成績評価の方法	開講日数の2/3以上の出席者を評価の対象とする。 また，課題についてプレゼンテーションならびにディスカッションの内容を評価し，60%を合格ラインとする。		
成績評価の基準	プレゼンテーションについては課題のまとめ方の内容や発表内容から問題の設定が適切であり，(ii) その問題の背景を説明できており，(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており，(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており，(v) その上で自分の見解を提示できており，(i) から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある：秀」，4項目までできていれば「やや上にある：優」，3項目までできていれば「水準にある：良」と判断する。		
事前事後学習の内容			
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	平成29年度は開講しない。		

登録コード:MA723200		授業科目区分	選択科目
科目名	成人看護学方法特論 Special Seminar for Caring in Adult Health Nursing and Critical Care		
担当教員	深澤 佳代子 他 池上 俊彦, 寺内 英真, 渡邊 千春		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 1年次 前期 月曜, 2時限 月曜, 7時限		
単位数、講義室	2 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。		講義, ディスカッション通して修得する。
	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。		講義, ディスカッション通して修得する。
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。		講義, ディスカッション通して修得する。
授業概要	成人期にある対象（大人）を取り巻く健康状態を維持するうえで障害となる様々な課題と支援のために有用な関連分野の諸理論や実践活動を文献を通し、探求する。それらを通し、実践と研究を関連つける力を修得する。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	健康状態が傷害された成人期の対象（大人）が支援を必要とする状況を的確に分析し、諸理論を活用できる。		
SBOs（行動目標）	健康状態が傷害された成人期の対象（大人）を支援する諸理論について探求し、的確な活用方法を学ぶ。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリティカルケアにおける患者・家族を支援する諸理論の紹介。</li> <li>・がん看護における患者・家族を支援する諸理論の紹介。</li> <li>・学生のプレゼンテーション（各自が探求したいテーマに沿って文献を持ち寄り、ディスカッションを行い、まとめて発表する）</li> </ul>		
授業の進め方	講義, ディスカッション		
テキスト, 教材, 参考書	適宜, 紹介する。		
成績評価の方法	開講日数の2/3以上の出席で評価を行う。 授業への参加度, プレゼンテーション, ディスカッションの内容を総合評価し, 60%を合格ラインとする。		
成績評価の基準	プレゼンテーションについては課題のまとめ方の内容や発表内容から問題の設定が適切であり, (ii) その問題の背景を説明できており, (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており, (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており, (v) その上で自分の見解を提示できており, (i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある: 秀」, 4項目までできていれば「やや上にある: 優」, 3項目までできていれば「水準にある: 良」と判断する。		
事前事後学習の内容			
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	平成29年度は開講しない。		

科目名	成人看護学演習 Practice in Adult Nursing	
担当教員	深澤 佳代子 他 寺内 英真, 渡邊 千春	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 1年次	後期 月曜, 1時限 月曜, 6時限
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において独自の観点で研究を推進する能力を有する。	授業を通し、修得する。
	地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	授業を通し、修得する。
授業概要	成人看護学領域における様々な問題点を中心に国内外の文献を講読し、研究課題に関する精選を行う。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	成人看護学領域の文献の中から学生自身の研究課題とする分野を明確にする。	
SBOs(行動目標)	国内外の成人看護学領域の文献をレビューし、クリティークができる。	
授業計画	担当教員が、成人看護学領域の研究の動向をプレゼンテーションを行い、それについてディスカッションを行う。 また、学生自身が今まで着手した研究についてプレゼンテーションし、それについてディスカッションを通して自分の研究分野を明確にしていく。	
授業の進め方	プレゼンテーションならびにディカッションで進めていく。	
テキスト, 教材, 参考書	随時, 提示する。	
成績評価の方法	開講回数の2/3以上のを評価の対象とする。 また, 授業参加度から総合判断し, 60%以上を合格とする。	
成績評価の基準	プレゼンテーションについては課題のまとめ方の内容や発表内容から問題の設定が適切であり, (ii) その問題の背景を説明できており, (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており, (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており, (v) その上で自分の見解を提示できており, (i) から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある:秀」, 4項目までできていれば「やや上にある:優」, 3項目までできていれば「水準にある:良」と判断する。	
事前事後学習の内容	プレゼンテーション前には必ずその分野の文献検索を行うこと。 また, ディスカッションや自己の学びの中から自分の研究課題を明確にできるように事後学習を行うこと。	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	平成29年度は開講しない。	

科目名	成人看護学演習 Practice in Adult Nursing	
担当教員	深澤 佳代子 他 寺内 英真, 渡邊 千春	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 1年次	後期 月曜, 2時限 月曜, 7時限
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において独自の観点で研究を推進する能力を有する。	授業を通し, 修得する。
	地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	授業を通し, 修得する。
授業概要	成人看護学演習Ⅰで精選した研究課題に関して, それを実施するための調査・測定・分析方法等について論究し, 研究に必要な各種条件を整える。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	成人看護学演習 をもとに, 自分の研究課題を焦点化する。	
SBOs(行動目標)	国内外の文献を精査し, それらの研究手法を学ぶ。	
授業計画	学生の研究テーマを助産し, 内容を相談しながら進める。	
授業の進め方	プレゼンテーションならびにディスカッション	
テキスト, 教材, 参考書	随時, 提示する。	
成績評価の方法	開講回数の2/3以上の出席を評価対象とする。 さらに授業参加度から総合的に判断し, 60%以上を合格とする。	
成績評価の基準	プレゼンテーションについては課題のまとめ方の内容や発表内容から問題の設定が適切であり, (ii) その問題の背景を説明できており, (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており, (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており, (v) その上で自分の見解を提示できており, (i) から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある:秀」, 4項目までできていれば「やや上にある:優」, 3項目までできていれば「水準にある:良」と判断する。	
事前事後学習の内容	プレゼンテーション前には必ずその分野の文献検索を行うこと。 また, ディスカッションや自己の学びの中から自分の研究課題を焦点化できるように事後学習を行うこと。	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	平成29年度は開講しない。	

登録コード:MA724301		授業科目区分	必修科目
科目名	成人看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Adult Nursing		
担当教員	深澤 佳代子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 2 年次	通年	月曜, 3 時限 月曜, 4 時限 , 不定期
単位数、講義室	10 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	授業を通し、修得する。	
	保健・医療・福祉の現場において独自の観点で研究を推進する能力を有する。	授業を通し、修得する。	
	地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	授業を通し、修得する。	
授業概要	成人看護領域における研究テーマを設定し、適切な研究方法を用いて研究を行い、修士論文を完成させる。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	研究テーマの設定から、研究論文作成の一連の過程を通し、研究者としての態度および基礎的能力、論理的思考を育成する。		
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究テーマを設定できる。</li> <li>自分の研究テーマについて適切な研究デザインを選択し、研究計画書を作成できる。</li> <li>研究者としての倫理的態度を修得できる。</li> <li>研究計画に沿って、研究を行うことができる。</li> <li>一貫性のある論理的な研究論文を完成できる。</li> <li>論文を学会等で公表できる。</li> </ul>		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究計画書の作成</li> <li>研究の実施</li> <li>論文作成</li> <li>学会および学会誌への発表の準備</li> </ul>		
授業の進め方	プレゼンテーション 研究指導		
テキスト、教材、参考書	適宜、提示する。		
成績評価の方法	ゼミ等の開講回数の2/3以上を評価対象とする。 また、論文作成の過程および論文内容を総合的に判断し、60%以上を合格とする。		
成績評価の基準	<p>1．問題の設定が適切である，2．その問題の背景を論理的に説明できる，3．その問題にどのような課題があるのかを指摘できており，4．それらの課題に対して既存の知見や学説が提示する解決法が適切に学習できており，5．自身の見解を提示できており，且つ教員に感動させるレベルにあり，6．その研究成果を論理的に分かりやすくプレゼンテーションできれば『卓越している』とする。</p> <p>1～6の5項目を満たしている場合、「かなり上にある：秀」，4項目満たしている場合，「やや上にある：優」，3項目を満たしている場合は「水準にある：良」とする。</p>		
事前事後学習の内容	自分の研究の分野に関する最新の研究を検索すること。 さらに定期的に指導教員とコンタクトを取り、自己の研究計画を見直し、適宜、研究を修正する。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	平成29年度は開講しない。		

登録コード:MA724302		授業科目区分	必修科目
科目名	成人看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Adult Nursing		
担当教員	池上 俊彦		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 2 年次	通年	
単位数、講義室	10 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	専門職としての立場から課題解決に必要な研究を推進できる。	
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	専門職としての立場から研究課題を導くことができる。	
授業概要	成人看護学領域における研究テーマを設定し、適切な研究方法を用いて研究を行い、修士論文を完成させる。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.成人看護学領域に関する研究テーマを設定する。</li> <li>2.適切な研究方法を設定し、研究計画書を作成する。</li> <li>3.データの収集・分析を行い、研究論文を完成させる。</li> </ol>		
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.研究テーマを設定できる。</li> <li>2.適切な研究方法を設定し、研究計画書を作成することができる。</li> <li>3.倫理委員会提出用書類を作成。</li> <li>4.データの収集と分析を行うことができる。</li> <li>5.研究論文を作成することができる。</li> <li>6.研究成果のプレゼンテーションができる。</li> </ol>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.関心領域に関連した文献検索と抄読会</li> <li>2.研究テーマに関するミーティングと研究計画書の立案</li> <li>3.研究計画書の作成</li> <li>4.倫理委員会提出用書類の作成</li> <li>5.調査・研究の実施</li> <li>6.データ収集・分析</li> <li>7.修士論文の作成</li> <li>8.研究成果のプレゼンテーション資料の作成とプレゼンテーション</li> </ol>		
授業の進め方	プレゼンテーションとディスカッションに基づいて進める。		
テキスト、教材、参考書	特に指定しないが、研究課題に従って適宜、紹介する。		
成績評価の方法	授業計画各プロセスの取り組み状況、論文内容により総合的に評価する。論文内容に関しては複数査読者に意見を求める。		
成績評価の基準	論文内容については(i)問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、(i) から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある：秀」、4項目までできていれば「やや上にある：優」、3項目までできていれば「水準にある：良」と判断する。		
事前事後学習の内容	関心内容により、その都度指示する。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問・相談には、随時、対応します。 池上研究室： tikegami@shinshu-u.ac.jp		

登録コード:MA725100		授業科目区分	選択科目
科目名	老年看護学特論 Special Lectures in Geriatric Nursing		
担当教員	會田 信子 他 伊澤 淳, 山崎 浩司		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年看護学領域 / 1年次		前期 月曜, 1時限 月曜, 6時限
単位数、講義室	2 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づいた臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	老年看護学領域の諸問題に対して、医学・看護学・社会学的側面から分析できる。	
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	老年看護学領域において独創的な観点で研究課題を見出すことができる。	
	地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	諸問題を多面的に分析し、看護の専門性を発揮する連携の在り方を探ることができる。	
授業概要	<p>老年期にある人のQOLを維持し高めるための看護実践を検討する上での基盤となる様々な課題について、その問題の所在を多角的に捉え理解を深めることにより、保健・医療・福祉の現場における成人・老年看護学の諸課題に関する情報収集・分析能力、および専門分野の高度な実践能力および研究能力の素地を培う。</p> <p>* 本授業は、男女共同参画に関する内容を含んでいます。</p>		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>とりあげた各課題について理解を深め、老年期にある人の健康課題の所在とその捉え方について視野を広げる。</li> <li>保健・医療・福祉の現場における老年看護学の諸課題について、各自の臨床経験と照らしつつ理解を深める。</li> </ol>		
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>老年看護学領域における主要概念や諸理論の背景、内容、看護実践への適用について理解し、限界や課題について自己の考えを述べるができる。</li> <li>老年期に多くみられる疾患・障害のメカニズムと臨床的課題の特徴を理解し、看護実践における対策のあり方を考えることができる。</li> <li>臨床における具体的な倫理的課題の対応方法を学び、自らの倫理的課題に対する意識を吟味し考察する。</li> </ol>		
授業計画	<p>第1回（4月10日）オリエンテーション  第2回（4月17日）老年看護学領域における主要概念と諸理論の背景  第3回（4月17日）老年看護学領域における主要概念と諸理論の背景  第4回（4月24日）老年看護学領域における主要概念と諸理論の背景  第5回（5月8日）老年看護学領域における主要概念と諸理論の背景  第6回（5月8日）老年看護学領域における主要概念と諸理論の背景  第7回（5月15日）老年看護学領域における主要概念と諸理論の背景  第8回（5月15日）老年看護学領域における主要概念と諸理論の背景  第9回（5月22日）老年期に多くみられる疾患・障害のメカニズムと臨床的課題  第10回（5月22日）老年期に多くみられる疾患・障害のメカニズムと臨床的課題  第11回（5月29日）老年期に多くみられる疾患・障害のメカニズムと臨床的課題  第12回（6月5日）老年期における保健医療福祉に関する社会学的課題  第13回（6月19日）老年期における保健医療福祉に関する社会学的課題  第14回（6月26日）老年期における保健医療福祉に関する社会学的課題  第15回（7月3日）まとめ</p> <p>* 実施日程および担当者等に変更がある場合は、初回オリエンテーション時にお知らせします。</p>		
授業の進め方	講義，プレゼンテーション，ディスカッション		
テキスト，教材，参考書	適宜，指示・紹介する。		
成績評価の方法	<p>下記について総合的に判断する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>出席状況</li> <li>プレゼンテーション</li> <li>ディスカッション</li> <li>講義担当者の課題に対する達成度</li> </ol>		
成績評価の基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>出席状況 全回出席を原則とする。全回数の1/3以上を欠席した場合は、単位認定を受けることができない。</li> <li>プレゼンテーション やや不十分だが最低限の内容でのプレゼンテーションができれば「水準にある」 基本的な内容でのプレゼンテーションができれば「やや上にある」 ある程度の先行研究を参照したプレゼンテーションができれば「かなり上にある」 先行研究を十分に参照したプレゼンテーションができれば「卓越している」</li> <li>ディスカッション それぞれのディスカッションについて、コミュニケーション力（聴く、話すことができる）、主体性・積極性（議論への参加度）、論理性（発言内容に根拠と一貫性があるか）、チームワーク（アサーティブな態度、ディスカッションの活性化など）、影響力（コンセンサス形成や議論終結に向けての貢献度など）の視点から評価する。</li> </ol>		
事前事後学習の内容	講義担当者が、その都度、事前・事後の学習内容・方法等について提示します。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	講義全体に関する質問は、主担当者の會田 ( aida@shinshu-u.ac.jp ) に、それぞれの講義内容・方法については、各講義担当者に質問してください。		

登録コード:MA725200	授業科目区分	選択科目
科目名	老年看護学方法特論 Special Seminar in Geriatric Nursing	
担当教員	會田 信子 他 伊澤 淳, 山崎 浩司	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年看護学領域 / 1年次	前期 月曜, 2時限 月曜, 7時限
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	ライフステージに応じた看護介入や評価のあり方を分析する能力を涵養する。
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	老年看護学領域において独創的な観点で研究課題を見出すことができる。
	地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	諸問題を多面的に分析し、看護の専門性を発揮する連携の在り方を探ることができる。
授業概要	生涯発達論の視点と中範囲理論を基盤として、老年期にある人を対象とした事例研究における看護介入の方法や課題などを分析し、ライフステージの特性に応じた対象のQOL(生命・生活・人生・命の質)を高めるための看護介入のあり方と評価方法、それを実践現場で適用していく上での倫理的・社会的・法的・政策的課題について検討する。 それらを通して、医療・保健・福祉の現場における科学的根拠に基づく臨床問題解決能力や情報発信能力、さらに協同連携能力の素地を培うことを目的とする。  * 本授業は、男女共同参画に関する内容を含んでいます。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	1.看護介入を必要とする老年期にある人を生涯発達の視点と中範囲理論を用いて分析することにより、家族・地域・社会で生活をする個人を全人的に理解することができる。 2.事例研究をもとに、中範囲理論から看護介入のあり方を分析することによって、看護を必要とする対象の現象を多面的に分析し、臨床における看護実践への適用を検討することができる。 3.看護介入を実践現場で適用していく上で不随する倫理的・社会的・法的・政策的課題を認識することができ、それらの障壁を解決していくためのビジョンを考察することができる。	
SBOs(行動目標)	1.老年期にある人を対象とした事例研究をもとに、生涯発達の観点からそれぞれのライフステージに応じた看護支援のあり方を、中範囲理論を基盤として考察することができる。 2.老年期にある人に対する上記1の看護支援の評価のあり方・方法について考察することができる。 3.老年期にある人に対する上記1の看護支援を、実践現場で適用していく上での倫理的・社会的・法的もしくは政策的側面から課題を考察することができる。	
授業計画	第1回(4月10日)オリエンテーション 第2回(4月24日)生涯発達論からみた老年期の特徴 第3回(5月8日)事例研究A:活用した中範囲理論と実践への適用 第4回(5月8日)事例研究A:活用した中範囲理論と実践への適用 第5回(5月15日)事例研究A:活用した中範囲理論と実践への適用 第6回(5月22日)事例研究B:活用した中範囲理論と実践への適用 第7回(5月22日)事例研究B:活用した中範囲理論と実践への適用 第8回(5月29日)事例研究B:活用した中範囲理論と実践への適用 第9回(6月5日)事例研究C:活用した中範囲理論と実践への適用 第10回(6月5日)事例研究C:活用した中範囲理論と実践への適用 第11回(6月12日)事例研究C:活用した中範囲理論と実践への適用 第12回(6月19日)事例研究D:活用した中範囲理論と実践への適用 第13回(6月19日)事例研究D:活用した中範囲理論と実践への適用 第14回(6月26日)事例研究D:活用した中範囲理論と実践への適用 第15回(7月3日)まとめ  * 実施日程および担当者等に変更がある場合は、初回オリエンテーション時にお知らせします。	
授業の進め方	講義, プレゼンテーション, ディスカッション	
テキスト, 教材, 参考書	適宜, 指示・紹介する。	
成績評価の方法	下記について総合的に判断する。 1.出席状況 2.プレゼンテーション 3.ディスカッション 4.講義担当者の課題に対する達成度	
成績評価の基準	1.出席状況 全回出席を原則とする。全回数の1/3以上を欠席した場合は、単位認定を受けることができない。  2.プレゼンテーション やや不十分だが最低限の内容でのプレゼンテーションができれば「水準にある」 基本的な内容でのプレゼンテーションができれば「やや上にある」 ある程度の先行研究を参照したプレゼンテーションができれば「かなり上にある」 先行研究を十分に参照したプレゼンテーションができれば「卓越している」  3.ディスカッション それぞれのディスカッションについて、コミュニケーション力(聴く、話すことができる)、主体性・積極性(議論への参加度)、論理性(発言内容に根拠と一貫性があるか)、チームワーク(アサーティブな態度、ディスカッションの活性化など)、影響力(コンセンサス形成や議論終結に向けての貢献度など)の視点から評価する。	
事前事後学習の内容	講義担当者が、その都度、事前・事後の学習内容・方法等について提示します。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	講義全体に関する質問は、主担当者の會田(aida@shinshu-u.ac.jp)に、それぞれの講義内容・方法については、各講義担当者に質問してください。	

登録コード:MA726100		授業科目区分	選択科目
科目名	老年看護学演習 Practice in Gerontological Nursing		
担当教員	會田 信子 他 伊澤 淳, 山崎 浩司		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年看護学領域 / 1 年次		後期 月曜, 1 時限 月曜, 6 時限
単位数、講義室	2 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において独自の観点で研究を推進する能力を有する。	研究論文を多面的にクリティークし、研究を遂行するための基礎的能力を涵養する。	
授業概要	<p>老年看護学領域の先行研究文献から、様々な研究課題やデザイン、方法、倫理的課題などを検討し、個人や家族、集団を対象とした研究の方向性とあり方を探求する。</p> <p>* 本授業は、男女共同参画に関する内容を含んでいます。</p>		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	国内外の老年看護学領域の研究論文から、様々な研究課題やデザイン、倫理的課題を論ずることができる。		
SBOs（行動目標）	国内外の老年看護学領域の研究論文をレビューし、クリティークすることができる。		
授業計画	<p>第1回（10月2日）オリエンテーション  第2回（10月16日）クリティーク  第3回（10月23日）クリティーク  第4回（10月30日）クリティーク  第5回（11月6日）クリティーク  第6回（11月13日）クリティーク  第7回（11月20日）クリティーク  第8回（11月27日）クリティーク  第9回（12月4日）クリティーク  第10回（12月11日）クリティーク  第11回（12月18日）クリティーク  第12回（12月25日）クリティーク  第13回（1月15日）クリティーク  第14回（1月22日）クリティーク  第15回（1月22日）まとめ</p> <p>* 実施日程および担当者等に変更がある場合は、初回オリエンテーション時にお知らせします。</p>		
授業の進め方	学生が興味関心のある研究テーマについて、質的・量的デザインの研究論文をクリティークしたものをプレゼンテーションし（学生一人あたり複数編）、それについてディスカッションを行う。		
テキスト、教材、参考書	適宜、指示・紹介する。		
成績評価の方法	<p>下記について総合的に判断する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プレゼンテーション</li> <li>2. ディスカッション</li> <li>3. 課題の達成度</li> </ol>		
成績評価の基準	<p>プレゼンテーションならびにディスカッションがやや不十分であってもクリティークの結果が示されていれば「水準にある」</p> <p>プレゼンテーション内容がやや不十分であっても、ディスカッションの参加態度が積極的で、クリティークの結果が示されていれば「やや上にある」</p> <p>プレゼンテーション内容が整理され、ディスカッションの参加態度が積極的で、クリティークの内容が的確に示されていれば「かなり上にある」</p> <p>プレゼンテーション内容が論理的に整理され、ディスカッションの参加態度が積極的で、クリティークの内容が的確で、科学的根拠をもとに示されていれば「卓越している」</p>		
事前事後学習の内容	ディスカッションすべき資料を準備してクラスに臨むこと。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	研究の基礎的能力を涵養する上で重要なプロセスです。主体的に参加することを期待します。		

登録コード:MA726200		授業科目区分	選択科目
科目名	老年看護学演習 Practice in Gerontological Nursing		
担当教員	會田 信子 他 伊澤 淳, 山崎 浩司		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年看護学領域 / 1 年次		後期 月曜, 2 時限 月曜, 7 時限
単位数、講義室	2 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において独自の観点で研究を推進する能力を有する。 研究テーマに関する独自の観点から、研究計画の方向性を検討することができる。		
授業概要	<p>老年看護学領域における研究テーマに関するシステムティック・レビューを通して、自身のリサーチ・クエスチョンを明確化し、研究目的に基づく研究計画の方向性を言語化していく。研究課題の精選プロセスにおいては、当該分野の専門家とのディスカッションや、フィールド・ワークなどを行いながら、研究を推進していくための条件を整備する。</p> <p>* 本授業は、男女共同参画に関する内容を含んでいます。</p>		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	社会に貢献しうる意義ある研究課題選定のプロセスを実践的に習得し、研究計画書作成に必要な基礎的能力を涵養する。		
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関心テーマに関する先行研究をシステムティックにレビューし、自身のリサーチ・クエスチョンを明確化できる。</li> <li>2. リサーチ・クエスチョンに基づく研究目的を達成するための現実的で、倫理的に配慮された方法を検討することができる。</li> <li>3. 研究計画を推進していくための条件等を明らかにし整えていくことができる。</li> </ol>		
授業計画	<p>第1回（10月2日）オリエンテーション  第2回（10月16日）システムティック・レビューとリサーチ・クエスチョンの明確化  第3回（10月23日）システムティック・レビューとリサーチ・クエスチョンの明確化  第4回（10月30日）システムティック・レビューとリサーチ・クエスチョンの明確化  第5回（11月6日）システムティック・レビューとリサーチ・クエスチョンの明確化  第6回（11月13日）システムティック・レビューとリサーチ・クエスチョンの明確化  第7回（11月20日）システムティック・レビューとリサーチ・クエスチョンの明確化  第8回（11月27日）研究方法と倫理的配慮  第9回（12月4日）研究方法と倫理的配慮  第10回（12月11日）研究方法と倫理的配慮  第11回（12月18日）研究方法と倫理的配慮  第12回（12月25日）研究方法と倫理的配慮  第13回（1月15日）研究計画遂行のための条件整備  第14回（1月22日）研究計画遂行のための条件整備  第15回（1月22日）まとめ</p> <p>* 実施日程および担当者等に変更がある場合は、初回オリエンテーション時にお知らせします。</p>		
授業の進め方	学生個々の研究テーマや進捗状況を勘案しながら、プレゼンテーション、ディスカッションおよび個別指導で進める。		
テキスト、教材、参考書	適宜、指示・紹介する。		
成績評価の方法	<p>下記について総合的に判断する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プレゼンテーション</li> <li>2. ディスカッション</li> <li>3. 課題の達成度</li> </ol>		
成績評価の基準	<p>成績評価方法について、プレゼンテーションの内容の論理的でわかりやすい、ディスカッションに主体的・積極的に参加している、問題設定が適切である、問題の背景を論理的に説明できる、問題の背景に対して、既存の知見・学説が適切に把握されている、その上で自身の見解を提示できており、かつ教員を感動させるレベルにあれば「卓越している」と評価する。</p> <p>上記～のうち5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目まで出来ていれば「やや上にある」、3項目まで満たしていれば「水準にある」と評価する。</p>		
事前事後学習の内容	ディスカッションすべき資料を準備してクラスに臨むこと。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	今後、実施する研究の土台となるところです。途中、挫折感を味わったりするかもしれませんが、おおいにディスカッションをして、自身の視野・見識を広めながら、独創性ある研究課題を見出していき意義も体験していけることを期待します。		

科目名	老年看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Geriatric Nursing	
担当教員	會田 信子	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	老年看護学領域 / 2 年次	通年 月曜, 3 時限 月曜, 4 時限 , 不定期
単位数、講義室	10 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	クリティカルな視点を涵養し、研究活動における一連のプロセスを遂行できる。
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	科学的根拠に基づいた態度で、独創的な研究を推進することができる。
授業概要	老年看護学領域に関するテーマを設定し、適切な研究方法を用いて研究を遂行し、修士論文を完成させる。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	研究テーマの設定から、研究論文作成の一連の過程を通し、高い倫理観と科学的基盤に基づいた問題解決のための基礎的能力を習得することができる。	
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマを設定できる。</li> <li>2. 適切な研究方法を選択して研究計画書が作成できる。</li> <li>3. 倫理委員会提出用の書類が作成できる。</li> <li>4. データの収集ができる。</li> <li>5. データの分析ができる。</li> <li>6. 研究論文を作成することができる。</li> <li>7. 研究成果のプレゼンテーションができる。</li> </ol>	
授業計画	<p>学生個々の研究テーマや進捗状況を勘案しながら進める。</p> <p>* 具体的な実施日程と講義担当者等については、後日お知らせします。</p>	
授業の進め方	個人指導，プレゼンテーション，ディスカッション	
テキスト，教材，参考書	適宜，指示・紹介する。	
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 修士論文の完成度</li> <li>2. プレゼンテーション</li> </ol>	
成績評価の基準	<p>修士論文は、問題の設定が適切であり、その問題の背景を論理的に説明できており、その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、それらの課題に対して、既存の知見・学説が提示する解決法が適切に把握できており、その上で自身の見解を提示できており、かつ、教員を感動させるレベルにあり、さらに、その研究成果をロジカルにわかりやすく、適切にプレゼンテーションすることができれば「卓越している」と評価する。</p> <p>上記 ~ のうち5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目まで出来ていれば「やや上にある」、3項目まで満たしていれば「水準にある」と評価する。</p>	
事前事後学習の内容	ディスカッションすべき資料を準備してクラスに臨むこと。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<p>いよいよ研究を現実的に実施していく段階となります。今まで漠然とみていた、もしくは意識的に認識していなかった現象が、どのように変化していくか、最終的に、問題解決のプロセスである研究活動の醍醐味を味わえるといいですね。</p>	

登録コード:MA726301	授業科目区分	必修科目
科目名	老年看護学特別研究 Research Thesis (Doctor's) in Geriatric Health Science	
担当教員	伊澤 淳	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 2年次	通年 月曜, 3時限 月曜, 4時限 ,不定期
単位数、講義室	10単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	疾患の病態と予防に関する現状と課題について情報分析ができる。
	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	エビデンスレベルに基づいた医科学が実践できる。
	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	現在のガイドラインを理解し、最新の研究から将来の展開を想起できる。
授業概要	<p>老年看護学領域における研究課題の設定、研究計画の立案、調査・研究の遂行、博士論文の執筆、発表までを指導教員の助言・指導のもとで行う。</p> <p>特に心血管疾患の発症危険因子である生活習慣病、動脈硬化性疾患や心不全などについて病態、疫学などの面から研究テーマを探索する。</p> <p>医学部附属病院の近未来医療センターで継続されている「多職種による地域連携を基盤とした青少年の生活習慣病予防を推進する研究・教育システムの拠点形成プロジェクト」に参加し、生活習慣病および心血管疾患の予防、健康増進に必要な新たな予防医療システムへの提言を目指す。</p>	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	老年看護学領域、特に心血管疾患の予防に関連する現状と課題に焦点を定め、研究計画の立案、研究の推進、研究成果の発表により、医科学のエビデンスの構築に貢献する。	
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年看護学領域が関連する疾患に関する現状と課題を列挙する</li> <li>2. 心血管疾患の発症危険因子となる病態の現状と課題を探索する</li> <li>3. 心血管疾患の発症および再発予防（一次および二次予防）に関する情報を分析する</li> <li>4. 自らの課題に関する最新の基礎および臨床研究の成果を探索する</li> <li>5. 研究テーマ・仮説および対象を設定し、研究方法を立案する</li> <li>6. 得られた研究結果から、追加すべき解析や検討を想起する</li> <li>7. 考察と結論をまとめ、研究を総括する</li> <li>8. 研究成果を学会および論文により発表し、市民公開講座等により一般に公開する</li> </ol>	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献抄読会と研究ミーティングに基づいて研究計画を立案する</li> <li>2. 研究計画に従って最新の医学研究から情報分析する</li> <li>3. 研究テーマ・仮説および対象について討論する</li> <li>4. 研究を推進し、結果の評価、考察をまとめる</li> <li>5. 論文執筆および研究成果のプレゼンテーション</li> </ol>	
授業の進め方	個別指導を中心として、課題設定（仮説）、データ解析、文献検索と読解、考察、総括、発表に至る医学・保健学研究を指導します。	
テキスト、教材、参考書	<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>循環器病の診断と治療に関するガイドライン（日本循環器学会ほか）  <a href="http://www.j-circ.or.jp/guideline/index.htm">http://www.j-circ.or.jp/guideline/index.htm</a></p> <p>欧州心臓病学会ガイドライン <a href="http://www.escardio.org/Guidelines">http://www.escardio.org/Guidelines</a></p> <p>米国心臓協会ガイドライン  <a href="http://professional.heart.org/professional/GuidelinesStatements/">http://professional.heart.org/professional/GuidelinesStatements/</a></p> <p>わかりやすい内科学：井村裕夫他編（文光堂）（11,000円）</p>	
成績評価の方法	個別指導における質疑応答、課題設定や仮説と検証、総括、発表に至る研究成果を評価します。	
成績評価の基準	<p>秀：到達目標水準から見て卓越している。最新の臨床研究および研究成果に基づき、新たな診療ガイドラインが想起できる。</p> <p>優：到達目標水準よりかなり上にある。自らの研究成果に基づいて、予防や診療の実践に対して新たな提言ができる。</p> <p>良：到達目標水準よりやや上にある。研究の成果と限界から次の課題を探索し、新たな研究が展開できる。</p> <p>可：到達目標水準にある。研究成果に矛盾しない考察および結論をまとめ研究発表ができる。</p>	
事前事後学習の内容	個別指導の際には進捗を報告し、次への課題を設定して後日討論します。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時、個別に対応します。	

登録コード:MA727100	授業科目区分	(周麻酔期)選択科目
科目名	コンサルテーション論 Seminer in Conculatation	
担当教員	深澤 佳代子 他	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 1年次	後期
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	授業を通して修得する。
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	授業を通して修得する。
	地域保健・医療・福祉の実現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	授業を通して修得する。
授業概要	援助関係の基本となるコンサルテーションの概念を踏まえる。問題解決手法、コンサルテーションの方法について学ぶ。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	コンサルテーションの意義を理解でき、効果的なコンサルテーションができる。	
SBOs(行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンサルテーションの意義、必要性について説明できる。</li> <li>コンサルテーション過程や手法を習得する。</li> </ul>	
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンサルテーションの概念</li> <li>プロセスコンサルテーションとは何か</li> <li>援助関係の構築</li> <li>傾聴と聞き取りとは</li> <li>カウンセリングとコンサルテーション</li> <li>コーチングとコンサルテーション</li> <li>コンサルテーションの過程</li> <li>高度実践看護師の行うコンサルテーション</li> <li>コンサルテーションの実際</li> </ul>	
授業の進め方	講義に演習を加える。	
テキスト、教材、参考書	後日、提示する。	
成績評価の方法	授業回数の2/3以上の出席者を評価の対象とする。授業への参加度、レポート等の内容から総合的に判断する。	
成績評価の基準	レポートやプレゼンテーションについては課題のまとめ方の内容や発表内容から問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、(i) から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」と判断する。	
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	平成29年度は開講しない。	

科目名	看護政策論 Seminer in Nursing Policies	
担当教員	深澤 佳代子 他	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 1年次	後期
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	授業を通して修得する。
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	授業を通して修得する。
	地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	授業を通して修得する。
授業概要	保健医療政策の変遷を理解し、看護の直面する課題に気づき、看護ケア提供システムの改善策などを学ぶ。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	保健医療政策の変遷を理解し、看護の直面する課題に気づき、看護ケア提供システムの改善策などについて様々な手法を活用できる。	
SBOs(行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護政策について学ぶ。</li> <li>・看護を取り巻く様々な問題や課題を知る。</li> </ul>	
授業計画	<p>看護を取り巻く近年の問題、課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護職員需給政策</li> <li>・医療法と看護</li> <li>・診療報酬と看護</li> <li>・看護政策とは何か、政策決定のプロセス</li> <li>・看護専門職と看護政策</li> </ul> <p>自分の考える看護問題を政策決定にする手法をシミュレーションする。</p>	
授業の進め方	講義，一部演習を入れる。	
テキスト，教材，参考書	後日，提示する。	
成績評価の方法	開講回数の2/3以上の出席をもって評価の対象とする。 講義への参加度，プレゼンテーションの内容，レポート等から総合的に評価を行い，60%以上を合格とする。	
成績評価の基準	60%以上を合格とする。 レポートやプレゼンテーションについては課題のまとめ方の内容や発表内容から問題の設定が適切であり，(ii) その問題の背景を説明できており，(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており，(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており，(v) その上で自分の見解を提示できており，(i) から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある：秀」，4項目までできていれば「やや上にある：優」，3項目までできていれば「水準にある：良」と判断する。	
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	平成29年度は開講しない。	

登録コード:MA727300	授業科目区分	(周麻酔期) 必須科目
科目名	臨床推論入門 Advanced Health and Physical Assessment	
担当教員	多田 剛 深澤 佳代子	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 1年次	後期
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	授業を通して修得する。
	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	授業を通して修得する。
	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	授業を通して修得する。
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	授業を通して修得する。
授業概要	小児から高齢者まで各ライフサイクルに伴うヘルスアセスメントの知識・技術を習得し、術前外来から術後訪問にかけて患者の症状を正しく評価する方法を学ぶ。 周麻酔期看護に必要な知識・技術を医学科3年次臨床推論入門に一部追加し、学ぶ。  * 医学科3年次開講「臨床推論入門」と合わせて2単位とする。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	周麻酔期にある患者の状態を正確に査定・評価できる知識・技術を習得できる。	
SBOs(行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>術前の患者の状態を正しく査定・評価し、術前外来の患者アセスメントができる正確な技術を習得する。</li> <li>術中の患者の状態を正しく査定・評価し、周術期にある患者の変化をアセスメントし、対応するために正確な技術を習得する。</li> <li>術後の前の患者の状態を正しく査定・評価するための正確な技術を習得する。</li> </ul>	
授業計画	<p>医学科3年次開講「臨床推論」を20時間受講する。また、以下の授業は必ず受講する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周麻酔期に必要なヘルスアセスメントとは</li> <li>2. 術前外来におけるヘルスアセスメント</li> <li>3. Post Anesthesia Unitに必要なヘルスアセスメント</li> <li>4. 術後訪問におけるヘルスアセスメント</li> <li>5. まとめ</li> </ol>	
授業の進め方	講義、演習(シミュレーション)	
テキスト、教材、参考書	Lynn. Bickly 著, 福井次矢・井部俊子訳: ベイツ診療法, 医学書院, 医学情報科学研究所 編集: フィジカルアセスメントが見える, メディックメディア, ほか, 医学科開講「臨床推論入門」で用いるテキスト	
成績評価の方法	試験, レポート, プレゼンテーションで評価を行う。 開講回数の2/3以上の出席を評価の対象とする。	
成績評価の基準	<p>60%以上を合格とする。 試験では60%以上を合格とする。 授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」と判断する。 レポートやプレゼンテーションについては課題のまとめ方の内容や発表内容から問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、(i) から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある: 秀」、4項目までできていれば「やや上にある: 優」、3項目までできていれば「水準にある: 良」と判断する。 レポート以外の評価基準については、別途、指示する。</p>	
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	平成29年度は開講しない。	

登録コード:MA727400	授業科目区分	(周麻酔期) 必須科目
科目名	高度実践臨床薬理学 Advanced Clinical Pharmacology	
担当教員	大森 栄 深澤 佳代子	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 1 年次 前期 ,	
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	講義を通して修得する。
授業概要	適切や治療・処置を遂行するための薬剤に関する幅広い知識と高度な技法を修得する。周麻酔期全般に必要な吸入麻酔薬や静脈麻酔薬について、目的、作用、管理について学ぶ。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	周麻酔期全般に必要な薬剤について学び、安全性の高い周麻酔期管理ができる。	
SBOs(行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>疾患、性別、年齢等の変化と薬物の生体への影響について学ぶ。</li> <li>周麻酔期で特に重要な吸入麻酔薬や静脈麻酔薬等の目的、作用、周麻酔期における管理について学ぶ。</li> </ul>	
授業計画	<p>看護学専攻 2 年次開講『薬理学』第 1 ~ 7 回, 第 9 回, 第 12 ~ 15 回を受講する。さらに、以下の内容は、別途、受講する。</p> <p>&lt; 周麻酔期看護師用 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>周麻酔期全般に用いる麻酔薬(吸入麻酔薬・静脈麻酔薬、ほか)の動態を理解する。</li> </ul>	
授業の進め方	講義を中心とする。また、各自課題として調べた内容についてプレゼンテーションを行う。	
テキスト、教材、参考書	加藤隆一:臨床薬物動態学 -臨床薬理学・薬物療法の基礎として- 改訂4版, 南江堂 そのほかについては後日、紹介。	
成績評価の方法	開講日数の2/3の出席を評価対象とする。 レポート、講義の際のディスカッション等から総合評価し、60%以上を合格とする。	
成績評価の基準	<p>課題レポート90%, ディスカッションへの参加状況等10%で評価する。</p> <p>課題レポートを提出期限をはるかに超えて提出した場合、評価できないこともある。レポートは、問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、(i) から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある:秀」、4項目までできていれば「やや上にある:優」、3項目までできていれば「水準にある:良」と判断する。</p>	
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	平成29年度は開講しない。	

登録コード:MA727500	授業科目区分	(周麻酔期) 必須科目
科目名	周麻酔期看護学概論 Introduction to Perianesthesia Nursing	
担当教員	深澤 佳代子 他 川真田 樹人	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 1 年次 前期 ,	
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	授業を通して修得する。
	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	授業を通して修得する。
	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	授業を通して修得する。
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	授業を通して修得する。
授業概要	周麻酔期看護を取り巻く現状について理解する。 また、科学的根拠に基づく看護ケアを実践するために、麻酔に伴う生体反応に対する麻酔管理について必要な基礎知識を習得する。	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>高度実践看護師養成に関する日本および海外の(米国)の基本知識を知る。</li> <li>周麻酔期の感染管理, 医療安全管理に必要な知識を得る。</li> <li>周麻酔期の患者のリスクと対応を知る。</li> </ul>	
SBOs (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>高度実践看護師養成に関する日本および海外の(米国)の基本知識について学ぶ。</li> <li>周麻酔期の感染管理, 医療安全管理に必要な知識について学ぶ。</li> <li>全身麻酔, 局所麻酔に伴う生体反応と術前・術後の全身管理について学ぶ。</li> </ul>	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>周麻酔看護学総論：成人看護学特論，成人看護方法特論の急性期看護学概論，危機理論等を受講する。</li> <li>全身麻酔</li> <li>区域麻酔</li> <li>麻酔を受ける患者の術前評価と看護（1）</li> <li>麻酔を受ける患者の術前評価と看護（2）- 基礎疾患を有する患者</li> <li>麻酔計画と麻酔準備，手術室管理</li> <li>血管確保と気道確保</li> <li>麻酔とモニタリング</li> <li>麻酔期における生体反応と看護（呼吸・循環・急性腎障害）</li> <li>麻酔期における生体反応と看護（中枢神経系・急性疼痛管理）</li> <li>手術体位と合併症</li> <li>麻酔の維持管理(麻酔薬，輸液，輸血)</li> <li>麻酔覚醒時の管理と看護</li> <li>危機管理</li> <li>まとめ</li> </ol>	
授業の進め方	講義を中心とするが，課題を学生が調べ，プレゼンテーションを課す場合がある。	
テキスト，教材，参考書	後日，提示する。	
成績評価の方法	開講回数の2/3以上の出席を評価対象とする。 試験，プレゼンテーションの内容，レポート，参加度を総合評価し，60%以上を合格とする。	
成績評価の基準	<p>授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある：良」，応用問題が解ければ「やや上にある：優」，やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある：秀」と判断する。</p> <p>レポートやプレゼンテーションについては課題のまとめ方の内容や発表内容から問題の設定が適切であり，(ii) その問題の背景を説明できており，(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており，(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており，(v) その上で自分の見解を提示できており，(i) から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある：秀」，4項目までできていれば「やや上にある：優」，3項目までできていれば「水準にある：良」と判断する。</p>	
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	平成29年度は開講しない。	

登録コード:MA727600	授業科目区分	(周麻酔期) 必須科目
科目名	周麻酔期看護学特論 Special Lecture in Perianesthesia Nursing	
担当教員	川眞田 樹人 他 田中 聡, 深澤 佳代子	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 1年次 前期 ,	
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<p>医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。</p> <p>自らの得た成果を世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力を有するとともに、国際的な諸課題に積極的に取り組むことができる。</p> <p>医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。</p> <p>高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。</p> <p>保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。</p> <p>地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。</p>	
授業概要	科学的根拠に基づく看護ケアを実践するために臓器別手術に伴う周麻酔期管理について必要な基礎知識を理解する。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>臓器別手術に伴う一般的な麻酔リスクと安全な麻酔管理に必要な知識を得る。</li> <li>臓器別手術に伴う一般的リスクを理解し、安全な周麻酔期看護を行うための知識を得る。</li> </ul>	
SBOs(行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>臓器別手術に伴う一般的な麻酔リスクと安全な麻酔管理に必要な知識を学ぶ。</li> <li>臓器別手術に伴う周麻酔期看護について学ぶ。</li> </ul>	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾患別麻酔管理概論</li> <li>2. 代表的脳神経疾患手術と麻酔(1) 開頭術</li> <li>3. 代表的脳神経疾患手術と麻酔(2) park bench position手術</li> <li>4. 代表的運動器疾患手術と麻酔(1) 脊椎・脊髄手術</li> <li>5. 代表的運動器疾患手術と麻酔(2) 関節置換術</li> <li>6. 代表的な呼吸器疾患の手術と麻酔 (片肺換気を行う手術の術中管理)</li> <li>7. 代表的な循環器疾患の手術と麻酔(1) (ステントグラフト, AAA等血管置換術) *DAAを除く。</li> <li>8. 代表的な循環器疾患の手術と麻酔(2) (人工心肺等補助循環を伴う手術の術中管理)</li> <li>9. 代表的な消化器疾患の手術と麻酔 (内視鏡下手術含む)</li> <li>10. 代表的な腎・泌尿器疾患の手術と麻酔 (Da Vinci手術含む)</li> <li>11. 口腔内手術と麻酔(形成外科, 歯科口腔外科)</li> <li>12. 感覚器疾患手術と麻酔(眼科, 耳鼻科)</li> <li>13~15. まとめ, 補足</li> </ol>	
授業の進め方	講義を中心とするが、課題を提示し、学生が調べてプレゼンテーションを入れる場合がある。	
テキスト, 教材, 参考書	後日, 提示する。	
成績評価の方法	開講回数の2/3以上を評価の対象とする。 試験, プレゼンテーションの内容, レポート, 参加度を総合評価し, 60%以上を合格とする。	
成績評価の基準	<p>試験の場合, 授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある:良」, 応用問題が解ければ「やや上にある:優」, やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある:秀」と判断する。</p> <p>レポートやプレゼンテーションについては課題のまとめ方の内容や発表内容から問題の設定が適切であり, (ii) その問題の背景を説明できており, (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており, (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており, (v) その上で自分の見解を提示できており, (i) から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある:秀」, 4項目までできていれば「やや上にある:優」, 3項目までできていれば「水準にある:良」と判断する。</p>	
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	平成29年度は開講しない。	

登録コード:MA727700	授業科目区分	(周麻酔期) 必須科目
科目名	周麻酔期看護学特論 Special Lecture in Perianesthesia Nursing	
担当教員	川真田 樹人 他 田中 聡, 深澤 佳代子	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 1 年次 後期 ,	
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<p>医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。 授業を通して修得する。</p> <p>医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。 授業を通して修得する。</p> <p>高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。 授業を通して修得する。</p> <p>保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。 授業を通して修得する。</p> <p>国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参加できる能力を有する。 授業を通して修得する。</p> <p>地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。 授業を通して修得する。</p>	
授業概要	ハイリスク患者に対する麻酔や、緊急手術の可能性のある疾患や病態について、救急・集中治療管理を学び、科学的根拠に基づく周麻酔期看護を実践するために必要な基礎知識を理解する。	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急・集中治療管理の学びを通し、緊急手術時の麻酔管理方法を理解できる。</li> <li>救急・集中治療の必要な疾患や病態について、看護ケアのポイントを理解する。</li> </ul>	
SBOs (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>救急・集中治療の必要な疾患と管理を学ぶ。</li> <li>救急・集中治療の必要な患者の看護ケアを学ぶ。</li> </ul>	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>救急・集中治療の基礎と看護: killer symptomへの対応など</li> <li>急性呼吸不全 (ARDS), 急性肺水腫と集中管理</li> <li>急性循環不全 (AMI, DAA) と集中管理</li> <li>外傷・創傷と集中管理 (1) (交通外傷含む)</li> <li>外傷・創傷と集中管理 (2) (広範囲熱傷含む)</li> <li>急性腹症と集中管理 (食道静脈瘤破裂, 急性腹膜炎含む)</li> <li>急性中毒と集中管理 (血液浄化法含む)</li> <li>脳神経・脳循環障害と集中管理</li> <li>産科麻酔</li> <li>小児麻酔</li> <li>高齢者に対する麻酔</li> <li>12~13. 救急・集中治療, 周麻酔期管理に必要な画像診断 胸部X-P, CT, MRI, 超音波, 造影検査</li> <li>14~15. 蘇生時のケア (一次救命処置と二次救命処置)</li> </ol>	
授業の進め方	講義を中心とするが、課題を学生が調べ、プレゼンテーションを課す場合がある。	
テキスト, 教材, 参考書	後日, 提示する。	
成績評価の方法	開講回数の2/3以上の出席を評価対象とする。 試験, プレゼンテーションの内容, レポート, 参加度を総合評価し, 60%以上を合格とする。	
成績評価の基準	<p>試験では授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある:良」, 応用問題が解ければ「やや上にある:優」, やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある:秀」と判断する。</p> <p>レポートやプレゼンテーションについては課題のまとめ方の内容や発表内容から問題の設定が適切であり, (ii) その問題の背景を説明できており, (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており, (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており, (v) その上で自分の見解を提示できており, (i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある:秀」, 4項目までできていれば「やや上にある:優」, 3項目までできていれば「水準にある:良」と判断する。</p>	
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	平成29年度は開講しない。	

登録コード:MA727800	授業科目区分	(周麻酔期) 必須科目												
科目名	周麻酔期看護学特論 Special Lecture in Perianesthesia Nursing													
担当教員	川真田 樹人 他 田中 聡, 深澤 佳代子													
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 1 年次 後期 ,													
単位数、講義室	4 単位													
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<table border="1"> <tr> <td>医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。</td> <td>授業を通して修得する。</td> </tr> <tr> <td>医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。</td> <td>授業を通して修得する。</td> </tr> <tr> <td>高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。</td> <td>授業を通して修得する。</td> </tr> <tr> <td>保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。</td> <td>授業を通して修得する。</td> </tr> <tr> <td>国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。</td> <td>授業を通して修得する。</td> </tr> <tr> <td>地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。</td> <td>授業を通して修得する。</td> </tr> </table>		医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	授業を通して修得する。	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	授業を通して修得する。	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	授業を通して修得する。	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	授業を通して修得する。	国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。	授業を通して修得する。	地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	授業を通して修得する。
医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	授業を通して修得する。													
医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	授業を通して修得する。													
高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	授業を通して修得する。													
保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	授業を通して修得する。													
国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。	授業を通して修得する。													
地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	授業を通して修得する。													
授業概要	看護において周術期とは、患者の手術が決定した時から、手術後、通常の日常生活が送れるようになるまでの期間である。 集中治療、緩和ケア、ペインクリニックは麻酔科学において重要な領域である。 術後の麻酔管理の学びを通し、また、集中治療、緩和ケア、ペインクリニックにおける科学的根拠に基づく周麻酔期看護を実践するために必要な基礎知識を理解する。													
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者、産科、小児、がん患者などへの麻酔について基本的な知識を習得する。</li> <li>・ 高齢者、産科、小児、がん患者などへの周麻酔期看護ケアについて知識を習得する。</li> </ul>													
SBOs (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者、産科、小児、がん患者などへの麻酔について基本的な知識を学ぶ。</li> <li>・ 高齢者、産科、小児、がん患者などへの周麻酔期看護を学ぶ。</li> </ul>													
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中枢・末梢神経系の問題</li> <li>2. 体温とシバリングと出血性合併症</li> <li>3. 呼吸・循環・急性腎障害の問題</li> <li>4. 術後痛</li> <li>5. 術後悪心・嘔吐</li> <li>6. 絶飲食解除、安静度</li> <li>7. 集中治療における麻酔管理 (1)</li> <li>8. 集中治療における麻酔管理 (2)</li> <li>9. 緩和医療 (1)</li> <li>10. 緩和医療 (2)</li> <li>11. ペインクリニック (1)</li> <li>12. ペインクリニック (2)</li> </ol>													
授業の進め方	講義を中心とするが、課題を学生が調べ、プレゼンテーションを課す場合がある。													
テキスト、教材、参考書	後日、提示する。													
成績評価の方法	開講回数の2/3以上を評価の対象とする。 試験、プレゼンテーションの内容、レポート、参加度を総合評価し、60%以上を合格とする。													
成績評価の基準	試験では授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある：良」、応用問題が解ければ「やや上にある：優」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある：秀」と判断する。 レポートやプレゼンテーションについては課題のまとめ方の内容や発表内容から問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、(i) から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある：秀」、4項目までできていれば「やや上にある：優」、3項目までできていれば「水準にある：良」と判断する。													
事前事後学習の内容														
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	平成29年度は開講しない。													

登録コード:MA727900	授業科目区分	(周麻酔期) 必須科目												
科目名	周麻酔期看護学演習 Practicum in Perianesthesia Nursing													
担当教員	深澤 佳代子 他 川真田 樹人, 池上 俊彦, 寺内 英真													
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 1 年次 前期 ,													
単位数、講義室	2 単位													
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<table border="1"> <tr> <td>医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。</td> <td>授業を通して修得する。</td> </tr> <tr> <td>医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。</td> <td>授業を通して修得する。</td> </tr> <tr> <td>高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。</td> <td>授業を通して修得する。</td> </tr> <tr> <td>保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。</td> <td>授業を通して修得する。</td> </tr> <tr> <td>国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。</td> <td>授業を通して修得する。</td> </tr> <tr> <td>地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。</td> <td>授業を通して修得する。</td> </tr> </table>		医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	授業を通して修得する。	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	授業を通して修得する。	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	授業を通して修得する。	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	授業を通して修得する。	国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。	授業を通して修得する。	地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	授業を通して修得する。
医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	授業を通して修得する。													
医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	授業を通して修得する。													
高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	授業を通して修得する。													
保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	授業を通して修得する。													
国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。	授業を通して修得する。													
地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	授業を通して修得する。													
授業概要	周麻酔期看護師として CareとCure の両側面から包括的アプローチを行うための基本とされる知識ならびに技術についてシミュレーションを通し獲得する。													
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	周麻酔管理に伴う状況を正確にアセスメントし、安全な看護ケアの提供に必要な知識ならびに技術を獲得できる。													
SBOs (行動目標)	周麻酔管理に伴う状況を正確にアセスメントし、安全な看護ケアの提供に必要な知識ならびに技術を習得する。													
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術予定患者に対する手術麻酔・看護の説明</li> <li>2. 術中麻酔管理に必要な基礎技術 ルート確保(静脈, 動脈礎ライン) 中心静脈留置</li> <li>3. 麻酔器材の準備・麻酔器の管理に必要な技術ならびに知識</li> <li>4. 気道確保と気管挿管</li> <li>5. 全身麻酔ならびに局所麻酔に必要なモニタリング</li> <li>6. 周麻酔期管理に必要な画像診断の実技 超音波と神経ブロック 読影法</li> <li>7. 硬膜外麻酔とPCAの実際</li> <li>8. 麻酔覚醒と抜管の基準について見学を通して学ぶ</li> <li>9. 手術室から, 病棟・集中治療室への申し送り</li> </ol>													
授業の進め方	演習(ディスカッション, 見学, シミュレーション等)で進める。													
テキスト, 教材, 参考書	後日, 提示する。													
成績評価の方法	開講回数の2/3以上の出席を評価対象とする。 口頭試問, 技術試験, プレゼンテーションの内容, レポート, 参加度を総合評価し, 60%以上を合格とする。													
成績評価の基準	レポートやプレゼンテーションについては課題のまとめ方の内容や発表内容から問題の設定が適切であり, (ii) その問題の背景を説明できており, (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており, (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており, (v) その上で自分の見解を提示できており, (i) から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある: 秀」, 4項目までできていれば「やや上にある: 優」, 3項目までできていれば「水準にある: 良」と判断する。 口頭試問, 技術試験を行う場合は, 別途, 評価基準を設ける。													
事前事後学習の内容	技術練習については, 各自行うよう, 別途指示する。													
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	平成29年度は開講しない。													

登録コード:MA728000	授業科目区分	(周麻酔期) 必須科目												
科目名	周麻酔期看護学演習 Practicum in Perianesthesia Nursing													
担当教員	深澤 佳代子 他 川眞田 樹人, 池上 俊彦, 寺内 英真													
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 1年次 後期 ,													
単位数、講義室	2 単位													
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<table border="1"> <tr> <td>医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。</td> <td>授業を通して修得する。</td> </tr> <tr> <td>医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。</td> <td>授業を通して修得する。</td> </tr> <tr> <td>高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づき臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。</td> <td>授業を通して修得する。</td> </tr> <tr> <td>保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。</td> <td>授業を通して修得する。</td> </tr> <tr> <td>国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。</td> <td>授業を通して修得する。</td> </tr> <tr> <td>地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。</td> <td>授業を通して修得する。</td> </tr> </table>		医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	授業を通して修得する。	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	授業を通して修得する。	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づき臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	授業を通して修得する。	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	授業を通して修得する。	国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。	授業を通して修得する。	地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	授業を通して修得する。
医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	授業を通して修得する。													
医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	授業を通して修得する。													
高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づき臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	授業を通して修得する。													
保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	授業を通して修得する。													
国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。	授業を通して修得する。													
地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	授業を通して修得する。													
授業概要	周麻酔期看護の現状を見学・実践を通し把握し、看護実践上の問題として課題研究のテーマとして具現化する。													
一般学習目標G10(期待される学習効果)	周麻酔期における看護実践上の問題を明確化し、課題研究のテーマとして具現化する。													
SBOs(行動目標)	文献講読, 学会への参加, 周麻酔看護師の看護実践の見学を通し, 周麻酔期看護の課題を抽出する。													
授業計画	<p>1～8 . リスクの高い症例への対応について検討会等を通して学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・麻酔検討会</li> <li>・がんセンター事例検討会</li> <li>・緩和ケアチーム回診</li> </ul> <p>9～12 . 周麻酔期看護について文献講読とクリティークを行う。</p> <p>13～15 . 他大学の周麻酔看護の現状の見学を通して長野県下における周麻酔看護のあり方についてディスカッションを行う。</p> <p>* 内容の変更あり。</p>													
授業の進め方	演習(ディスカッション等)													
テキスト, 教材, 参考書	後日, 提示する。													
成績評価の方法	開講日数の2/3以上の出席で評価を行う。 プレゼンテーションの内容, ディスカッション等の内容を評価し, 60%以上を合格とする。													
成績評価の基準	プレゼンテーションについては課題のまとめ方の内容や発表内容から問題の設定が適切であり, (ii) その問題の背景を説明できており, (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており, (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており, (v) その上で自分の見解を提示できており, (i) から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある:秀」, 4項目までできていれば「やや上にある:優」, 3項目までできていれば「水準にある:良」と判断する。													
事前事後学習の内容	自主的に文献検索等を進める。													
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	平成29年度は開講しない。													

登録コード:MA728100	授業科目区分	(周麻酔期) 必須科目
科目名	周麻酔期看護学実習 Critical Practice in Perianesthesia Nursing	
担当教員	深澤 佳代子 他 川真田 樹人, 寺内 英真	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 1年次 後期	
単位数、講義室	4 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	実習を通して修得する。
	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	実習を通して修得する。
	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	
	地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	
授業概要	合併症のない患者の麻酔管理と麻酔の役割の範囲全般について実習を通して学ぶ。その中から周麻酔期看護師の役割や必要性について考える。	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>合併症のない全身麻酔・局所麻酔の一連の流れや麻酔の役割の範疇の診療について指導医の下で実践できる。</li> <li>合併症のない全身麻酔・局所麻酔や麻酔診療に伴う周麻酔期看護を科学的根拠に基づき、さらに安全に実施できる。</li> </ul>	
SB0s (行動目標)	合併症のない患者の麻酔管理と麻酔の役割の範囲全般を麻酔科指導医の指導のもとで実践し、周麻酔期看護を科学的、安全性な看護方法で実施する。	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>麻酔科指導医のもとで、術前から術後の麻酔管理の実際を学ぶ。 実習場所：信州大学医学部附属病院手術部，術前外来 <ul style="list-style-type: none"> <li>術前外来における麻酔前評価，麻酔方法の決定と麻酔方法の説明，術前指示，薬剤指示等患者指導について学ぶ。</li> <li>麻薬処方，麻酔記録等の実際について見学を通し学ぶ。</li> <li>病棟術後評価と術後回診，術後管理のポイントを学ぶ。</li> <li>術後集中治療の必要な患者の場合は，集中治療における麻酔管理の実際を学ぶ。</li> </ul> </li> <li>麻酔科指導医のもとで麻酔治療(ブロック)について学ぶ。 実習場所：信州大学医学部附属病院麻酔科外来</li> <li>麻酔科指導医のもとで緩和ケアの実際について学ぶ。 実習場所：信州大学医学部附属病院がんセンター，病棟</li> </ol> <p>* 実習場所は，状況により変更する。</p>	
授業の進め方	実習	
テキスト，教材，参考書	適宜，紹介する。	
成績評価の方法	4/5以上の日数を出席した場合，評価を行う。	
成績評価の基準	参加度，知識・技術	
事前事後学習の内容	各自，シミュレーションセンター等で技術練習を行う。	
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	平成29年度は開講しない。	

登録コード:MA728200	授業科目区分	(周麻酔期) 必須科目
科目名	周麻酔期看護学実習 Critical Practice in Perianesthesia Nursing	
担当教員	深澤 佳代子 他 川真田 樹人, 寺内 英真	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 2 年次 通年 ,	
単位数、講義室	6 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	実習を通して修得する。
	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	実習を通して修得する。
	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	実習を通して修得する。
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	実習を通して修得する。
	地域保健・医療・福祉の実現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	実習を通して修得する。
授業概要	周産期・小児など特殊な麻酔事例の麻酔管理，緊急手術などハイリスク麻酔管理の実際について実習を通し学ぶ。 その中から周麻酔期看護の役割について考えることができる。 また，長野県下の病院での実習を通し，一般病院における周麻酔期看護の役割や必要性について考えることができる。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	周産期・小児など特殊な麻酔事例，緊急手術などのハイリスク症例の麻酔管理について麻酔科指導医の下で実践できる。 長野県下の病院での実習を通し，一般病院における周麻酔期看護を科学的，安全性に基づき実施できる知識や技術を習得できる。	
SBOs（行動目標）	周産期・小児など特殊な麻酔事例，緊急手術などのハイリスク症例の麻酔管理について麻酔科指導医の下で実践する。 長野県下の病院での実習を通し，地域医療における周麻酔期看護を科学的，安全性な看護方法で実施する。	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．麻酔科指導医のもとで，産科，小児の術前から術後の麻酔管理の実際を学ぶ。 実習場所：信州大学医学部附属病院手術部，産科，NICU 長野県立こども病院 県下の協力病院数ヶ所</li> <li>2．緊急手術などハイリスク患者の麻酔管理の実際を学ぶ。</li> <li>3．救急外来ならびにICUにおける実習(救急外来から緊急手術に至る症例，術後ICU管理の症例も含む)</li> </ol> <p>* 実習場所は，未定。</p>	
授業の進め方	実習	
テキスト，教材，参考書	適宜，紹介する。	
成績評価の方法	開講日数4/5以上で評価を行う。 実習中の知識，技術の修得度	
成績評価の基準	参加度，知識・技術	
事前事後学習の内容	各自，シミュレーションセンターで技術練習を行う。	
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	平成29年度は開講しない。	

登録コード:MA728300	授業科目区分	(周麻酔期) 必須科目
科目名	周麻酔期看護学課題研究 Task-oriented Research in Perianesthesia Nursing	
担当教員	深澤 佳代子 他 川真田 樹人, 田中 聡	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	成人・老年看護学領域 / 2 年次	通年
単位数、講義室	4 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	研究の一連の流れを通して修得する。
	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実施できる。	研究の一連の流れを通して修得する。
	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	研究の一連の流れを通して修得する。
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	研究の一連の流れを通して修得する。
	地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	研究の一連の流れを通して修得する。
授業概要	周麻酔期(術前～術後)、疼痛管理に関連した医療現場、術前外来等で高度実践看護師に必要とされる知識、技術に関する課題に焦点を当て、1つを取り上げ、論文形式でまとめる。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周麻酔期を取り巻く課題を抽出し、課題について研究計画書を作成できる。</li> <li>・計画に沿って、実施し、まとめることができる。</li> </ul>	
SBOs(行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周麻酔期に関連した課題を抽出する。</li> <li>・在学中、どこまでを解決するのか明らかにし、研究計画書を立案する。</li> <li>・計画に沿って必要な資料を収集し、研究としてまとめていく。</li> </ul>	
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周麻酔期看護に関する課題の抽出</li> <li>・研究計画書立案、看護学専攻審査委員会へ提示</li> <li>・医倫理委員会へ提出し、承認を受ける。</li> <li>・課題研究の実施</li> <li>・課題研究論文を書審査委員会へ提示</li> <li>・課題研究報告書としてまとめる。</li> </ul> <p>* 学生の進行状況により、適宜対応する。</p>	
授業の進め方	ゼミ形式で行う。	
テキスト、教材、参考書	適宜、提示する。	
成績評価の方法	修士論文評価に準ずる。 プレゼンテーションと研究の完成度、研究過程を総合的に評価し、60%以上を合格とする。	
成績評価の基準	<p>1. 問題の設定が適切である, 2. その問題の背景を論理的に説明できる, 3. その問題にどのような課題があるのかを指摘できており, 4. それらの課題に対して既存の知見や学説が提示する解決法が適切に学習できており, 5. 自身の見解を提示できており, 且つ教員に感動させるレベルにあり, 6. その研究成果を論理的に分かりやすくプレゼンテーションできれば『卓越している』とする。</p> <p>1～6の5項目を満たしている場合、「かなり上にある：秀」、4項目満たしている場合、「やや上にある：優」、3項目を満たしている場合は「水準にある：良」とする。</p>	
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	平成29年度は開講しない。	

登録コード:MA730100	授業科目区分	選択科目
科目名	母子看護学特論 Special Lectures in Child and Women's Health Nursing	
担当教員	坂口 けさみ 他 市川 元基, 金井 誠, 伊澤 淳, 平林 優子	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 1年次	前期 月曜, 1時限 月曜, 6時限
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	母子保健領域において独創的な観点で研究課題を見出すことができる。
授業概要	周産期及びその前後のライフステージにおける子どもと女性の健康と人間の反応に関する看護実践, 研究, 教育について, 生活習慣と血栓症などの視点や感染免疫学, 臓器移植との関連も踏まえ, 先進医療に関する理解を深める。 生理的指標や尺度を用いた看護研究並びに実践及び教育の基礎能力を修得し, 母子に関わる優れた実践能力並びに研究能力の素地を培う。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	母子に関するケアの質の向上を目指し, 国内外の看護実践や研究, 教育における講義を通して, 優れた実践能力並びに研究能力の素地を培う。	
SBOs(行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親と子の絆の形成メカニズムを理解すると共に, 根拠に基づいた必要なケアについて述べる事ができる。</li> <li>2. 思春期から更年期における健康問題について理解すると共に, 必要な支援ができる。</li> <li>3. 女性のライフサイクルの変化を理解し, 生活習慣病を含め様々な健康指導を実践できる。</li> <li>4. 妊婦における静脈血栓塞栓症のリスク要因を明らかにし, 妊産婦の血栓症予防対策を実践できる。</li> <li>5. 生体の感染防御システムである免疫系の役割について看護職者の立場から理解することができる。</li> <li>6. 男性不妊症について看護職者の立場から理解することができる。</li> </ol>	
授業計画	<p>(坂口 けさみ / 4回:4/10, 17, 24, 5/1) 周産期における母性行動・父性行動の発現メカニズム, 及びその後のライフステージにおける排泄障害など, 女性の健康と人間の反応に対する看護の研究, 実践, 教育について, 調査研究や分子生物学的手法ならびに生理学的指標を用いた観点から探究する。</p> <p>(平林 優子 / 3回:5/8, 15, 22) 子どもの健康に係わる課題について看護の観点から探求する。</p> <p>(金井 誠 / 2回:5/29, 6/5) 妊婦と静脈血栓塞栓症, および女性の健康と生活習慣病を中心に女性の健康にかかわる先進医療をはじめとした優れた看護研究, 実践, 教育に必要な医学的な基礎を論述する。</p> <p>(市川 元基 / 2回:6/12, 19) 生体の感染防御システムである免疫系の役割を中心に, 子どもの健康にかかわる先進医療をはじめとした優れた看護研究, 実践, 教育に必要な医学的な基礎を論述する。  <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の感染防御機構</li> <li>2. 原発性免疫不全症</li> </ol> </p> <p>(池上 俊彦 / 2回:6/26, 7/3) 母子に関わる疾患についての医学的な基礎および病態や治療を主体とした医学的なアプローチについて論述する。</p> <p>(伊澤 淳 / 2回:7/10, 24) 青少年と生活習慣病について論述する。</p>	
授業の進め方	講義形式と, 一部研究課題に関するプレゼンテーション。	
テキスト, 教材, 参考書	必要なテキスト, 教科書等は, 随時, 紹介する。	
成績評価の方法	学生の理解度や姿勢を総合的に評価したいと思います。	
成績評価の基準	課題レポートについては, (i) 問題の設定が適切であり, (ii) その問題の背景を説明できており, (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており, (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており, (v) その上で自分の見解を提示できており, かつ, 教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」, (i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」, 4項目までできていれば「やや上にある」, 3項目までできていれば「水準にある」。	
事前事後学習の内容	授業前後については, 必要な時間, 予習と復習を行う。	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	質問は, 授業中もしくは終了後いつでもおいでください。なお, 不在のこともありますので, 事前に連絡を取っていただくとありがたいです。	

登録コード:MA730200	授業科目区分	選択科目
科目名	母子看護学支援特論 Special Lectures for Caring in Child and Women's Health Nursing	
担当教員	坂口 けさみ 他 玉井 真理子, 平林 優子, 芳賀 亜紀子, 徳武 千足, 鈴木 泰子	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 1年次 前期 月曜, 2時限 月曜, 7時限	
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。 独創的な観点から研究課題を見出すことができる。	
授業概要	小児保健・看護学並びにリプロダクティブヘルス・ヘルスの概念と、諸外国並びに我が国における情勢を含めた臨床的課題と支援のための関連分野の諸理論ならびに実践について探求する。また、遺伝子診断や不妊治療、ハイリスク新生児医療などの進歩という実情をふまえた子どもと女性と家族の健康にかかわる看護についての論点を探求する。EBN, NBMと症例報告について理解し、実践と研究とを関連づける能力を培う。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	小児保健・看護学の概念と主要課題について説明する。 リプロダクティブヘルス・ヘルスの概念の発展過程とその主な批判点を説明する。 性と生殖に関する臨床問題の背景と具体的実践について説明する。 性と生殖に関する医療ならびに技術の進歩がもたらしている倫理的論点を説明する。 臨床倫理を事例に適用して分析し、看護の視点を持つ。	
SBOs（行動目標）	小児保健・看護学並びにリプロダクティブヘルス・ヘルスの概念を、歴史的背景と世界の動向を踏まえて説明する。 性と生殖と社会との関係について論じる。 性と生殖に関連する臨床的問題と支援について論じる。 EBN, NBM, 症例報告がこれからの子ども・女性・家族の看護における知の発展にどう貢献できるかを論じる。また、実践の中でどのように活かしていけるかについて論じる。 臨床倫理を事例に適用して分析し、看護の視点から自分の意見を述べる。	
授業計画	第1-3回（4/10, 17, 24） リプロダクティブヘルス・ヘルス 坂口（3回） 第4-7回（5/1, 8, 15, 22） 周産期における臨床的課題 坂口（1回）、芳賀（2回）、徳武（1回） （女性と尿失禁、分娩と安全 など） 第8-10回（5/29, 6/5, 12） 小児ケア 平林（3回） 第11-13回（6/19, 26, 7/3） 医療と倫理的課題 玉井（3回） （遺伝、出生前診断、ART、重症新生児など） 第14回（7/10） 小児看護学からみた臨床的課題 鈴木（1回） 第15回（7/24） まとめ 坂口（1回）  * 初回時に日程の詳細は相談により決定する。	
授業の進め方	学生によるプレゼンテーションとディスカッションと、一部座学による。適宜、課題レポートを課すこともある。	
テキスト、教材、参考書	Who's got power? Transforming health system for women and children, E.05. .B8, UNP. (\$45.00) State of world population 2005: The promise of equality, gender equality, reproductive health and the Millennium development goals, E.05. .UNP. 2005. (\$15.00) Taking Action: Achieving gender equality and empowering women, E.05. .B.7, UNP. (\$45.00) リプロダクティブ法と政策センター編. 房野桂訳. リプロダクティブ・ヘルス. 明石書店, 2001. スーザン・シャウウィン. 岡田雅勝他訳. もう患者でいるのはよそう. 勁草書房, 1998. レズリー・ページ. 生まれかわる助産婦たち. 医学書院, 1996. バーバラ・K・ロスマン. 母性をつくりなおす. 勁草書房, 1997. ヘルガ・クーゼ. ケアリング-看護婦・女性・倫理. メディカ出版, 2000. 小林奈美. 家族看護論-カルガリー式看護モデル実践へのファーストステップ. 医歯薬出版, 2006. ロレイン・M・ライト他. 杉下知子監訳. ピリーフ-家族看護実践の新たなパラダイム. 日本看護協会出版会, 1996. Tomey AM & Alligood MR. Nursing Theorists and their work. Mosby, 2006. Fitzpatrick JJ & Montgomery KS. Maternal Child Health Nursing Research Digest. Springer, 1999. Jonsen AR, Siegler M, Winslade WJ. 臨床倫理学. 新興医学出版社, 2006. トリシャ・グリーンハル, アンナ・コラード, 斉藤清二: 保健専門職のためのNBMワークブック. 臨床における物語共有学習のために, 金剛出版, 2004. トリシャ・グリーンハル, ブライアン・ハーウィッツ, 齊藤清二, 山本和利, 岸本寛史監訳: ナラティブ・ベイスド・メディスン-臨床における物語と対話, 金剛出版, 2002. Susan Hamer & Gill Collinson, 岡本高宏: 最善の医療をめざして-エビデンスに基づく実践ハンドブック, エルゼビア・ジャパン, 2004. Paul Glasziou, Chris Del Mar, Janet Salisbury, 斎尾武郎: EBM楽しい練習長, 金芳堂, 2004.	
成績評価の方法	プレゼンテーションとディスカッションへの貢献度、課題レポートの内容	
成績評価の基準	レポートについては、(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、(i) から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」。	
事前事後学習の内容	授業前後には、必要な時間、予習と復習を行う。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	教材として指定するものは上記の通りだが、副読本として指定したいものには限りがない。そこで、学生は自分の関心に関連する領域については、各自でさらに視野を広める努力をしてほしい。研究テーマや学生の興味などに応じて変更することがある。	

登録コード:MA730300		授業科目区分	選択科目
科目名	リプロダクティブ・ヘルス看護学演習 Practice in Reproductive Health		
担当教員	坂口 けさみ 他 金井 誠, 玉井 真理子, 芳賀 亜紀子, 徳武 千足		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 1 年次 後期 月曜, 1 時限 月曜, 6 時限		
単位数、講義室	2 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。 文献検討を通してサブストラクショナル及びクリティカルレビューの方法を身につける。		
授業概要	母性行動発現制御機構, 出産前後の女性の排泄機能障害, 親子関係, 女性の健康に関連した既存の尺度並びに主観を探究した研究など, リプロダクティブ・ヘルスに関連する領域の文献検討を通して, サブストラクショナル並びにクリティカルレビューの方法を身につける。		
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関係した領域の中で研究課題に関連する文献の効果的な検索方法を理解すると共に, 文献検索を通して研究課題の系統的な流れや研究方法を理解する。 また, 関連する領域の文献検討を通して, サブストラクショナル並びにクリティカルレビューの方法を身につける。		
SBOs (行動目標)	1. リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関係した領域における文献の効果的な検索方法を理解する。 2. 文献検索を通して研究課題に対するバックグラウンドを系統的に理解する。 3. リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関係した領域における研究について, 倫理的側面並びに研究方法, 結果を含め, 批判的に論評することができる。		
授業計画	(坂口 けさみ, 他: 4/10, 17, 24, 5/1, 8, 15, 22, 29, 6/5, 12, 19, 26, 7/3, 10, 24)  スキンシップの意義など, 周産期に関する研究課題に即した生理的指標及び分子生物学的指標の選択や測定・分析方法について論述するとともに, 女性の尿失禁や便失禁などの健康問題に対する看護学的視点について研究する。 また, 産育ならびに助産(産婆)実践に関する歴史的研究手法について論述する。 また, 地域における調査研究について論述する。		
授業の進め方	学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。		
テキスト, 教材, 参考書	随時, 紹介するが, 各学生の研究テーマに関連する理論と, 文献を収集すること。		
成績評価の方法	学生の理解度や姿勢およびプレゼンテーションとディスカッションへの貢献度で総合的に評価したいと思います。		
成績評価の基準	レポートについては, (i) 問題の設定が適切であり, (ii) その問題の背景を説明できている, (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できている, (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できている, (v) その上で自分の見解を提示できている, かつ, 教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」, (i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」, 4項目までできていれば「やや上にある」, 3項目までできていれば「水準にある」。		
事前事後学習の内容	授業前後には, 必要な時間, 予習と復習に当てること。		
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	メールでも, 随時, 受け付ける。		

科目名	リプロダクティブ・ヘルス看護学演習 Practice in Reproductive Health	
担当教員	坂口 けさみ 他 金井 誠, 玉井 真理子, 芳賀 亜紀子, 徳武 千足	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 2年次	前期 月曜, 4時限 火曜, 6時限
単位数、講義室	2単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	研究課題に適した研究方法を選択し、必要な各種条件を整えることができる。
授業概要	リプロダクティブライツ・ヘルスの講義や演習を通して学生自身の関心のあるテーマを研究課題へと精選する。 討議を通して研究課題に適した方法論を選択し、その研究を実施するために必要な倫理性と研究能力を身につけるとともに、選択した研究方法に必要な各種条件を整える。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	研究課題に適した方法論を選択し、その研究を実施するために必要な倫理性と研究能力を身につける。	
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題に適した研究デザインを選択できる。</li> <li>2. 研究を遂行するにあたり、選択した研究方法の信憑性や妥当性についてプレテストを通して検討できる。</li> <li>3. 研究課題に必要な倫理的配慮の内容について考えることができる。</li> <li>4. 研究を遂行するにあたり、倫理的配慮に関して必要な書類を作成できる。</li> <li>5. 研究を遂行するにあたり、倫理的配慮として必要な事柄を明確に述べるができる。</li> </ol>	
授業計画	<p>（坂口 けさみ, 他 : 15回 10/2, 16, 23, 30, 11/6, 13, 20, 27, 12/4, 11, 18, 25, 1/15, 22, 29）</p> <p>母性行動・父性行動などの発現メカニズムやスキンシップの意義などのリプロダクティブ・ヘルス領域の研究に応用可能な生理的指標や分子生物学的指標を用いた研究、ならびに女性の排泄機能障害など、尺度を用いた調査研究のサブストラクション並びにクリティカルレビューの方法を探究する。</p>	
授業の進め方	<p>（坂口）</p> <p>自らの研究課題に即して、プレテストを行い研究方法の信頼性や妥当性について検討する。その過程を通して本調査、本実験の準備を行う。 授業の中では、演習の結果を発表し討議を進める中で、各自の研究課題や方法について各種条件を整えていく。 手法や内容によって適宜専門家に相談し進める。</p>	
テキスト、教材、参考書	適宜、紹介する。	
成績評価の方法	学生の理解度や姿勢を総合的に評価したいと思います。（坂口担当分）	
成績評価の基準	レポートについては、(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」。	
事前事後学習の内容	授業前後には、必要な時間、予習と復習に当てること。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	適宜、メールにでも対応します。	

科目名	リプロダクティブ・ヘルス看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Reproductive Health	
担当教員	坂口 けさみ	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 2年次	通年 月曜, 3時限 月曜, 4時限 ,不定期
単位数、講義室	10単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	研究プロセスに則り一連の研究成果を論文にまとめ、社会に公表できる。
授業概要	女性並びに子どもの生涯にわたる健康と看護並びに助産に関連した領域において、学生の主体的発想を重視した研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に実施し、一連の研究成果を論文にする。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	リプロダクティブ・ヘルスに関連した研究課題を設定し、研究計画書に基づきデータを収集する。 また、得られたデータの分析結果に基づき研究成果を論文として仕上げていく。 この一連の過程を通して、研究者としての研究能力を身につける。	
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題および研究目的を設定できる。</li> <li>2. 研究課題におけるこれまでの国内外の研究の動向について理解できる。</li> <li>3. 研究課題の意義について述べるができる。</li> <li>4. 研究課題を達成するための研究デザインを適切に選択すると共に、研究方法の信憑性や妥当性について十分に検討できる。また研究を進めるために必要な倫理的配慮ができる。</li> <li>5. 研究計画書に基づきデータを収集する。</li> <li>6. 得られたデータを適切に分析できる。また不足しているデータについても気づくことができる。</li> <li>7. 結果に基づき科学的論文として仕上げることができる。</li> <li>8. 研究の限界について述べるができる。</li> <li>9. 行った研究課題をわかりやすくかつ論理的に発表することができる。また質疑応答に際して適切に回答できる。</li> </ol>	
授業計画	各自の研究計画書に従ってデータ収集、分析、論文作成へと進める。	
授業の進め方	適宜、プレゼンテーションを行いながら進捗状況を確認する。	
テキスト、教材、参考書	指定なし。関係する研究論文を収集し、十分に熟読すること。	
成績評価の方法	研究過程および論文内容、発表、質疑応答等を総合的に評価したいと思います。	
成績評価の基準	論文について、(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して適切な方法を用いてデータ収集し、適切に分析しており、(v) その上で論文にまとめられており、かつ、教員が感心するレベルにあれば「卓越している」とし、以下課題レベルの質により、「かなり上にある」、「やや上にある」、「水準にある」。	
事前事後学習の内容	各自のレベルに合わせて行うこと。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	どんなことも全てが勉強です。楽しくやりましょう。	

科目名	リプロダクティブ・ヘルス看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Reproductive Health	
担当教員	金井 誠	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 2年次	通年 月曜, 3時限 月曜, 4時限 ,不定期
単位数、講義室	10単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	リプロダクティブ・ヘルスに関連する最新論文を検索し、内容の妥当性を分析する。
	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	高い倫理観と高度な専門知識に基づいた研究を行い、論文を作成する。
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	高い倫理観と高度な専門知識に基づいた研究を行い、論文を作成する。
授業概要	女性並びに子どもの生涯にわたる健康と看護並びに助産に関連した領域において、学生の主体的発想を重視した研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に実施し、一連の研究成果を論文にする。  * 本授業は、男女共同参画に関する内容を含んでいる。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	リプロダクティブ・ヘルスに関連した研究課題を設定し、これに関連する最新の研究に関する情報収集能力・分析能力を身につける。 分析結果を踏まえて、倫理的配慮に基づいた研究計画書を作成し、これに基づきデータを収集する。 得られたデータの分析結果に基づき研究成果を論文としてまとめ情報発信する。 この一連の過程を通して、研究者としての研究能力を身につける。	
SB0s（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題および研究目的を設定できる。</li> <li>2. 研究課題におけるこれまでの国内外の研究の動向について理解するとともに、情報収集能力・分析能力を身につける。</li> <li>3. 研究課題の意義について述べるができる。</li> <li>4. 研究課題を達成するための研究デザインを適切に選択すると共に、研究方法の信憑性や妥当性について十分に検討できる。また研究を進めるために必要な倫理的配慮ができる。</li> <li>5. 研究計画書に基づきデータを収集する。</li> <li>6. 得られたデータを適切に分析できる。また不足しているデータについても気づくことができる。</li> <li>7. 結果に基づき科学的論文としてまとめ情報発信する。</li> <li>8. 研究の限界について述べるができる。</li> <li>9. 行った研究課題をわかりやすくかつ論理的に発表することができる。また質疑応答に際して適切に回答できる。</li> </ol>	
授業計画	各自の研究計画書に従ってデータ収集、分析、論文作成へと進める。	
授業の進め方	適宜、プレゼンテーションを行いながら進捗状況を確認する。	
テキスト、教材、参考書	<p>【テキスト】 随時、紹介する。</p> <p>【参考書・参考資料等】 適宜、指示する。</p>	
成績評価の方法	研究過程および論文内容、発表、質疑応答等を総合的に評価する。	
成績評価の基準	研究計画書および科学的論文の作成過程と作成物を評価する。(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」。	
事前事後学習の内容	毎回リーディング課題を課す。授業開始直後にその理解を問う口頭試問を行うので、それに備えて課題をしっかりと読み込んでから授業に臨むこと。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	どんなことも全てが勉強です。楽しくやりましょう。	

科目名	リプロダクティブ・ヘルス看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Reproductive Health	
担当教員	玉井 真理子	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 2 年次	通年 月曜, 3 時限 月曜, 4 時限 , 不定期
単位数、講義室	10 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を實踐できる。	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。
授業概要	女性並びに子どもの生涯にわたる健康と看護並びに助産に関連した領域において、学生の主体的発想を重視した研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に実施し、一連の研究成果を論文にする。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	リプロダクティブ・ヘルスに関連した研究課題を設定し、研究計画書に基づきデータを収集する。 また、得られたデータの分析結果に基づき研究成果を論文として仕上げていく。 この一連の過程を通して、研究者としての研究能力を身につける。	
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究課題および研究目的を設定できる。</li> <li>2. 研究課題におけるこれまでの国内外の研究の動向について理解できる。</li> <li>3. 研究課題の意義について述べることができる。</li> <li>4. 研究課題を達成するための研究デザインを適切に選択すると共に、研究方法の信憑性や妥当性について十分に検討できる。また研究を進めるために必要な倫理的配慮ができる。</li> <li>5. 研究計画書に基づきデータを収集する。</li> <li>6. 得られたデータを適切に分析できる。また不足しているデータについても気づくことができる。</li> <li>7. 結果に基づき科学的論文として仕上げることができる。</li> <li>8. 研究の限界について述べるができる。</li> <li>9. 行った研究課題をわかりやすくかつ論理的に発表することができる。また質疑応答に際して適切に回答できる。</li> </ol>	
授業計画		
授業の進め方	適宜、プレゼンテーションを行いながら進捗状況を確認する。	
テキスト、教材、参考書		
成績評価の方法	研究過程および論文内容、発表、質疑応答等を総合的に評価したいと思います。	
成績評価の基準		
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問はメール <a href="mailto:mtamai@shinshu-u.ac.jp">mtamai@shinshu-u.ac.jp</a> にて受け付ける。学籍番号と氏名を明記の上で送信すること。3日以内に返信がない場合は再送信。	

科目名	小児保健・看護学演習 Practice in Child Health Nursing	
担当教員	平林 優子 他 市川 元基, 鈴木 泰子	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 1年次	後期 月曜, 1時限 月曜, 6時限
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	小児保健・看護の最新のテーマについて研究的な根拠とともに理解できる。
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	文献検討を通しサブストラクシオン並びにクリティカルレビューの方法を身につける。
授業概要	小児保健・看護学に関連する領域の文献検討をとおして、小児保健・看護の最新のテーマについての研究を理解し、サブストラクシオン並びにクリティカルレビューの方法を身につける。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	小児保健・看護学に関連した領域の中で研究課題に関連する文献の効果的な検索方法を理解すると共に、文献検討をとおして研究課題の系統的な流れや研究方法を理解する。また、関連する領域の文献検討をとおして、サブストラクシオン並びにクリティカルレビューの方法を身につける。	
SBOs(行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児保健・看護学に関連した領域における文献の効果的な検索方法を理解する。</li> <li>2. 文献検索をとおして研究課題に対する背景を系統的に理解する。</li> <li>3. 小児保健・看護学に関連した領域における研究について、倫理的側面並びに研究方法、結果を含め、批判的に論評することができる。</li> </ol>	
授業計画	<p>(平林優子: 6回 10/2, 10/16, 10/23, 10/30, 11/6, 11/13) 小児看護学領域・療養環境領域の文献を中心に進める。</p> <p>(市川元基: 6回 11/20, 11/27, 12/4, 12/11, 12/18, 12/25) 小児保健領域の最新の話題を中心に進める。</p> <p>(鈴木泰子: 3回 1/9, 1/15, 1/22) 小児看護学の臨床看護の文献を中心に進める。</p>	
授業の進め方	学生によるプレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。	
テキスト, 教材, 参考書	随時, 紹介する。	
成績評価の方法	学生の理解度や学習成果(レビュー, サブストラクシオン)を総合的に評価する。	
成績評価の基準	プレゼンテーション, 討議に参加する: 「水準にある」, プレゼンテーション, 討議にやや積極的に参加する: 「やや上にある」, プレゼンテーション, 討議に積極的に参加する: 「かなり上にある」, プレゼンテーション, 討議で優れた意見を述べる: 「卓越している」。	
事前事後学習の内容	毎回授業の際, 事前事後学習の内容を伝える。	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	随時, 対応します。	

登録コード:MA734200		授業科目区分	選択科目
科目名	小児保健・看護学演習 Practice in Child Health Nursing		
担当教員	平林 優子 他 市川 元基, 鈴木 泰子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 2 年次		前期 月曜, 4 時限 火曜, 6 時限
単位数、講義室	2 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。研究課題を絞り適切な研究方法を選択し研究条件を整えることができる。		
授業概要	小児保健・看護研究の動向に関する理解を深め、学生の関心領域に関する文献の検討を通じて、小児保健・看護学における顕在・潜在する重要な課題や看護実践を精選して研究テーマを見出し、そのテーマを実証的に検証する方法を検討し、研究を進めるための条件を整える。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児保健・看護学における関心領域の健康課題および小児保健・看護実践に関連する系統的文献検討に基づき、研究テーマを精選する。</li> <li>2. 研究テーマに適した研究方法と対象を検討する。</li> <li>3. 研究が遂行できるように病院施設や対象との調整を行い協力を得られるよう条件を整える。</li> </ol>		
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児保健・看護学における関心領域の健康課題および小児保健・看護実践に関連する系統的文献検討を行い、研究テーマを絞り込むことができる。</li> <li>2. 研究テーマに適した研究方法と対象を検討できる。</li> <li>3. 研究が遂行できるように病院施設や対象との調整を行い協力を得られるよう条件を整えることができる。</li> </ol>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児保健・看護学研究の動向 (10/2, 10/3, 10/10, 10/16, 10/17, 10/23, 10/24)</li> <li>2. 関心領域の健康課題, 小児保健・看護実践に関する文献の検討に基づく, 顕在・潜在する重要な課題の抽出 (10/30, 10/31, 11/6, 11/7, 11/13, 11/14)</li> <li>3. 小児保健・看護学における研究課題の精選 (11/20, 11/21, 11/27, 11/28, 12/4, 12/5)</li> <li>4. 研究課題に適した研究対象・方法の検討 (12/11, 12/12, 12/18, 12/19, 12/25, 12/26)</li> <li>5. 研究遂行に必要な諸条件の整備 (1/9, 1/15, 1/16, 1/22, 1/23)</li> </ol> <p>* 小児保健・看護の観点は平林, 医学的観点は市川, 臨床看護の観点は鈴木がアドバイスする。</p>		
授業の進め方	各自の文献検討とグループによる検討を繰り返す。適宜, 専門家に相談し進める。		
テキスト, 教材, 参考書	適宜, 紹介する。		
成績評価の方法	各段階の達成度で評価する。		
成績評価の基準	プレゼンテーション, 討議に参加する: 「水準にある」, プレゼンテーション, 討議にやや積極的に参加する: 「やや上にある」, プレゼンテーション, 討議に積極的に参加する: 「かなり上にある」, プレゼンテーション, 討議で優れた意見を述べる: 「卓越している」。		
事前事後学習の内容	毎回授業の際, 事前事後学習の内容を伝える。		
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	質問, 相談は, 随時, 対応します。		

科目名	小児保健・看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Child Nursing	
担当教員	市川 元基	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 2年次	通年 月曜, 3時限 月曜, 4時限 ,不定期
単位数、講義室	10単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	
授業概要	小児保健・看護学領域に関する研究テーマを設定し、適切な研究方法を選択して研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、研究論文を完成させる。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児保健・看護学領域に関する研究テーマを設定する。</li> <li>・適切な研究方法を選択して研究計画書を作成する。</li> <li>・データ収集・分析を行い、研究論文を完成させる。</li> </ul>	
SBOs(行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究テーマを設定できる。</li> <li>・適切な研究方法を選択して研究計画書が作成できる。</li> <li>・倫理委員会提出用の書類が作成できる。</li> <li>・データの収集ができる。</li> <li>・データの分析ができる。</li> <li>・研究論文を作成することができる。</li> <li>・研究成果のプレゼンテーションができる。</li> </ul>	
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献購読会と研究ミーティングに基づいた研究テーマの設定</li> <li>・研究計画の立案</li> <li>・研究計画書の作成</li> <li>・倫理委員会提出用書類の作成</li> <li>・調査の実施</li> <li>・研究データの収集およびその処理</li> <li>・修士論文の作成</li> <li>・研究成果のプレゼンテーション</li> </ul>	
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカッション</li> <li>・プレゼンテーション</li> </ul>	
テキスト, 教材, 参考書	テキストは、指定しない。	
成績評価の方法	研究の各プロセスの遂行状況と論文内容、発表、質疑応答等を総合的に評価する。	
成績評価の基準	プレゼンテーション, 討議に参加する: 「水準にある」, プレゼンテーション, 討議にやや積極的に参加する: 「やや上にある」, プレゼンテーション, 討議に積極的に参加する: 「かなり上にある」, プレゼンテーション, 討議で優れた意見を述べる: 「卓越している」。	
事前事後学習の内容	毎回授業の際, 事前事後学習の内容を伝える。	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	質問, 相談は, 随時, 対応します。	

科目名	小児保健・看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Child Nursing	
担当教員	平林 優子	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	母子看護学領域 / 2年次	通年 ,不定期
単位数、講義室	10単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	研究課題に関連する最新論文検討ができる。
	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	高度な倫理性を持ち科学的基盤にもとづいた研究を実施し、論文作成ができる。
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	小児保健・小児看護学領域における独創的な観点で研究を推進できる。
授業概要	小児保健・小児看護学領域に関するテーマを設定し、適切な研究方法を選択して研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、研究論文を完成させる。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児保健・小児看護学領域に関する研究テーマを設定する。</li> <li>・適切な研究方法を選択し、研究計画書を作成する。</li> <li>・データ収集・分析を行い、研究論文を完成させる。</li> </ul>	
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選択領域に關す適切な研究テーマを設定できる。</li> <li>・テーマに關する適切な文献検討を行うことができる。</li> <li>・研究目的・目標を明確に示すことができる。</li> <li>・研究目的に見合った適切な研究方法を選択し、研究計画書を作成できる。</li> <li>・研究倫理審査に適した書類を作成できる。</li> <li>・計画書に従って、データ収集が適切に実施できる。</li> <li>・収集したデータの分析が適切に行える。</li> <li>・研究論文を作成することができる。</li> <li>・研究成果のプレゼンテーションができる。</li> </ul>	
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献購読と研究ミーティングに基づいた研究テーマの設定</li> <li>・研究計画の立案</li> <li>・研究計画書の作成</li> <li>・倫理委員会提出用書類の作成</li> <li>・調査の実施</li> <li>・研究データの収集およびその処理</li> <li>・修士論文の作成</li> <li>・研究成果のプレゼンテーション</li> </ul>	
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスカッション</li> <li>・プレゼンテーション</li> </ul>	
テキスト、教材、参考書		
成績評価の方法	研究の各プロセスの遂行状況と論文内容、発表、質疑応答等を総合的に評価する。	
成績評価の基準	上記（本学修士課程評価研究論文基準に従う）	
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応		

登録コード:MA740100		授業科目区分	選択科目
科目名	地域・国際看護学特論 Special Lectures in Community Health Nursing and International Health Nursing		
担当教員	奥野 ひろみ 他 五十嵐 久人, 高橋 宏子, 山崎 明美		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 1年次 前期 月曜, 1時限 月曜, 6時限		
単位数、講義室	2 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。 地域看護学領域の実践及び研究の基盤となる理論・理念を理解する。		
授業概要	地域看護学及び国際看護学領域の実践及び研究の基盤となる理論・理念について論述する。また、国際的な課題と国内の保健分野の課題を取り上げ、その解決のための方向性を探求する。 本授業は、オムニバス方式で実施する。		
一般学習目標G10(期待される学習効果)	1. 地域看護学領域の実践及び研究の基盤となる理論・理念を理解する。 2. グローバルな視点で国際看護学領域の実践及び研究の基盤となる理論・理念を理解する。 3. 健康課題の現状と解決の方向性を理解する。		
SBOs(行動目標)	1. 地域看護学領域の実践及び研究の基盤となる理論・理念を説明できる。 2. 国際看護学領域の実践及び研究の基盤となる理論・理念を説明できる。 3. 各理論・理念が実践の場でどのように位置づいているのかを説明できる。 4. 各保健分野の課題とその解決の方向性を説明できる。		
授業計画	第1回 (4/10) オリエンテーション 第2回 (4/17) プライマリヘルスケア 第3回 (4/24) ヘルスプロモーション 第4-5回 (5/1.8) 成人保健の課題と解決の方向性・行動変容理論 第6-7回 (5/15.22) 高齢者保健の課題と解決の方向性 第8-9回 (5/29.6/5) 精神保健の課題と解決の方向性 第10-11回 (6/12.19) 母子保健の課題と解決の方向性 第12-13回 (6/26.7/3) 開発途上国における国際看護の課題と解決の方向性 第14-15回 (7/10.24) 先進国における看護の方向性		
授業の進め方	講義 発表と討議		
テキスト, 教材, 参考書	適宜, 提示		
成績評価の方法	発表 討議 レポート		
成績評価の基準	発表内容およびレポートは, (i) 問題の設定が適切であり, (ii) その問題の背景を説明できており, (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており, (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており, (v) その上で自分の見解を提示できており, かつ, 教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」, (i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」, 4項目までできていれば「やや上にある」, 3項目までできていれば「水準にある」。		
事前事後学習の内容	授業時に次回までの学習についてアナウンスする。		
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	オムニバス形式で, 最新の課題について考えて行きます。自分の興味と引き付けてクラスに参加してください。		

登録コード:MA740200		授業科目区分	選択科目
科目名	地域・国際看護学援助特論 Special Lectures for Caring in Community Health Nursing and International Health		
担当教員	奥野 ひろみ 他 五十嵐 久人, 高橋 宏子, 下里 誠二, 横川 吉晴, 山崎 明美		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 1年次 前期 月曜, 2時限 月曜, 7時限		
単位数、講義室	2 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	集団の健康増進と保護を図るための個人へのアプローチの理解	
授業概要	地域看護は、看護学、公衆衛生学、社会学による知識を用いて、集団の健康の増進と保護を図る活動である。 この基本概念に沿って個人・集団を対象としたアプローチのあり方を探求する。		
一般学習目標G10(期待される学習効果)	1.地域看護の存在意義を理解する。 2.看護学、公衆衛生学、社会学から得られた知見を総合的に理解する。 3.集団の健康増進と保護を図るための個人へのアプローチ方法を理解する。		
SBOs(行動目標)	1.地域看護の存在意義を説明できる。 2.事例を用いて看護学、公衆衛生学、社会学から得られた知見を総合的に説明できる。 3.事例を用いて個人へのアプローチの方法を説明できる。 4.事例を用いて集団へのアプローチの方法を説明できる。 5.事例見当から情報収集と分析力を身につける。		
授業計画	第1回 (4/10) オリエンテーション 第2-3回 (4/17.24) 健康と社会 第4-7回 (5/1.8.15.22) 個別へのアプローチ 第8-11回 (5/29.6/5.12.19) 集団へのアプローチ 第12-15回 (6/26.7/3.10.24.31) 政策化		
授業の進め方	講義 発表と討論		
テキスト、教材、参考書	適宜、提示する。		
成績評価の方法	発表、討論、レポート		
成績評価の基準	発表内容およびレポートは、(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」。		
事前事後学習の内容	授業時に次回までの事前学習についてアナウンスする。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	個人が知りたいと考えている内容を深く掘り下げる努力をしていきましょう。		

科目名	地域・国際看護学演習 Practice in Community Health Nursing and International Health Nursing	
担当教員	奥野 ひろみ 他 五十嵐 久人, 山崎 浩司	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 1年次	後期 月曜, 1時限 月曜, 6時限
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において 独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	研究手法の理解に基づき、自らの研究を考える。
授業概要	地域看護・国際看護に関する先行研究文献から、様々な研究課題、調査方法等を論ずる。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1. 地域看護・国際看護における調査手法を理解する。 2. 先行研究のクリティークの意義と方法の理解を深める。 3. 研究デザイン、分析方法の理解を深める。	
SBOs（行動目標）	1. 地域看護・国際看護における調査手法を列挙できる。 2. 先行研究の研究デザインを批評することができる。 3. 先行研究のデータ収集方法を批評することができる。 4. 先行研究の分析方法を批評することができる。 5. 学習した調査手法を研究計画に応用できる。	
授業計画	第1回（10/2） オリエンテーション  第2-8回（10/16.23.11/6.13.20.27.12/4） 質問紙を用いた調査研究のデザインと調査方法  第9-11回（12/11.18.25） 半構成的面接法を用いた調査票のデザインと調査方法  第12-14回（1/9.15.22） 介入研究の調査方法  第15回（1/29） まとめ	
授業の進め方	発表と討議	
テキスト、教材、参考書	適宜、紹介	
成績評価の方法	発表と討議	
成績評価の基準	発表内容は、(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、(i) から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」。	
事前事後学習の内容	クラスに参加するときは、必ずディスカッションすべき資料を持参すること。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	研究をするうえで必要となる研究計画の基本的な考え方と方法を学びます。具体的に先行研究で示された文献を用いて実際に研究計画の立て方を学びます。	

科目名	地域・国際看護学演習 Practice in Community Health Nursing and International Health Nursing	
担当教員	奥野 ひろみ 他 五十嵐 久人, 山崎 浩司	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 2 年次 前期 月曜, 4 時限 火曜, 6 時限	
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	自らの研究テーマを集約し研究計画書を作成する。
	保健・医療・福祉の現場において独自の観点で研究を推進する能力を有する。	論理的思考に基づき研究計画書を作成する。
授業概要	学生の関心領域を中心に、当該分野専門家の助言を受けながら、研究計画を作成する。	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テーマに沿って研究計画を作成することができる。</li> <li>2. 研究に必要な資料や情報を収集できる。</li> <li>3. 計画の一部を実践できる。</li> </ol>	
SBOs (行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特定地域・集団の健康問題を明らかにできる。</li> <li>2. 先行研究がどこまで進んでいるかを明らかにできる。</li> <li>3. 研究の目的を明らかにできる。</li> <li>4. 研究に必要な資料や情報を収集できる。</li> <li>5. テーマにそって研究計画書を作成できる。</li> </ol>	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 情報収集と分析</li> <li>3. 研究計画書の作成</li> </ol>	
授業の進め方	発表と討議	
テキスト, 教材, 参考書	適宜, 提示	
成績評価の方法	発表と討議 研究計画書	
成績評価の基準	研究計画書は、(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、(i) から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」。	
事前事後学習の内容	当日のプレゼンテーションに用いる資料を持参すること。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	この授業では、多くのディスカッションを行います。また、専門分野の先生方からも助言をもらうなどがあります。論理的な思考により、専門性の高い研究計画を学びます。	

科目名	地域・国際看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Community Health Nursing and International Health	
担当教員	奥野 ひろみ	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 2 年次	通年 月曜, 3 時限 月曜, 4 時限 , 不定期
単位数、講義室	10 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を實踐できる。	研究計画書に基づきデータの収集分析から結果を導くことができる。
	地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	研究結果から新しい知見を導くことができる。
授業概要	地域・国際看護に関する研究テーマを設定し、適切な研究方法を用いて研究を遂行し、修士論文を完成させる。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>適切な研修テーマを設定できる。</li> <li>テーマに関する知識を十分に得ることができる。</li> <li>適切な研究方法を選択し、研究計画を作成できる。</li> <li>研究計画に沿って研究を実施し、修士論文を完成できる。</li> </ol>	
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>研究テーマを設定し、適切な仮説を表現できる。</li> <li>関連性のある先行研究から得た知見を、系統的にまとめることができる。</li> <li>研究テーマに照らして適切な研究デザインを設定できる。</li> <li>適切なデータ収集及び分析方法を選択できる。</li> <li>対象の文化的・社会的背景を考慮し、倫理的な配慮を十分に行なうことができる。</li> <li>妥当で研究可能な研究計画を作成できる。</li> <li>研究計画に沿って、研究を実施できる。</li> <li>データを適切に処理し、統計手法等を用いて分析ができる。</li> <li>研究結果を用いて、論理的で説得力のある考察をすることができる。</li> <li>研究の限界性も含めて、明確かつ網羅的に論述できる。</li> <li>上記を統合し、修士論文を完成することができる。</li> </ol>	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>文献検討</li> <li>研究デザイン</li> <li>対処の選定と研究方法の検討</li> <li>研究計画書の作成</li> <li>倫理委員会での研究計画書審査</li> <li>研究の実施</li> <li>結果の分析・考察</li> <li>論文作成</li> </ol>	
授業の進め方	発表と討論 個人指導	
テキスト、教材、参考書	適宜、紹介	
成績評価の方法	修士論文	
成績評価の基準	論文は(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」。	
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	汎用性があり発展性があるテーマや研究方法を選択できるよう、積極的に臨んでください。	

登録コード:MA740501		授業科目区分	必修科目
科目名	地域・国際看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Community Health Nursing and International Health		
担当教員	山崎 浩司		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 2 年次	通年	月曜, 3 時限 月曜, 4 時限 , 不定期
単位数、講義室	1 0 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	緻密な先行研究レビューと自分の問題意識の深い内省から独自の研究課題を設定できる。	
	地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	実践現場のリサーチと変革を、現場の関係者と連携・協働しながら進めることができる。	
授業概要	指導教員の指導の下、地域での看取りや死別体験に関する支援について、参加型アクションリサーチを軸に研究を計画・遂行・評価し、地域・国際看護学領域における修士論文の作成と現場の状況改善を試みる。 参加型アクションリサーチの特性上、地域の住民や様々な関連セクターとの連携・協働が求められる。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>適切な研究テーマを設定できる。</li> <li>テーマに関連した先行研究のクリティークができる。</li> <li>適切な研究方法を選択し、研究計画を作成できる。</li> <li>研究計画に基づきつつも、現場の状況に応じて柔軟に修正し、研究を遂行して修士論文を完成できる。</li> </ol>		
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>現場の変革や改善を目指す社会的意義の高い研究テーマを設定できる。</li> <li>テーマに関連した先行研究の緻密なクリティークができる。</li> <li>参加型アクションリサーチを枠組みに、適切な研究デザインを設定できる。</li> <li>適切なデータ収集方法および分析方法を選択できる。</li> <li>協働する現場の人々および研究協力者の状況や背景を十分考慮し、倫理的に配慮できる。</li> <li>社会的および方法論的に妥当で実施可能な研究計画を作成できる。</li> <li>研究計画に基づきつつも、現場の状況に応じて柔軟に修正し、研究を遂行できる。</li> <li>選択した研究法に則した厳密性の高い分析ができる。</li> <li>研究結果を用いて、論理的で説得力のある考察ができる。</li> <li>研究の限界も含めて、明確かつ包括的に論述できる。</li> <li>社会的・学術的意義の高い修士論文を完成することできる。</li> </ol>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>文献クリティーク，テーマ設定</li> <li>対象現場への参入</li> <li>研究デザインの検討，参加型アクションリサーチの学習</li> <li>データ収集方法・分析方法の検討</li> <li>研究計画書の作成</li> <li>倫理委員会での研究計画書審査</li> <li>研究・活動・観察</li> <li>分析・考察・内省</li> <li>論文執筆</li> </ol>		
授業の進め方	先行研究のクリティーク，テキスト読み込みによる参加型アクションリサーチの学習，現場の人々も交えたディスカッションや発表，活動実践などにより，授業を進めていく。		
テキスト，教材，参考書	適宜，紹介		
成績評価の方法	研究の進展状況と最終的に完成した修士論文で評価する。		
成績評価の基準	問題の設定が適切であり，その問題の背景を十分に説明でき，その問題にある課題を指摘でき，課題に対して既存の学術的知見を十分に検討でき，そのうえで自分の見解を論理的に説明でき，さらに対象現場の人々と連携・協働でき，現場の状況を少しでも改善・変革でき，最終的に教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」，7項目を満たしていれば「かなり上にある」，6項目を満たしていれば「やや上にある」，5項目を満たしていれば「水準にある」，4項目以下であれば「水準に達していない」とする。		
事前事後学習の内容	各回で提示する。		
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	参加型アクションリサーチは，既存の実証的な研究と異なり，明確な価値判断に基づき，問題があると思われる状況の改善や変革を，その問題の現場の人々（当事者や支援者）などと一緒に活動および研究することを目指していく，ユニークな研究アプローチです。 難しさもありますが，現場の人々と実際に状況を変えていくことができれば，とてもやりがいを感じられます。 活動と研究を両立でき，かつ，多様な関係者と連携・協働できる学生を求めます。 履修を希望する学生は，必ず事前に参加型アクションリサーチに関する本を読んだうえで，教員に相談しにきてください。〔hryamazaki@shinshu-u.ac.jp〕		

科目名	地域・国際看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Community Health Nursing and International Health
担当教員	五十嵐 久人
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 2年次 通年 月曜, 3時限 月曜, 4時限 , 不定期
単位数、講義室	10単位
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	
授業概要	開講しない。
一般学習目標G10(期待される学習効果)	開講しない。
SBOs(行動目標)	開講しない。
授業計画	開講しない。
授業の進め方	開講しない。
テキスト, 教材, 参考書	開講しない。
成績評価の方法	開講しない。
成績評価の基準	開講しない。
事前事後学習の内容	開講しない。
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	開講しない。

科目名	精神看護学特論 Special Lectures in Psychiatric and Mental Health Nursing
担当教員	下里 誠二 他 小林 正義, 奥野 ひろみ, 五十嵐 久人, 高橋 宏子
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 1年次 前期 月曜, 1時限 月曜, 6時限
単位数、講義室	2 単位
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。 高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。
授業概要	精神保健医療福祉の動向について検討しつつ、対象者、家族および集団に対して、精神看護学の基礎的な諸理論や知識を用いた看護介入方法または、治療的介入方法を探究する。また、精神障がい者の人権を擁護するための倫理的問題について探求する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	精神看護に関するケアの質の向上を目指し、優れた情報収集能力、分析能力、実践能力並びに研究能力の素地を養う。
SBOs（行動目標）	1.精神看護学の治療的介入の理論について述べることができる。 2.精神保健上の様々な健康問題についての支援方法について理解し実践できる。 3.精神障がい者に対する権利擁護の方法について理解することができる。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2-8回 精神科における治療的介入 第9-10回 精神医療と人権擁護 第11-15回 地域精神医療と支援方法
授業の進め方	講義 発表, 討論, レポート
テキスト, 教材, 参考書	適宜, 紹介する。
成績評価の方法	出席, 発表, 提出物等を総合的に評価する。
成績評価の基準	(1)問題の設定が適切であり, (2)その問題の背景を説明でき, (3)その問題にある課題を指摘でき, (4)課題に対して既存の学術的知見を十分に検討でき, (5)そのうえで自分の見解を論理的に説明できており, さらに教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」, 5項目を満たしていれば「かなり上にある」, 4項目を満たしていれば「やや上にある」, 3項目を満たしていれば「水準にある」。
事前事後学習の内容	毎回事前・事後学習の内容を提示し, プレゼンします。
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	

科目名	精神看護学特論 Special Lectures in Psychiatric and Mental Health Nursing
担当教員	下里 誠二
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 1年次 後期 月曜, 1時限 月曜, 6時限
単位数、講義室	2単位
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。
授業概要	精神科病院の入院医療における精神看護の方法論に関する理論や援助法について文献検討や事例検討を行い、プレゼンテーション等を通して、急性期、回復期における情報収集能力、情報分析能力を養い評価法やリスクマネジメントや援助の具体策について探求する。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1.精神科入院医療における精神看護の役割と看護実践の特質について理解を深める。 2.急性期、回復期における評価法について理解を深める。 3.精神科入院医療におけるリスクマネジメントについて理解を深める。
SBOs（行動目標）	1.精神科入院医療における評価法について論述できる。 2.アセスメントツールを適用した評価法に基づいた有効な看護実践について論述できる。 3.精神保健看護に特有なリスクマネジメントについて論述できる。
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 担当決定 第3-6回 資料収集 第7-14回 各テーマに関するプレゼンテーションと討議 第15回 まとめ
授業の進め方	発表，討論
テキスト，教材，参考書	適宜，紹介する。
成績評価の方法	出席，発表，提出物等を総合的に評価する。
成績評価の基準	(1)問題の設定が適切であり，(2)その問題の背景を説明でき，(3)その問題にある課題を指摘でき，(4)課題に対して既存の学術的知見を十分に検討でき，(5)そのうえで自分の見解を論理的に説明できており，さらに教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」，5項目を満たしていれば「かなり上にある」，4項目を満たしていれば「やや上にある」，3項目を満たしていれば「水準にある」。
事前事後学習の内容	毎回事前事後学習の内容を提示し，成果をプレゼンします。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	

科目名	精神看護学演習 Practice in Psychiatric and Mental Health Nursing	
担当教員	下里 誠二	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 1年次	後期 月曜, 2時限 月曜, 7時限
単位数、講義室	2 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	
授業概要	精神保健, 精神看護学に関する国内外の先行研究レビューを行い, プレゼンテーション, 討議によって, 精神保健看護学領域の知識を得て, 研究的視点, 課題を明らかにする。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	精神保健看護に関する情報収集能力, 情報分析能力を養い文献レビューにより, 精神保健・精神看護に関連した最新の知見を学ぶ。 また, 精神看護学で扱うべき研究課題を明らかにする。	
SBOs(行動目標)	1. 文献調査により精神保健・看護に関する最新の知見を入手できる。 2. 海外のトピックスなど関連領域の情報, 先行研究から専門知識を深めるとともに, 精神看護で扱うべき研究課題を列挙できる。	
授業計画	1. 精神保健・精神看護に関する研究の動向の検討 2. 精神保健・精神看護に関する研究の方法についての検討 3. 関心領域の文献検討にもとづく重要な研究課題の抽出 4. 研究課題の精選	
授業の進め方	プレゼンテーション, 討議	
テキスト, 教材, 参考書	適宜, 紹介する。	
成績評価の方法	出席, 発表, 提出物等で評価する。	
成績評価の基準	(1)問題の設定が適切であり, (2)その問題の背景を説明でき, (3)その問題にある課題を指摘でき, (4)課題に対して既存の学術的知見を十分に検討でき, (5)そのうえで自分の見解を論理的に説明できており, さらに教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」, 5項目を満たしていれば「かなり上にある」, 4項目を満たしていれば「やや上にある」, 3項目を満たしていれば「水準にある」。	
事前事後学習の内容	毎回提示し, 成果をプレゼンします。	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応		

科目名	精神看護学演習 Practice in Psychiatric and Mental Health Nursing		
担当教員	下里 誠二		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 2 年次	前期	月曜, 4 時限 火曜, 6 時限
単位数、講義室	2 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。		
	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。		
授業概要	病院，地域における精神科医療の中でそれぞれ関心のあるフィールドを設定し，演習を通して関心のあるテーマから臨床研究の方法論を探求する。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	精神保健看護における関心領域の看護実践に関する課題を理解した上で実際のフィールドに出て具体的な研究方法について検討し，情報分析能力発信能力を養う。		
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神保健看護における関心領域の看護実践に関する具体的な研究方法と課題について検討できる。</li> <li>2. 特定の看護実践に關する専門職から現状に関する意見を聴取して文献と検証しながら課題の理解を深めることができる。</li> <li>3. 文献を通じた論理的な検証を加えて実際のデータと統合して研究遂行能力を高めることができる。</li> </ol>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神保健看護の対象についての特性，課題と支援方法について文献を系統的に収集し分析・検討する。</li> <li>2. 関心領域の施設を選定しそのフィールドにおける演習を行う。</li> <li>3. 演習結果の分析を通じて実践上の問題と具体的な研究方法を検討する。</li> <li>4. プレゼンテーションと討議</li> </ol>		
授業の進め方	演習，プレゼンテーション，討議		
テキスト，教材，参考書	適宜，紹介する。		
成績評価の方法	演習の状況，発表，提出物等で総合的に評価する。		
成績評価の基準	(1)問題の設定が適切であり，(2)その問題の背景を説明でき，(3)その問題にある課題を指摘でき，(4)課題に対して既存の学術的知見を十分に検討でき，(5)そのうえで自分の見解を論理的に説明できており，さらに教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」，5項目を満たしていれば「かなり上にある」，4項目を満たしていれば「やや上にある」，3項目を満たしていれば「水準にある」。		
事前事後学習の内容	毎回提示し，プレゼンします。		
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応			

科目名	精神看護学特別研究 Research Thesis (Master's) in Psychiatric and Mental Health Nursing	
担当教員	下里 誠二	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	地域・国際・精神看護学領域 / 2 年次	通年 月曜, 3 時限 月曜, 4 時限 , 不定期
単位数、講義室	10 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	文献検討, 研究デザインの設定
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	データ収集及び分析, 論文作成
授業概要	精神看護学に関する研究テーマを設定し, 適切な研究方法を用いて研究を遂行し, 修士論文を完成させる。	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報収集, 情報分析を行い研究テーマを決定し適切な研究デザインにより研究対象・方法を選択し研究計画書を作成する。</li> <li>2. 研究に関する倫理的課題を理解し対象への配慮ができる。</li> <li>3. 研究計画に従って研究を遂行し修士論文を完成する。</li> </ol>	
SBOs (行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマ, 対象・方法, 分析方法が適切で遂行に無理のない研究計画書が作成できる。</li> <li>2. 研究実施上必要な配慮を含む倫理審査申請書が作成できる。</li> <li>3. 計画書に従って研究を遂行し修士論文を完成することができる。</li> </ol>	
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テーマに関する文献の検討</li> <li>・ 研究計画書の作成, 倫理審査申請書の作成</li> <li>・ 研究計画書に従って研究を遂行し研究結果を出す。</li> <li>・ 修士論文の完成</li> </ul>	
授業の進め方	教員と相談しながらすすめる。	
テキスト, 教材, 参考書		
成績評価の方法	研究の各プロセスの遂行状況と提出された修士論文で評価する。	
成績評価の基準	(1)問題の設定が適切であり, (2)その問題の背景を説明でき, (3)その問題にある課題を指摘でき, (4)課題に対して既存の学術的知見を十分に検討でき, (5)そのうえで自分の見解を論理的に説明できており, さらに教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」, 5 項目を満たしていれば「かなり上にある」, 4 項目を満たしていれば「やや上にある」, 3 項目を満たしていれば「水準にある」。	
事前事後学習の内容	研究を進めるにあたり毎回提示されます。	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応		

登録コード:MA750100		授業科目区分	必修科目
科目名	病態検査解析学 Diagnostic Laboratory Investigation		
担当教員	奥村 伸生 他 矢崎 正英, 太田 浩良, 藤本 圭作, 石田 文宏, 長野 則之		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 1年次 前期 火曜, 5時限 火曜, 6時限		
単位数、講義室	2 単位 保健学科 2 2 1 講義室		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。		臨床検査学の各種手法による病態解析に関する情報収集力・分析力、研究技術を磨く。
	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。		CITIを受講し、倫理委員会に研究倫理審査申請を行えること。
授業概要	臨床検査成績から各種疾患の病態を解析するための方法論とその意義について学ぶ(オムニバス方式)。		
一般学習目標G10(期待される学習効果)	各種疾患の病態を解析するための方法論を修得し、情報収集能力と情報分析能力を向上させる。		
SBOs(行動目標)	各種疾患の病態の基本的な事項およびその機序について説明できる。 臨床検査の意義が理解でき、さらに進めるべき検査について説明することができる。		
授業計画	<p>第1-2回(4/11, 4/18) : 化学検査成績を呈示し、各種疾患の病態を解析するための方法論とその意義について教授する。(奥村伸生)</p> <p>第3-4回(4/25, 5/9) : 神経疾患の病態を解明するための方法論と意義について教授する。(矢崎正英)</p> <p>第5-6回(5/16, 5/23) : 消化器病変を中心に組織および細胞に認められる形態的变化の理解に必要な方法論について教授する。(太田浩良)</p> <p>第7-8回(5/30, 6/6) : 感染性疾患の臨床微生物学的アプローチに必要な解析方法とその意義について教授する。(長野則之)</p> <p>第9-10回(6/13, 6/20) : 血液検査成績を呈示し、病態を解析するための方法論とその意義について教授する。(石田文宏)</p> <p>第11-12回(6/27, 7/4) : 呼吸機能検査成績を呈示し、病態を解析、診断するための方法論とその意義について解説する。(藤本圭作)</p> <p>第13-14回(7/11, 7/18) : 病理組織細胞診断成績を呈示し、病理診断を導くための方法論とその意義について教授する。(木村文一)</p> <p>第15回(7/25) : まとめ、レポート提出(奥村伸生)</p>		
授業の進め方	臨床例を呈示し、病態、検査の進め方と考え方、検査方法等を討論する。		
テキスト、教材、参考書	主としてセミナー形式で行う。		
成績評価の方法	討論, 出席状況およびレポートから総合的に評価する。		
成績評価の基準			
事前事後学習の内容			
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<p>図書館やITを利用して様々な医学・医療情報を収集して授業に臨むこと。 個別の相談は、事前の連絡によって随時、対応する。</p> <p>(奥村)e-mail; nobuoku@shinshu-u.ac.jpまたは内線3570 (矢崎)e-mail; mayazaki@shinshu-u.ac.jpまたは内線3566 (太田)e-mail; hohta@shinshu-u.ac.jpまたは内線3567 (藤本)e-mail; keisaku@shinshu-u.ac.jpまたは内線3571 (石田)e-mail; fumishi@shinshu-u.ac.jpまたは内線3569 (長野)e-mail; naganon@shinshu-u.ac.jpまたは内線3557 (木村)e-mail; kimura_f@shinshu-u.ac.jpまたは内線3567</p>		

科目名	病態血液検査学特論 Special Lectures in Clinical Laboratory Hematology	
担当教員	石田 文宏 平 千明	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 1年次	後期 金曜, 5時限 金曜, 6時限
単位数、講義室	2 単位	保健学科 1 1 1 講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<p>医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。</p> <p>高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。</p>	
授業概要	<p>血液は常に流動性を保ちながら血管を通じて全身を隈なく循環し、種々の生理的機能を営みながら生命を維持するための重要な役割を担っている。</p> <p>その構成成分は病態を反映して変化し、臨床的に重要な様々な情報を提供する。本特論では、血液腫瘍性疾患や血栓止血異常症ならびに血漿蛋白異常症の分子生物学的検査法および病態解析法を教授し、それらの臨床的意義の理解を深める。</p> <p>また、血液悪性疾患、血栓止血異常症、血漿蛋白異常症に関する診断価値の高い検査法を確立するため、検査技術の改良や開発の能力を育成する。</p>	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	血液腫瘍性疾患、遺伝性血栓止血異常症ならびに血漿蛋白異常症について、異常を呈するメカニズムを解明する手順を通して、基礎的な分子生物学的研究の進め方を学ぶ。	
SBOs（行動目標）	血液腫瘍性疾患の分子異常と増殖機構を理解し、異常を検出するための遺伝子解析ができる。 その異常に基づく細胞の変化を蛋白レベルで検討できる。	
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2-7回 血液腫瘍の遺伝子異常と細胞レベルでの変化に関する各種解析法と関連性（石田）</p> <p>第8-15回 血液疾患検出のための分子生物学的手法を用いた検査法構築および臨床応用について（平）</p> <p>第16回 まとめ</p>	
授業の進め方	論文、プリント、スライドによる講義と討論を行う。	
テキスト、教材、参考書	授業の中で紹介する。	
成績評価の方法	レポート・討論内容・出席状況から総合的に評価する。	
成績評価の基準		
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時、質問を受け付ける。個別の相談は、研究室で対応する。	

科目名	病態血液検査学演習 Practice in Clinical Laboratory Hematology		
担当教員	石田 文宏 平 千明		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2年次	前期	月曜, 4時限 月曜, 5時限
単位数、講義室	4単位	保健学科2 2 1 講義室	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<p>医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。</p> <p>高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。</p> <p>国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。</p>		
授業概要	血液腫瘍性疾患，血栓止血異常症ならびに血清蛋白異常症に関する検査法の基礎的技術や新しい検査技術とその意義を教授し，病因・病態解析ができる応用能力を育成するとともに，臨床検査の実践の場で異常値や異常反応に対応できる知識と技術を習得させる。また，研究内容に関連する文献講読と指導教員を交えた討論より研究を進めるための基礎的能力を養う。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	血液腫瘍性疾患や血栓止血学関連の原著論文を読み，討論を通して分子生物学的解析法と研究方法を習得する。		
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関連原著論文を読みそれらを研究に応用することができる。</li> <li>・ 血液疾患の病態異常に関連する遺伝子異常を検出し，解析できる分析能力を習得する。</li> <li>・ 遺伝子異常と臨床的異常との関係を推察し，更に解析を計画する。</li> </ul>		
授業計画	各回毎に原著論文を指定し，精読・討論予定を相談，日程を決めて実施する。		
授業の進め方	主としてセミナー形式で行う。		
テキスト，教材，参考書	原著論文		
成績評価の方法	石田文宏：レポート・討論内容・出席状況から総合的に評価する。		
成績評価の基準			
事前事後学習の内容			
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	<p>図書館やITを利用して様々な医学・医療情報を収集して授業に臨むこと。</p> <p>個別の相談は，事前の連絡（e-mail; ifumishi@shinshu-u.ac.jp）によって随時，対応する。</p>		

登録コード:MA750400		授業科目区分	選択科目
科目名	生体分子情報検査学特論 Special Lectures in Function of Biochemical Molecules		
担当教員	奥村 伸生 他 日高 宏哉, 樋口 由美子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 1 年次 前期 火曜, 1 時限 火曜, 7 時限		
単位数、講義室	2 単位 保健学科 2 2 1 講義室		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。 高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。		
授業概要	血液・尿に代表される生体試料中に存在する蛋白質・脂質・糖質・ミネラルなどの微量成分の量的および質的異常を原因とする疾患において、その病因を遺伝子情報あるいはそれ以外の分子情報から解析する。 さらに引き起こされる病態と病因との関係を明らかにするために必要となる、分子機能解析法の知識および技術を教授する。 また、代謝異常症の発症原因を追求のための分析法や病態を解明するための検出法を開発する能力を指導する。		
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	(奥村) 異常状態を早期にしかも適確に疑うための検査データ分析法, 病因となる異常な分子を同定するための分子異常解析法, および病因と病態を結びつけるための機能異常解析法を理解する。 (日高) 生体試料中のリポタンパク質の組成および機能解析法を通して、脂質代謝異常症の検出法および発症原因追求のための研究技術法を理解するとともに、代謝異常症の発症原因を追求のための機序や病態を解明するための検出法や解析法を開発する能力を育成する。 (樋口) 樹状細胞療法とリンパ球機能検査法の原理と実施方法を理解する。		
SBOs (行動目標)	1) 異常状態を早期にしかも適確に疑うための検査データ分析能力を高める。 2) 病因となる異常な分子を同定するための分子異常の解析能力を高める。 3) 病因と病態を結びつけるための機能異常解析能力を高める。 4) 分子異常情報から代謝の異常を説明できる。 5) 分析・解析のための情報収集能力とその分析能力を習得する。		
授業計画	(4/11) 第1回 リポタンパク質の組成と代謝1 (生理活性) (日高) (4/18) 第2回 リポタンパク質の組成と代謝2 (代謝異常症) (日高) (4/25) 第3回 リポタンパク質の蛋白・脂質, 代謝活性の分析法 (日高) (5/9) 第4回 リポタンパク質の代謝機序の解析 (日高) (5/16) 第5回 脂質メディエーターの生成と生理機能の解析 (日高) (5/23) 第6回 リポタンパク質の分離精製法 (日高) (5/30) 第7回 樹状細胞療法の細胞調製法 (樋口) (6/6) 第8回 リンパ球機能検査法 (樋口) (6/13) 第9回 血清蛋白質異常症の分析法 (奥村) (6/20) 第10回 フィブリノゲン異常症と欠損症を疑う臨床検査値と鑑別法 (奥村) (6/27) 第11回 遺伝子検査によるフィブリノゲン異常症と欠損症の同定法 (奥村) (7/4) 第12回 遺伝子工学による異常フィブリノゲンの産生法 (奥村) (7/11) 第13回 フィブリノゲンの精製法と各種電気泳動法による蛋白質の確認 (奥村) (7/18) 第14回 フィブリノゲンの機能解析法 (奥村) (7/25) 第15回 フィブリノゲン欠損症の原因を解析するための分子細胞学的研究法 (奥村)		
授業の進め方	論文, プリント		
テキスト, 教材, 参考書	授業の中で紹介する。		
成績評価の方法	出席 (10%), レポート提出と内容 (40%), 授業態度 (討論への参加) (50%) を総合して評価する。		
成績評価の基準			
事前事後学習の内容			
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	(奥村伸生) 個別の相談は事前の連絡 (e-mail: nobuoku@shinshu-u.ac.jp または内線3570) によって随時, 対応する。 (日高宏哉) 個別の相談は事前の連絡 (e-mail: hiroyan@shinshu-u.ac.jp または内線3538) によって随時, 対応する。 (樋口由美子) 個別の相談は事前の連絡 (e-mail: sasa0922@shinshu-u.ac.jp または内線3565) によって随時, 対応する。		

科目名	生体分子情報検査学演習 Practice in Function of Biochemical Molecules	
担当教員	奥村 伸生 他 日高 宏哉	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2 年次	前期 火曜, 6 時限 火曜, 7 時限
単位数、講義室	4 単位	保健学科 2 4 1 講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<small>医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な論理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。</small> <small>地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。</small>	
授業概要	<p>患者血液・尿・髄液の臨床検査データから量的および質的異常を呈している分子を明らかにするとともに、その原因となる分子を追跡するための検査データ分析を演習する。さらに、原因分子を同定するための解析法を蛋白質異常症と欠損症、脂質代謝異常症を中心に演習する。</p> <p>また、原因分子の異常あるいは欠損と患者症状・病態との関係を解析するための機能解析法を演習する。</p>	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<p>（奥村） 患者病態異常の原因となる分子を追跡するために検査データの分析法を理解する。さらに原因分子を同定するための解析法をフィブリノゲン異常症と欠損症を中心に理解する。また、原因分子の異常あるいは欠損と患者症状・病態との関係を解析するためにフィブリノゲン機能発現における各種電解質の作用解析法を理解する。</p> <p>（日高） 生体試料中のリポ蛋白組成分子の構造および機能解析法を通して、脂質代謝異常症の検出法および発症原因追求のための研究技術法を理解するとともに、代謝異常症の発症原因を追求のための機序や病態を解明するための検出法や解析法を開発する能力を育成する。</p>	
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者病態異常の原因となる分子を追跡するために検査データの分析能力を習得する。</li> <li>2) 原因分子を同定するための解析法をフィブリノゲン異常症と欠損症を中心に実施でき解析能力を習得する。</li> <li>3) 原因分子の異常あるいは欠損と患者症状・病態との関係を解析できる能力を習得する。</li> <li>4) 分子異常の検出結果から代謝の異常を説明できること。</li> <li>5) 分析のための関連情報収集能力とその解析能力を習得する。</li> </ol>	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究結果を他人が理解しやすいようにまとめる。</li> <li>2. 関係論文を読む。</li> <li>3. 研究結果を他者の論文の結果と比較する。</li> <li>4. 研究結果を考察する。</li> <li>5. 次の実験計画を立てる。</li> <li>6. 研究結果をまとめ、パワーポイントでプレゼンテーションする。</li> <li>7. 実際に1回以上の学会発表をする。</li> <li>8. 研究結果を論文としてまとめることを演習する。</li> </ol> <p>1～8を繰り返し行う。</p>	
授業の進め方	<p>自分の実施している研究結果について、他の研究者の結果と比較検討することにより、研究結果を考察するとともに、つぎにどのような実験をすべきか計画を立てることができる。このサイクルを繰り返し、身に付けることができるように授業を展開する。</p>	
テキスト、教材、参考書	<p>各種英文論文 (Clinical Chemistry, Clinica Chimica Acta, Blood, Journal of Thrombosis and Haemostasis, Thrombosis and Haemostasis, Thrombosis Resaerch, Journal of Biochemistry, Journal of Lipid Rsearch, Annals of Clinical Laboratory Scienceなど)</p>	
成績評価の方法	<p>討論の内容により評価する。</p>	
成績評価の基準		
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<p>自分で英文論文を読み込むことができること。質問・相談は、直接、研究室まで来てください。</p> <p>（奥村伸生） 個別の相談は事前の連絡（e-mail：nibuoku@shinshu-u.ac.jpまたは内線3570）によって随時、対応する。</p> <p>（日高宏哉） 個別の相談は事前の連絡（e-mail：hiroyan@shinshu-u.ac.jpまたは内線3538）によって随時、対応する。</p>	

登録コード:MA750600	授業科目区分	選択科目
科目名	感染生体防御検査学特論 Special Lectures in Infection Control & Biological Regulation	
担当教員	長野 則之 他 相良 淳二, 小穴 こず枝	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 1 年次	後期 木曜, 2 時限 木曜, 6 時限
単位数、講義室	2 単位	保健学科 2 2 3 講義室 保健学科 1 3 1 講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。 感染症対策の知識を深め、新たな研究と診断法開発に取り組む能力を養う。	
授業概要	21世紀は、再興・新興感染症が注目されるなど感染症の時代と言われ、病原体はバイオテロのツールとしての危険性も指摘されている。一方、DPCシステムが本邦でも導入されるに至り、良質な医療保証のための基本であるとされる院内感染制御が重要視されている。感染防御とアポトーシスの関係など、感染から身を守る巧妙な生体の防御機構を理解し、科学的根拠に基づいた感染防御対策を論理的に遂行・評価するために必要な知識・技術に関する事項について教授する。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>院内感染対策活動の進め方、組織作りと役割分担について理解する。</li> <li>疾患別院内感染予防対策について、また部署別院内感染予防対策について、特に臨床微生物学的視点から感染制御活動に参画して行く為に必須な事項について列挙することができる。</li> <li>感染症起因微生物と宿主因子(熱ショック蛋白質と細胞骨格)との相互作用およびアポトーシス誘導現象について、病原性との関連性を説明できる。</li> <li>感染症微生物検査に必要な遺伝子工学や蛋白質化学の基礎技術を習得する。</li> </ul>	
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床微生物学・生化学・遺伝子検査学等の感染症に関連する科目の知識が総合的・系統的に理解できる。</li> <li>今、現実におきている感染症関連の身近なテーマを題材にするので、日常のニュースに敏感になる機会とする。</li> <li>感染症の症例を微生物学のみならず、関連する専門科目の知識と総合して考える機会とする。</li> <li>感染症対策へ向けて、地域や国家レベルでの対応の必要性を理解することができる。</li> <li>感染制御分野における「臨床検査技師像」を確固たるものにして、目指すべき方向性を考える機会とする。</li> </ul>	
授業計画	第1回（9月28日）薬剤耐性菌制御学1（長野） 第2回（10月5日）薬剤耐性菌制御学2（長野） 第3回（10月12日）薬剤耐性菌制御学3（長野） 第4回（10月19日）医療関連感染1（長野） 第5回（10月26日）医療関連感染2（長野） 第6回（11月2日）感染制御に必要なテクノロジー 1（小穴） 第7回（11月9日）感染制御に必要なテクノロジー 2（小穴） 第8回（11月16日）感染制御に必要なテクノロジー 3（小穴） 第9回（11月30日）感染制御に必要なテクノロジー 4（小穴） 第10回（12月7日）感染制御に必要なテクノロジー 5（小穴） 第11回（12月14日）感染と細胞死(相良) 第12回（12月21日）感染と細胞骨格(相良) 第13回（1月11日）自然免疫(1)Toll-like受容体(相良) 第14回（1月18日）自然免疫(2)NODファミリー(相良) 第15回（1月25日）自然免疫(3)ASC(相良)	
授業の進め方	eALPSに掲載された講義資料や論文などを使用し、課題についての討論方式による双方向性の講義を展開する。	
テキスト、教材、参考書	教科書は、特に指定しない。	
成績評価の方法	出席状況および学習成果や課題のプレゼンテーションを総合して評価する。	
成績評価の基準	出席状況は2/3以上必要であり、プレゼンテーション内容、討論内容に基づいて評価する。	
事前事後学習の内容	英語論文を教材とする場合は、あらかじめ論文を指定する。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	個別の相談は、事前の連絡によって随時、対応する。  （長野）e-mail ; naganon@shinshu-u.ac.jp （相良）e-mail ; sagaraj@shinshu-u.ac.jp （小穴）e-mail ; koana@shinshu-u.ac.jp	

登録コード:MA750700		授業科目区分	選択科目
科目名	感染生体防御検査学演習 Practice in Infection Control & Biological Regulation		
担当教員	長野 則之 他 相良 淳二, 小穴 こず枝		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2 年次	前期	水曜, 5 時限 水曜, 6 時限
単位数、講義室	4 単位	保健学科 2 4 1 講義室	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。 感染症対策の知識を深め、新たな研究と診断法開発に取り組む能力を養う。		
授業概要	再興・新興感染症が注目されている今日、各種感染症における感染病原因子の迅速な検出と的確な対応が求められている。 また、感染病原因子が生体に及ぼす機構に関しては、感染細胞におけるアポトーシス誘導機構など、分子レベルでの知見が蓄積されてきており、それらの正確な理解が急務となっている。 一方、良質な医療の保証には基本であるとされる医療関連感染対策が重要視されているが、科学的根拠に基づいた感染制御の論理的な遂行に必要な事項について演習形式で教授する。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アウトブレイクの経緯と病態の現状を正確に把握し、病原微生物の伝播の可能性を迅速に判断して適切な対応で病原体を最小限に封じ込める為に必要な、臨床微生物学的、化学療法的、感染症学的な知識・技術について理解する。</li> <li>・培養細胞を用いる感染実験法および、アポトーシス判定法について理解する。</li> <li>・感染制御に必要な臨床微生物学的検査法の開発や評価に有用なPCR法、遺伝子クローニング法、モノクローナル抗体作製法について習得する。</li> </ul>		
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染制御に必要な「臨床微生物学」・「化学療法学」・「生化学」・「遺伝子検査学」等の学術知識を総合的且つ系統的に組み立てることができる。</li> <li>・感染制御に必要な臨床微生物学および遺伝学的研究手法を適切に取捨選択してアプローチに際して用いることができる。</li> <li>・感染制御に必要な種々の情報を適切に収集・処理することができる。</li> </ul>		
授業計画	第 1, 2 回 ( 4 月 12 日 ) 感染症と免疫 ( 長野 ) 第 3, 4 回 ( 4 月 19 日 ) 微生物検査所見のディスカッション 1, 2 ( 長野 ) 第 5, 6 回 ( 4 月 26 日 ) 微生物検査所見のディスカッション 3, 4 ( 長野 ) 第 7, 8 回 ( 5 月 10 日 ) 感染症例検討 5, 6 ( 長野 ) 第 9, 10 回 ( 5 月 17 日 ) 感染症例検討 7, 8 ( 長野 ) 第 11, 12 回 ( 5 月 24 日 ) 臨床微生物学の研究手法を学ぶ 1, 2 ( 小穴 ) 第 13, 14 回 ( 5 月 31 日 ) 臨床微生物学の研究手法を学ぶ 3, 4 ( 小穴 ) 第 15, 16 回 ( 6 月 7 日 ) 臨床微生物学の研究手法を学ぶ 5, 6 ( 小穴 ) 第 17, 18 回 ( 6 月 14 日 ) 臨床微生物学の研究手法を学ぶ 7, 8 ( 小穴 ) 第 19, 20 回 ( 6 月 21 日 ) 臨床微生物学の研究手法を学ぶ 9, 10 ( 小穴 ) 第 21, 22 回 ( 6 月 28 日 ) モノクローナル抗体作製法 1, 2 ( 相良 ) 第 23, 24 回 ( 7 月 5 日 ) 自然免疫 英語論文演習 1, 2 ( 相良 ) 第 25, 26 回 ( 7 月 12 日 ) 自然免疫 英語論文演習 3, 4 ( 相良 ) 第 27, 28 回 ( 7 月 19 日 ) 自然免疫 英語論文演習 5, 6 ( 相良 ) 第 29, 30 回 ( 7 月 26 日 ) 自然免疫 英語論文演習 7, 8 ( 相良 )		
授業の進め方	eALPSに掲載された講義資料や論文などを使用し、課題についての討論方式による双方向性の講義を展開する。		
テキスト、教材、参考書	講義に必要な教材はeALPSに掲載する。教科書等は、指定しない。		
成績評価の方法	出席状況および学習成果や課題のプレゼンテーションを総合して評価する。		
成績評価の基準	出席状況は2/3以上必要であり、プレゼンテーション内容、討論内容に基づいて評価する。		
事前事後学習の内容	英語論文はあらかじめ指定するので、事前学習をおこなうことが必要。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	学生の対話形式で進める過程で活発な討論、質問を期待する。 個別の相談は、事前の連絡によって随時、対応する。 ( 長野 ) e-mail ; naganon@shinshu-u.ac.jp ( 相良 ) e-mail ; sagaraj@shinshu-u.ac.jp ( 小穴 ) e-mail ; koana@shinshu-u.ac.jp		

科目名	組織細胞病態検査学特論 Special Lectures in Cell and Tissue Pathophysiology	
担当教員	太田 浩良 木村 文一	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 1年次	前期 木曜, 3時限 木曜, 6時限
単位数、講義室	2 単位	保健学科 2 2 3 講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系講義科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における講義問題を解決できる。 保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	
授業概要	疾病の病態と発生機序について、組織および細胞に認められる形態的变化と遺伝子レベルの変化を関連づけ学ぶ。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1. 基本的な疾病における組織および細胞に認められる形態变化の評価に必要な形態的検査手技を理解する。 2. 基本的な疾病における組織および細胞に認められる形態变化の分析能力を身につける。 3. 基本的な疾病、病態および発生機序を理解する。	
SBOs（行動目標）	1. 呼吸器、循環器、消化器、内分泌臓器および泌尿・生殖器の基本的な疾病における組織および細胞に認められる形態变化の分析能力を身につけ、形態的变化を理解し、また、病態および発生機序を説明できる。	
授業計画	(4/13) 第1回 病気と遺伝子 (太田)・・3時限:131講義室, 6時限:223講義室 (4/20) 第2回 癌(総論) (太田) (4/27) 第3回 免疫疾患 (太田) (5/11) 第4回 呼吸器 (太田) (5/18) 第5回 循環器 (太田) (5/25) 第6回 消化器 (太田) (6/ 1) 第7回 内分泌臓器 (太田) (6/ 8) 第8回 泌尿・生殖器 (太田) (6/15) 第9回 画像診断 (木村) (6/22) 第10回 病理情報学 (木村) (6/29) 第11回 内視鏡検査と内視鏡手術材料 (木村) (7/ 6) 第12回 病理診断と遺伝子解析技術 (木村) (7/13) 第13回 病理診断と標的療法 (木村) (7/20) 第14回 病理診断における免疫組織化学 (木村) (7/27) 第15回 医療統計学 (木村)	
授業の進め方	スライド教材を使用した講義と組織標本の作成・評価法の実技をまじえ教授する。	
テキスト, 教材, 参考書	【教科書】 指定せず  【参考書】 Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease Elsevier Saunders	
成績評価の方法	出席, レポート, 授業態度(討論への参加)を総合して評価する。	
成績評価の基準		
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	質問, 相談には, 講義中および研究室にて対応します。	

科目名	組織細胞病態検査学演習 Practice in Cell and Tissue Pathophysiology	
担当教員	太田 浩良 木村 文一	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2年次	前期 木曜, 6時限 木曜, 7時限
単位数、講義室	4単位	保健学科 2 4 1 講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系講義における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における講義問題を解決できる。 保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	
授業概要	病理組織細胞学的検査で応用される古典的染色法、組織化学的および免疫組織化学的染色法、さらには遺伝子発現を捉えるためのin situ hybridization法などの方法論を病態変化と関連づけて学ぶ。 また、電子顕微鏡および共焦点レーザースキャン顕微鏡などによる解析法を学ぶ。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1. 病理形態学的検査に用いられる組織化学的染色法、免疫組織化学的染色法などの意義と方法を理解できる。 2. 電子顕微鏡および共焦点レーザースキャン顕微鏡などの観察法を理解できる。 3. 病理組織細胞学的分析能力を身につけ、疾病にみられる形態学的変化を理解できる。 4. 数理病理（病病情報学：画像解析理論と技術、機械学習など）について理解できる。	
SBOs（行動目標）	1. 病理組織細胞学的診断に必要な解析法を説明できる。 2. 組織化学的染色法、免疫組織化学的染色法などの比較的新しい形態学的検査に適した材料の処理方法を説明できる。 3. 組織化学的染色法、免疫組織化学的染色法などの比較的新しい形態学的検査を疾患による形態学的変化と関連づけて説明できる。 4. 電子顕微鏡および共焦点レーザースキャン顕微鏡などの観察法を疾患と関連づけて説明できる。 5. 数理病理（病病情報学：画像解析理論と技術、機械学習など）の基礎事項を説明できる。	
授業計画	(4/13) 第1回 病理診断に応用される検査法の意義と方法論の理解 (4/20) 第2回 病理診断に応用される検査法の意義と方法論の理解 (4/27) 第3回 病理診断に応用される検査法の意義と方法論の理解 (5/11) 第4回 病理診断に応用される検査法の意義と方法論の理解 (5/18) 第5回 病理診断に応用される検査法の意義と方法論の理解 (5/25) 第6回 検査法の実技実習（見学） (6/ 1) 第7回 検査法の実技実習（見学） (6/ 8) 第8回 検査法の実技実習（見学） (6/15) 第9回 検査法の実技実習（見学） (6/22) 第10回 検査法の実技実習（見学） (6/29) 第11回 疾患にともなう形態学的変化の観察法 (7/ 6) 第12回 疾患にともなう形態学的変化の観察法 (7/13) 第13回 疾患にともなう形態学的変化の観察法 (7/20) 第14回 疾患にともなう形態学的変化の観察法 (7/27) 第15回 疾患にともなう形態学的変化の観察法	
授業の進め方	講義と実習（見学を含む）	
テキスト、教材、参考書	【教科書】 指定しない。  【参考書】 随時、紹介する。	
成績評価の方法	レポート・受講態度を総合して評価する。	
成績評価の基準		
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問、相談は、随時、対応します。	

科目名	神経呼吸免疫科学特論 Special Lectures in Neuro-Respiratory Immunology	
担当教員	藤本 圭作 他 矢崎 正英	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 1年次	後期 木曜, 6時限 木曜, 7時限
単位数、講義室	2単位	保健学科121講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<p>医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。</p> <p>自らの得た成果を世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力を有するとともに、国際的な諸課題に積極的に取り組むことができる。</p> <p>医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基礎に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。</p> <p>高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づき臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。</p> <p>地域保健、医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。</p>	<p>臨床検査学手法による内科系疾患の病態解析に関する情報収集力・分析力を磨く。</p> <p>研究成果の英語による論文化と世界に情報発信する方法および技能を修得する。</p> <p>医学倫理に則り、最新のエビデンス・情報を集め研究を実践できる能力を習得する。</p> <p>高い倫理観と専門的知識により自ら課題を見つけ解決する能力と高度な実践能力を習得。</p> <p>医療現場で他職種と共同して研究を行うコミュニケーション、チーム医療を習得する。</p>
授業概要	<p>最近、難治性疾患が増加する傾向にあり、その多くは発症機序が不明であり、診断・治療法の確立が急がれている。</p> <p>本講義では免疫性神経疾患における発症機序について概説し、神経疾患と免疫異常の関連について論議する。呼吸器に関しては、気管支喘息、過敏性肺炎、膠原病肺、ABPMなどの免疫性肺疾患の病態について概説し、免疫機序のどこが異なるのかについて講義する。</p> <p>さらに各自が行っている研究テーマに関連した論文の内容のプレゼンテーションをおこない、皆でディスカッションする。</p>	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	免疫性神経疾患および免疫性肺疾患をはじめとした神経難病およびアレルギー性呼吸器病の発症機序について論理的に考えることができ、問題点を探り、それを解決するための科学を探究する力を身につけることができる。	
SBOs(行動目標)	神経および呼吸器免疫学, 神経科学, 呼吸生理, 分子生物学の論文を批判的に読む力をつけ、すぐれたプレゼンテーションの力をつける。	
授業計画	<p>免疫性肺疾患である気管支喘息の病態および慢性閉塞性肺疾患との違い、過敏性肺炎、膠原病肺、ABPMなどの免疫性肺疾患の病態について概説し、気道炎症の成立機序および呼吸生理学的な違いについて詳述する。</p> <p>(藤本圭作)</p> <p>第1回(9月28日)イントロダクション</p> <p>第2回(10月5日)免疫性肺疾患, 気管支喘息, アレルギー性気管支肺アスペルギルス症</p> <p>第3回(10月12日)膠原病肺, 過敏性肺炎</p> <p>第4回(10月19日)その他の免疫性肺疾患</p> <p>第5回(10月26日)論文プレゼンテーションとディスカッション</p> <p>第6回(11月2日)論文プレゼンテーションとディスカッション</p> <p>第7回(11月9日)論文プレゼンテーションとディスカッション</p> <p>免疫性神経疾患について概説し、学生による論文抄読・プレゼンテーションを行う。</p> <p>(矢崎正英)</p> <p>第8回(11月16日)イントロダクション</p> <p>第9回(11月30日)多発性硬化症</p> <p>第10回(12月7日)ギランバレー症候群</p> <p>第11回(12月14日)重症筋無力症</p> <p>第12回(12月21日)多発性筋炎</p> <p>第13回(1月11日)論文プレゼンテーションとディスカッション</p> <p>第14回(1月18日)論文プレゼンテーションとディスカッション</p> <p>第15回(1月25日)まとめ</p>	
授業の進め方	<p>授業計画に従いプリント, スライドプレゼンテーションを使い, 講義形式で授業をおこなう。</p> <p>また, 論文プレゼンテーション時には担当学生が1週間前に英文論文を担当教員および他の学生に届け, 当日はスライドを使っても構わないがプレゼンをしていただく。</p> <p>そしてディスカッションをおこなう。</p>	
テキスト, 教材, 参考書	<p>内科学(朝倉書店第9版), Journal of Neuroimmunologyなどから抜粋する。</p> <p>学生はおこなっている研究課題に関する最新の英語論文を準備する。</p>	
成績評価の方法	出席率とレポートおよびプレゼンテーションと質問, ディスカッションにより評価する。	
成績評価の基準	<p>1) 出席率が90%以上, 2) 授業内容の質問に対する解答が的確, 3) レポートの内容と充実度が優れている, 4) 英文論文の理解度とプレゼンテーションの質が良好, 5) 積極的にディスカッションに参加する姿勢について総合的に評価をして, かつ, 教員を感動させるレベルにあれば「卓越している」と評価する。また, 1)~5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」, 4項目まで出来ていれば「やや上にある」, 3項目まで出来ていれば「水準にある」と評価する。</p> <p>以上の結果を総合して, 成績評価を行う。</p>	
事前事後学習の内容	<p>講義については, スライドのPDFがe-Alpsにアップされているのでそれを見て, 参考書, インターネットで事前学習をおこなう。</p> <p>事後学習については, 質問やレポート作成に対応できるようにする。</p>	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	<p>(藤本圭作)</p> <p>個別の相談は事前の連絡(e-mail: fkeisaku@shinshu-u.ac.jpまたは内線3571)によって随時, 対応する。</p> <p>(矢崎正英)</p> <p>個別の相談は事前の連絡(e-mail: mayazaki@shinshu-u.ac.jpまたは内線3566)によって随時, 対応する。</p>	

登録コード:MA751100	授業科目区分	選択科目
科目名	神経呼吸免疫科学演習 Practice in Neuro-Respiratory Immunology	
担当教員	藤本 圭作 他 矢崎 正英	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2 年次	前期 月曜, 6 時限 月曜, 7 時限
単位数、講義室	4 単位	保健学科 2 2 1 講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。 自らの得た成果を世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力を有するとともに、国際的な諸課題に積極的に取り組むことのできる。 医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基礎に基づいた医学研究を通して社会に貢献できる。 保健・医療・福祉の現場において強固な観点で研究を推進する能力を有する。 国際的な諸課題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参加できる能力を有する。 地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改善に貢献できる能力を有する。	内科系疾患の病態を理解すると共に、研究や診療の情報収集・分析能力を習得する。 研究成果の英語による論文化と世界に情報発信する方法および技能を修得する。 医学倫理に則り、最新のエビデンス・情報を集め研究を実践できる能力を習得する。 CITIを受講し、倫理委員会に研究倫理審査申請を行うこと。 海外の発表者に対して積極的に質問ができ、共同研究に参加できる。 医療現場で他職種と共同して研究を行うコミュニケーション、チーム医療を習得する。
授業概要	<p>&lt;藤本圭作&gt; 本演習では、気管支喘息の特徴である好酸球性気道炎症の評価法および呼吸機能検査法の実際、睡眠の質の評価法、睡眠ポリグラフ検査（PSG検査）について解説し、実際に演習をおこなう。 また、関連する論文を読む。</p> <p>&lt;矢崎正英&gt; 本演習では、難治性神経疾患の原因として重要なアミロイドーシスにおける、アミロイド蛋白の解析法について詳述し、免疫組織検査などの実習を行う。</p>	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	免疫性神経疾患をはじめとした神経難病の発症機序について論理的に考えることができ、問題点を探り、それを解決するための科学を探究する力を身につけることができる。 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患および睡眠呼吸障害の病態について理解し、気道炎症や気道過敏性検査を含む呼吸機能検査、PSG検査、光電式容積脈波を用いた自律神経活動および睡眠の質の評価を理解し、指導者と共に実施することができる。	
SBOs（行動目標）	神経免疫学、神経科学、分子生物学の論文を批判的に読む力をつけ、すぐれたプレゼンテーションの力をつける。 また、呼吸器疾患および睡眠呼吸障害の診断および病態把握のための検査方法を体験して習得する。	
授業計画	<p>&lt;藤本圭作&gt; 第1回（4月10日）オリエンテーション 第2回（4月17日）気道炎症の評価法、気道過敏性試験 第3回（4月24日）睡眠呼吸障害の評価法について 第4回（5月1日）演習 第5回（5月8日）演習 第6回（5月15日）演習 第7回（5月22日）演習 第8回（5月29日）演習</p> <p>&lt;矢崎正英&gt; 第9回（6月5日）オリエンテーション 第10回（6月12日）アミロイドーシスについて 第11回（6月19日）アミロイドーシスの診断法 第12回（6月26日）演習 第13回（7月3日）演習 第14回（7月10日）演習 第15回（7月24日）まとめ</p>	
授業の進め方	<p>&lt;藤本圭作&gt; プリントおよびスライドプレゼンテーションによる講義を前半におこない、中から後半は、実際に検査を体験し、実施する。</p> <p>&lt;矢崎正英&gt; スライドプレゼンテーションによる講義を前半におこない、中から後半は、実際に検査を体験し、実施する。</p>	
テキスト、教材、参考書	内科学（朝倉書店第9版）、Cell、分子生物学	
成績評価の方法	出席率と演習内容を客観的に評価する。 また、プレゼンテーションの内容と口頭試問により評価する。	
成績評価の基準	1) 出席率が90%以上、2) 授業・実習内容の質問に対する解答が的確、3) レポートの内容と充実度が優れている、4) 英文論文の理解度とプレゼンテーションの質が良好、5) 積極的に実習およびディスカッションに参加する姿勢について総合的に評価をして、かつ、教員を感動させるレベルにあれば「卓越している」と評価する。また、1)~5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目まで出来ていれば「やや上にある」、3項目まで出来ていれば「水準にある」と評価する。 以上の結果を総合して、成績評価を行う。	
事前事後学習の内容	事前の講義については、スライドのPDFがe-Alpsにアップされているのでそれを見て、参考書、インターネットで事前学習をおこなう。 事後学習については、質問やレポート作成に対応できるようにする。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<p>（藤本圭作） 個別の相談は事前の連絡（e-mail：fkeisaku@shinshu-u.ac.jpまたは内線3571）によって随時、対応する。</p> <p>（矢崎正英） 個別の相談は事前の連絡（e-mail：mayazaki@shinshu-u.ac.jpまたは内線3566）によって随時、対応する。</p>	

科目名	病因・病態検査学特別研究(病態) Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation	
担当教員	石田 文宏	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2 年次	通年 ,不定期
単位数、講義室	10 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	
	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	
授業概要	血液細胞の異常と腫瘍化のメカニズムを明らかにするため、種々の方法での分析・解析を行う。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究計画を立て、実施する。</li> <li>結果を考察し、討論して、最終的に論文を作成する。</li> </ul>	
SBOs(行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究実施のための情報収集能力を習得する。</li> <li>成果を専門学会等にて発表し、論文として投稿できる情報発信能力を身につける。</li> <li>研究計画に従って、研究を遂行できる。</li> <li>結果を教員と討議できる。</li> </ul>	
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究テーマに沿って情報を収集し、研究計画をたてる。</li> <li>計画に沿って実験を行う。</li> <li>結果をまとめ、評価・考察する。</li> <li>以上を繰り返すことで、研究を発展させる。</li> <li>研究成果を専門学会等で発表する。</li> <li>修士論文を作成する。</li> </ul>	
授業の進め方	研究テーマを決め、情報を収集し、研究計画を立案する。 それに基づき、実験を行い、結果に関して考察、討論する。	
テキスト、教材、参考書	特に指定しない。	
成績評価の方法	研究への取り組み状況を総合的に評価する。	
成績評価の基準		
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時、対応。	

科目名	病因・病態検査学特別研究(生体) Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation	
担当教員	奥村 伸生	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2年次	通年 ,不定期
単位数、講義室	10単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	学会発表ができ、日本の学会誌に論文を掲載できるようにデータのまとめができる。
	国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参加できる能力を有する。	国際誌に論文を掲載できるようにデータのまとめができる。
	地域保健・医療・福祉の実現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。	
授業概要	(奥村伸生) 研究概要は、タンパク質解析と遺伝子解析、遺伝子工学によるリコンビナントタンパク質の発現、培養細胞を用いた分子生物学的機能解析である。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	(奥村伸生) 研究計画を立て、研究を行い、その結果をまとめ、討論を行い、結果を考察する。	
SBOs(行動目標)	(奥村伸生) ・2年次の前期に、専門学会で結果の発表を行うための情報発信する能力を習得する。 ・2年次の後期に、修士論文の内容を国内の専門雑誌に投稿できる情報発信する能力を習得する。 ・修了後できるだけ早い時期に修士論文の内容を外国専門雑誌に投稿できる情報発信する能力を習得する。	
授業計画	1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる。 2) 計画にそって実験を実施する。 3) 実験結果や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。  以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。 その成果を学会などにおいて発表し、最終的には修士論文としてまとめる。 教員は、討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。	
授業の進め方	1年次前期の空き時間から、研究テーマを決め、それに沿った論文を収集し実験計画の立案を行う。それに基づき、順次実験を行い、その結果を解析し考察を行う。	
テキスト、教材、参考書	特に指定しない。	
成績評価の方法	研究への取り組みの状況を総合的に評価する。	
成績評価の基準		
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	(奥村伸生) 個別の相談は、事前の連絡(e-mail:nobuoku@shinshu-u.ac.jpまたは内線3570)によって随時、対応する。	

科目名	病因・病態検査学特別研究(組織) Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation	
担当教員	太田 浩良	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2年次	通年 ,不定期
単位数、講義室	10単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	
授業概要	形態的变化を病態と関連づけて分析 / 解析することにより研究を指導する。	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	炎症や腫瘍に認められる形態的变化を病態と関連づけてを解析するための分析能力と方法論を修得する。	
SBOs (行動目標)	正常, 炎症性変化, 腫瘍性変化にみられる形態変化の解析に必要な方法論について説明することができる。	
授業計画	胃炎にみられる上皮細胞の病態生理及び腺癌細胞の分化について光顕的, 電顕的, 免疫組織化学および分子生物学的解析法を用いて探求する。	
授業の進め方	ヒトや動物の組織を用いて各種の解析を行う。	
テキスト, 教材, 参考書	特に指定せず。	
成績評価の方法	研究への取り組みの状況を総合的に評価する。	
成績評価の基準		
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	個別の相談は, 事前の連絡 (e-mail : hohta@shinshu-u.ac.jpまたは内線3567) によって随時, 対応する。	

科目名	病因・病態検査学特別研究(神経呼吸) Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation	
担当教員	矢崎 正英	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2年次	通年 ,不定期
単位数、講義室	10単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<p>医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。</p> <p>自らの得た成果を世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力を有するとともに、国際的な諸課題に積極的に取り組むことができる。</p> <p>医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。</p> <p>高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。</p> <p>国際的な諸課題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。</p> <p>地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。</p>	
授業概要	<p>本特別研究では、難治性神経疾患にける呼吸障害について概説する。呼吸生理学に関しては、睡眠呼吸障害と自律神経機能について、先端の分析機器を用いて解析する。</p> <p>睡眠の質には様々な因子が関与するが、特に睡眠呼吸障害に焦点をしばって研究する。我々のコンセプトとしては、いかに無拘束で非侵襲的な方法で睡眠の質を分析するかである。</p>	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神経変性疾患の病因病態解析法を修得する。</li> <li>・神経生理と呼吸生理を統合した研究であり、その理論と方法論を習得する。</li> </ul>	
SBOs（行動目標）	<p>一般の母集団を対象として、終夜睡眠ポリグラフを施行し、同時に脈波センサーを装着し、心拍のゆらぎについて解析をおこなう。</p> <p>特別な解析ソフトを用いて脈波の周波数帯域を設定、解析し、覚醒、睡眠、non-REM、REMの特徴を解析する。</p> <p>また、睡眠呼吸障害あるいは睡眠障害を有するひとではどのようなパターンを示すのかを解析する。</p>	
授業計画	<p>授業は自主的にデータの解析をすすめていく。</p> <p>そして、その方法論について多くの文献を参照にして論文という形を整えていく。</p>	
授業の進め方	指導教員とのマンツーマンのdiscussionと学外の専門家とのdiscussion	
テキスト、教材、参考書	特別なものは無い。	
成績評価の方法	論文提出と発表	
成績評価の基準		
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応		

科目名	病因・病態検査学特別研究(生体) Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation	
担当教員	日高 宏哉	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2年次	通年 ,不定期
単位数、講義室	10単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる。
授業概要	脂質の基本的機能（膜構成成分，輸送，栄養）および高次機能（代謝制御；メタボリックシンドローム）を把握するために，脂質代謝や脂質輸送の機序の解析およびその分析法の開発について研究・指導する。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	脂質生物学の基礎知識の理解と解析技術を習得でき，脂質機能異常について考察できること。	
SBOs（行動目標）	脂質生物学の基礎知識の理解と解析技術を習得し，脂質の基本的機能や高次機能について説明できること。	
授業計画	1) 脂質の基本的機能（膜構成成分，輸送，栄養）の機序の解明のための実験研究 2) 高次機能（代謝制御；メタボリックシンドローム）を把握するために，調査，実験研究と病体解析 3) 脂質代謝や脂質輸送の機序の解析およびその分析法の開発研究とその応用	
授業の進め方	1年次の前期の授業のない空き時間から，研究テーマを決め，それに沿った論文を収集し実験計画の立案を行う。 それに基づき，順次実験を行い，その結果を解析し，考察を行う。	
テキスト，教材，参考書	特に指定しない。	
成績評価の方法	研究への取り組みの状況を総合的に評価する。	
成績評価の基準	研究成果を論文としてまとめて，プレゼンテーションができること。	
事前事後学習の内容	論文作成のための序論，方法，考察の執筆に必要な論文を入手し，吟味する。	
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	個別の相談は，事前の連絡（e-mail：hiroyan@shinshu-u.ac.jpまたは内線3538）によって随時，対応する。	

科目名	病因・病態検査学特別研究(感染) Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation	
担当教員	相良 淳二	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2 年次	通年 ,不定期
単位数、講義室	10 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。	
授業概要	自然免疫システムと細胞死誘導機構の基礎を解説し、感染症との関連を考えさせる。また、モノクローナル抗体技術を用いた感染診断システム構築の概略に関して教授する。また、神経の変性疾患をアクチンとPP1結合タンパク質との関係で共に考える。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	感染症に関して病原体側だけではなく、宿主側の諸反応を理解することにより感染症の病態の理解を深める。また、神経の変性疾患をアクチンとPP1結合タンパク質との関係で新たな発展を模索する。	
SBOs(行動目標)	授業内容に即した英語の論文を読み、研究の考え方から論理的展開を学びとる。	
授業計画	<p>1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる。  2) 計画にそって実験および調査を実施する。  3) 実験や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。</p> <p>以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。  その成果を学会等において発表し、最終的には修士論文としてまとめる。  教員は、討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。</p>	
授業の進め方		
テキスト、教材、参考書	課題とする英語の解説書および論文検索をお手伝いします。	
成績評価の方法	研究に取り組む態度及び研究成果	
成績評価の基準		
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時、受け付けます。	

科目名	病因・病態検査学特別研究(神経呼吸) Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation	
担当教員	藤本 圭作	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2 年次	通年 ,不定期
単位数、講義室	10 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	臨床検査学の各種手法による病態解析に関する情報収集力・分析力、研究技術を磨く。
	自らの得た成果を世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力を有するとともに、国際的な諸課題に積極的に取り組むことができる。	研究成果の英語による論文化と世界に情報発信する方法および技能を修得する。
	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	医学倫理に則り、最新のエビデンス・情報を集め研究を実践できる能力を習得する。
	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	自らの研究領域において課題を見つけ、高度な倫理観と最先端の専門知識で解決できる。
授業概要	慢性閉塞性肺疾患，気管支喘息，睡眠呼吸障害に関して，その病態と診断解析方法を学ぶ。研究テーマを与え，生体情報の取得，解析，病態の考察およびそれに対する対処法の開発を自らおこない，多くの文献を読み，最先端の知見を得ることが本授業の概要である。また，呼吸生理学に関して，睡眠呼吸障害と自律神経機能について，先端の分析機器を用いて解析する。睡眠の質には様々な因子が関与するが，特に睡眠呼吸障害に焦点をしばって研究する。我々のコンセプトとしては，いかに無拘束で非侵襲的な方法で生体情報を得て分析するかである。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	教員の研究テーマにそって研究を行うことにより健康基礎科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。 また，その成果を発表し，修士論文としてまとめる。	
SBOs（行動目標）	与えられたテーマについて， 1．実験あるいは検査をおこなうにあたって，英文を含む論文，文献を読破し，何が解明されていないのかといった背景を明らかにし，これに基づいて研究の目的を明らかにする。 2．この目的を達成するための条件・状況，対象数，方法について計画を立てる。 3．倫理委員会への申請書を提出して承認を得る。 4．被検者に対してきちんと説明し，承諾を得ることができる。 5．実験あるいは検査を自らおこなうことができ，再現性，信頼性が得られる。 6．実験あるいは検査にてデータを取得し，管理，集計および統計学的分析ができる。 7．結果に対して多くの文献を参考にして考察ができる。 8．英文として論文が書ける。	
授業計画	1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる。 2) 計画にそって実験および調査を実施する。 3) 実験や調査結果をまとめ，その結果を評価・考察する。  以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。 その成果を学会等において発表し，最終的には原著論文としてまとめる。 教員は，討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。	
授業の進め方	自ら，研究を遂行する過程でアドバイスを与えながら教育する。指導教員とのマンツーマンのdiscussionと学外の専門家とのdiscussion	
テキスト，教材，参考書	【テキスト】 特になし  【参考書・参考資料等】 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説	
成績評価の方法	研究に取り組む態度及び研究成果	
成績評価の基準	研究テーマに対して，1) 研究計画作成，2) 倫理的配慮，3) 研究実践の段取りと熱意，4) 得られら成績の解釈，5) 過去の報告との文献的考察について総合的に評価をして，かつ，教員を感動させるレベルにあれば「卓越している」と評価する。また，1)～5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」，4項目まで出来ていれば「やや上にある」，3項目まで出来ていれば「水準にある」と評価する。以上の結果を総合して，成績評価を行う。	
事前事後学習の内容	研究は自ら勉強し，おこなう内容であるので事前・事後学習に相当するものはない。	
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	指導教員と共に行う研究であり，疑問に思ったり，質問があれば遠慮することなくいつでも質問，相談が可能であるが，まずは自分で勉強して考えることが重要。	

登録コード:MA751215		授業科目区分	必修科目
科目名	病因・病態検査学特別研究(感染) Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation		
担当教員	長野 則之		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2 年次 通年 ,不定期		
単位数、講義室	10 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。 <span style="float: right;">感染症におけるヒトと宿主の相互関係，診断・治療に必要とされる知識を深める。</span>		
授業概要	感染症の根幹をなす宿主・寄生体関係の概念に基づいた臨床実践に有益な研究を遂行する。世界的拡散が懸念される薬剤耐性菌について，耐性機構の研究ならびに医療関連感染防止に関する研究を通じて分子生物学的アプローチを学ぶ。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	感染症学/臨床微生物学に関するテーマにそって研究を行うことにより健康基礎科学の高度な専門知識と研究・開発能力を獲得する。 また，その成果を発表し，修士論文としてまとめる。		
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨牀に貢献できる研究を立案し，計画を立て効率よく遂行することができる。</li> <li>・ 研究内容及び研究成果をわかりやすくプレゼンテーションできる能力を養う。</li> </ul>		
授業計画	1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる。 2) 計画にそって実験および調査を実施する。 3) 実験や調査結果をまとめ，その結果を評価・考察する。  以上のような研究サイクルによって研究テーマを発展させる。 その成果を学会等において発表する。 教員は，討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。		
授業の進め方	研究の進展状況について随時報告を受け，今後の進め方について討議する。		
テキスト，教材，参考書	<b>【テキスト】</b> 特になし  <b>【参考書・参考資料等】</b> 各研究テーマおよび関連する研究領域の原著論文および総説		
成績評価の方法	研究に取り組む姿勢及び研究成果		
成績評価の基準	1) 研究の目的を理解し，研究計画を自ら組み立てられる。 2) 正確かつ緻密な研究の遂行ができる。 3) 研究成果を学会発表できる。 4) 研究成果を学位論文としてまとめられる。		
事前事後学習の内容			
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応			

科目名	病因・病態検査学特別研究(感染) Research Thesis (Master's) in Clinical Laboratory Investigation	
担当教員	小穴 こそ枝	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	病因・病態検査学領域 / 2 年次	通年 ,不定期
単位数、講義室	10 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	
	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	
授業概要	現在、世界的に問題となっている薬剤耐性菌について、医療関連感染防止に関する研究を通じて分子生物学的アプローチを学ぶ。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	感染症学・臨床微生物学に関するテーマについて、研究計画を立て、研究を行う。その結果をまとめ、討論を行い、結果を考察し、最終的に論文を作成する。	
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究実施のための情報収集能力を習得する。</li> <li>・研究計画にそって研究を遂行することができる能力を習得する。</li> <li>・成果を専門学会等にて発表し、論文として投稿できる情報発信する能力を習得する。</li> </ul>	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて研究計画を立てる。</li> <li>2) 計画にそって実験を行う。</li> <li>3) 実験結果や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。</li> </ol> <p>以上のような研究サイクルを繰り返すことで、研究を発展させる。その成果を学会等において発表し、最終的には修士論文としてまとめる。教員は、討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。</p>	
授業の進め方	研究テーマを決め、情報収集し、研究計画を立案する。それに基づき、実験を行い、その結果を解析し考察を行う。	
テキスト、教材、参考書	特に指定しない。	
成績評価の方法	研究への取り組み状況を総合的に評価する。	
成績評価の基準		
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	随時、対応します。	

科目名	運動器・スポーツ理学療法学特論 Special Lectures in Orthopedic and Sports Physical Therapy	
担当教員	木村 貞治 他 GOH AH CHENG, 速水 達也, 廣野 準一	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学領域 / 1年次	前期 火曜, 7時限
単位数、講義室	2単位	保健学科121講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	自身が興味を持ったテーマに関連する先行研究の動向を整理することができる。
	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	高い倫理観とEBPの概念に基づいて臨床実践を行うことができる。
授業概要	スポーツ理学療法を展開する上で必要となる運動制御理論、運動学習理論、脳科学の基礎と臨床応用について考究し、つぎに、不意な外力によるスポーツ外傷や、慢性的な過用によるスポーツ障害などのスポーツ傷害を予防、治療し、競技力を向上させるためのスポーツ理学療法の実践について講義・演習を通して学習する。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	1) 運動制御理論、運動学習理論、脳科学の基礎と臨床応用について理解する。 2) 運動器疾患、スポーツ傷害の評価法と臨床推論の進め方について理解する。 3) 運動器疾患、スポーツ傷害に対する理学療法の臨床判断の理論的背景について理解する。	
SBOs(行動目標)	1) 運動制御理論、運動学習理論、脳科学の基礎と臨床応用について説明できる。 2) 運動器疾患、スポーツ傷害に対する実践的な評価が行える。 3) 運動器疾患、スポーツ傷害に関する基本的な臨床推論が行える。 4) 運動器疾患、スポーツ傷害に対する理学療法の臨床判断の理論的背景について説明できる。	
授業計画	1. オリエンテーション 2. 運動制御理論・運動学習理論の概要 3. 運動制御・運動学習に関連した脳科学の概要 4. 運動制御理論・運動学習理論・脳科学の理学療法への応用 5. 運動器疾患における臨床推論の概要 6. 運動器疾患における臨床推論の実践 7. 運動器疾患における臨床推論の実践 8. 運動器疾患における臨床推論の実践	
授業の進め方	運動制御理論、運動学習理論、脳科学に基づいて理学療法の進め方、運動器疾患における病態特性と評価方法、模擬患者やビデオ教材を用いた臨床推論の進め方、臨床問題に対する介入方針の臨床判断などについて、講義やグループ学習、そして、e-learningを展開していく。	
テキスト、教材、参考書	授業において紹介する。	
成績評価の方法	出席、試験	
成績評価の基準	秀：課題に対する具体的な対応を十分に行うことができる。 優：課題に対する具体的な対応を概ね行うことができる。 良：課題に対する具体的な対応を基本的なレベルで行うことができる。 可：課題に対する具体的な対応を最低限のレベルで行うことができる。	
事前事後学習の内容	【事前学習】 関連する文献を事前に概観した上で授業に臨むようにしてください。  【事後学習】 授業の中で疑問に感じたり、自身の知識が足りないと感じた事柄に関しては、テキストや文献等を通して復習するように取り組んでください。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	定期的自己学習の課題を提示しますので、自主的に関連資料を収集し、課題解決のための自己学習に積極的に取り組んでください。  相談への対応 木村貞治: tkimura@shinshu-u.ac.jp Goh Ah Cheng: gohac@shinshu-u.ac.jp	

科目名	運動器・スポーツ理学療法学演習 Practice in Orthopedic and Sports Physical Therapy	
担当教員	木村 貞治 他 GOH AH CHENG, 速水 達也, 廣野 準一	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学領域 / 1年次	後期 火曜, 6時限 火曜, 7時限
単位数、講義室	4単位	保健学科111講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	自身が興味を持ったテーマに関連する先行研究の動向を整理することができる。
	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づいた臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	高い倫理観とEBPの概念に基づいて臨床実践を行うことができる。
授業概要	運動器疾患、スポーツ傷害に対する科学的根拠に基づいた最新の理学療法の研究論文の内容を講読し、これらの領域における理学療法の研究課題の動向を把握講読会を通して学習した研究方法論に基づいて、実践的な研究方法論に関する概念的枠組みを整理し、研究計画の立案を行う。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 根拠に基づいた理学療法（EBPT）の概要について理解する。</li> <li>2. 運動器疾患、スポーツ傷害の理学療法における研究方法論について理解する。</li> <li>3. 運動器疾患、スポーツ傷害の理学療法に関する研究論文の収集の仕方と読み方について理解する。</li> <li>4. 運動器疾患、スポーツ傷害の理学療法に関する研究計画書の作成方法を理解する。</li> </ol>	
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. EBPTの概要と具体的な進め方について説明できる。</li> <li>2. 運動器疾患、スポーツ傷害の理学療法における基本的な研究方法論について説明できる。</li> <li>3. 運動器疾患、スポーツ傷害の理学療法に関する研究論文の収集の仕方と読み方について説明できる。</li> <li>4. 運動器疾患、スポーツ傷害の理学療法に関する科学的妥当性と倫理的妥当性のある研究計画書を作成する。</li> </ol>	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. EBPTの概念と具体的な進め方</li> <li>3. EBPTの概念と具体的な進め方</li> <li>4. 研究における妥当性と信頼性</li> <li>5. 研究過程と研究デザイン</li> <li>6. 機器別の測定方法</li> <li>7. 機器別の測定方法</li> <li>8. 機器別の測定方法</li> <li>9. データ処理方法</li> <li>10. 統計解析方法</li> <li>11. 統計解析方法</li> <li>12. 研究計画書の書き方</li> <li>13. 研究論文の書き方</li> <li>14. 研究論文の書き方</li> <li>15. 研究論文の書き方</li> <li>16. 自己学習課題（PICO～研究計画）の発表と討議</li> </ol>	
授業の進め方	前半は、研究方法論についての講義と演習、そして、後半では、関連する研究論文の抄読会と研究計画書の作成を行う。 また、作成した研究計画書を倫理委員会に提出し、承認を得ることによって、実際の研究活動の準備を進める。	
テキスト、教材、参考書	授業において、適宜、紹介する。	
成績評価の方法	出席、グループワークの状況、自己学習課題の発表内容	
成績評価の基準	<p>秀：課題に対する具体的な対応を十分に行うことができる。</p> <p>優：課題に対する具体的な対応を概ね行うことができる。</p> <p>良：課題に対する具体的な対応を基本的なレベルで行うことができる。</p> <p>可：課題に対する具体的な対応を最低限のレベルで行うことができる。</p>	
事前事後学習の内容	<p>【事前学習】 関連する文献を事前に概観した上で授業に臨むようにしてください。</p> <p>【事後学習】 授業の中で疑問に感じたり、自身の知識が足りないと感じた事柄に関しては、テキストや文献等を通して復習するように取り組んでください。</p>	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	定期的に自己学習の課題を提示しますので、自主的に関連資料を収集し、課題解決のための自己学習に積極的に取り組んでください。	

登録コード:MA760300		授業科目区分	選択科目
科目名	障害予防理学療法学特論 Special Lectures in Physical Therapy for Disability Prevention		
担当教員	大平 雅美 他 横川 吉晴, 三好 圭		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学領域 / 1年次	前期	火曜, 6時限
単位数、講義室	2単位	保健学科131講義室	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	自身の経験等で興味を抱いたテーマに関連する先行研究収集と動向整理ができる。	
	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	高い倫理観とEBPTの概念に基づいて臨床実践・研究を行うことができる。	
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	保健学の視点を加え、独創的な理学療法学研究を計画・実践できる。	
授業概要	生活習慣や加齢に伴うさまざまな障害の原因や予防活動について講義・論文抄読を通して学び、理学療法の実際について障害予防の視点から理解を深める。		
一般学習目標G10(期待される学習効果)	加齢や生活習慣に由来する呼吸・循環・代謝などの疾病、機能障害の予防、そして生活機能の維持あるいは低下の遅延という視点を身につける。 1) 加齢やいわゆる生活習慣病に対する理学療法の基礎と臨床応用について理解する。 2) 加齢や生活習慣病に対する理学療法の評価法と臨床推論の進め方について理解する。 3) 加齢や生活習慣病に対する理学療法における臨床判断の理論的背景について理解する。		
SBOs(行動目標)	呼吸・循環・代謝にかかわる障害、高齢者の生活機能低下についての知見や予防の方略を適切に説明できる。 1) 加齢やいわゆる生活習慣病に対する理学療法の基礎と臨床応用について説明できる。 2) 加齢や生活習慣病に対する実践的な理学療法評価が行える。 3) 加齢や生活習慣病に対する理学療法において基本的な臨床推論が行える。 4) 加齢や生活習慣病に対する理学療法の臨床判断の理論的背景について説明できる。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション(大平・横川)</li> <li>・前半:呼吸・循環・代謝疾患・障害に関する講義・論文抄読・臨床推論(大平・横川・三好)</li> <li>・後半:高齢者の生活機能とその障害,それらに対する介入方法に関する講義・論文抄読・臨床推論(大平・横川・三好)</li> </ul>		
授業の進め方	呼吸・循環・代謝にかかわる障害、高齢者の生活機能低下に対する理学療法の進め方,対象者の病態・障害特性と評価方法,症例(報告,自験例)を通じた臨床推論の進め方,臨床判断に基づく介入方針決定などについて,講義やグループ討議を展開する。		
テキスト,教材,参考書	資料配付 テキスト等は講義中に紹介		
成績評価の方法	課題レポート,プレゼンテーション,出席		
成績評価の基準			
事前事後学習の内容			
学生へのメッセージ並びに質問,相談への対応	<p>毎回討議等の内容を反映した学習課題が浮かぶと思われるので,自主的に関連資料を集め,課題解決のための自己学習に積極的に取り組むように努めてください。</p> <p>相談への対応 大平 雅美:mohira@shinshu-u.ac.jp 横川 吉晴:fhakuba@shinshu-u.ac.jp</p>		

科目名	障害予防理学療法学演習 Practice in Physical Therapy for Disability Prevention	
担当教員	大平 雅美 他 横川 吉晴, 三好 圭	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学領域 / 1 年次	後期 火曜, 5 時限 火曜, 6 時限
単位数、講義室	4 単位	保健学科 1 3 1 講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	経験等から興味を抱いたテーマに関連する先行研究の動向を整理することができる。
	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	高い倫理観とEBPTの概念に基づいて臨床実践・研究を行うことができる。
授業概要	障害予防理学療法学特論で学習した理論や概念を実践的研究手法に結びつける演習を行う。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 根拠に基づいた理学療法（EBPT）の概要を理解する。</li> <li>2) 高齢者や生活習慣病リスク保持者に対する理学療法の研究手法論について理解する。</li> <li>3) 高齢者や生活習慣病リスク保持者に対する理学療法の研究論文収集と読み方を理解する。</li> <li>4) 高齢者や生活習慣病リスク保持者に対する理学療法の研究計画書の作成方法を理解する。</li> </ol>	
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) EBPTの概要と具体的な進め方について説明できる。</li> <li>2) 高齢者や生活習慣病リスク保持者に対する理学療法の基本的な研究手法論を説明できる。</li> <li>3) 高齢者や生活習慣病リスク保持者に対する理学療法の研究論文の収集の仕方と読み方を説明できる。</li> <li>4) 高齢者や生活習慣病リスク保持者に対する理学療法に関する科学的、倫理的妥当性のある研究計画書を作成する。</li> </ol>	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) オリエンテーション</li> <li>2) EBPTの概念と具体的な進め方</li> <li>3) 研究における妥当性と信頼性</li> <li>4) 研究過程と研究デザイン</li> <li>5) 機器別の測定方法</li> <li>6) 統計解析方法</li> <li>7) データ処理方法</li> <li>8) 研究計画書の書き方</li> <li>9) 研究論文の書き方</li> <li>10) 自己学習課題（PIC0～研究計画）の発表と討議</li> </ol>	
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション（大平・横川）</li> <li>・前半：スポーツ理学療法学履修者と共に研究法論の実践的講義と演習（木村・Goh・大平・横川）</li> <li>・後半：地域における障害予防活動への参加等を含め、裏付けとなる論文の抄読および討論ならびに研究計画書の作成を行う。（大平・横川）</li> <li>・その後、倫理審査委員会の承認を得て、研究活動の準備に取りかかる。</li> </ul>	
テキスト、教材、参考書	テキストなし 資料配付 参考書は、適宜、紹介	
成績評価の方法	出席およびプレゼンテーション、レポートの作成過程と内容	
成績評価の基準		
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	定期的に学習課題が提示されるので、自主的に関連資料を収集し、課題解決のための自己学習に積極的に取り組んでください。	

科目名	理学療法学特別研究 Research Thesis (Master's) in Physical Therapy	
担当教員	木村 貞治	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学領域 / 2年次	通年 ,不定期
単位数、講義室	10単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	学術情報の収集・分析を通して信頼性・妥当性のある研究活動を展開できる。
	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	倫理的・科学的に妥当性のある理学療法学研究を計画・実践できる。
	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	CITIに基づく高い倫理観とEBPの概念に則った科学性に基づいて研究活動を展開できる。
	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	保健学の視点から独創的な理学療法学研究を計画・実践できる。
授業概要	共通科目、運動器・スポーツ理学療法学特論および演習、そして、他領域の特論で修得した理論と技術に関する実践的な研究を研究法や運動器・スポーツ理学療法学演習で学んだ研究方法論の知識に基づいて展開する。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	1) 研究計画に基づいた研究活動を展開する。 2) 研究活動の結果を研究論文やプレゼンテーションによって発表する。	
SBOs(行動目標)	1) 先行研究の講読を通して研究計画を立案する。 2) 研究計画に基づいて、データ収集, データ解析, 統計解析を行なう。 3) 先行研究を参考にして、研究結果を考察する。 4) 研究活動の結果を研究論文としてまとめる。 5) 研究論文の概要をプレゼンテーションする。	
授業計画	1. 研究計画の立案 2. 研究活動の実施 1) 被験者の募集 2) データ収集 3) データ処理 4) データ解析 5) 統計解析 6) 研究論文の作成 3. 研究論文の概要に関するプレゼンテーション 4. 論文審査	
授業の進め方	指導教員と相談しながら、研究活動を進める。	
テキスト, 教材, 参考書	適宜, 紹介する。	
成績評価の方法	研究論文の内容, プレゼンテーション	
成績評価の基準	研究課題の設定, 研究計画の立案・計画書作成, 倫理審査, 研究準備・実施, 研究成果の発表と論文作成の取り組み状況および内容に基づいて、下記の基準で行います。  秀: 十分に信頼性・妥当性があり, 独創性のある研究活動を行うことができる。 優: 概ね信頼性・妥当性のある研究活動を行うことができる。 良: 基本的なレベルの信頼性・妥当性での研究活動を行うことができる。 可: 最低限のレベルの信頼性・妥当性での研究活動を行うことができる。	
事前事後学習の内容	【事前・事後学習】 自身のテーマに関連する先行研究を収集, 批判的吟味, 要約し, 先行研究でどこまで分かっている、どのような点がまだ不明な点なのか、そして、自身の研究がどのような事柄を明らかにしようとしているのか、また、信頼性・妥当性のある研究を展開するためにどのような点に配慮していくのかという点について、ゼミの前後で能動的に整理していくようにしてください。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	臨床的な疑問に対する科学的かつ倫理的妥当性のある研究活動を展開できるよう、主体的な学習に取り組んでください。	

登録コード:MA760501	授業科目区分	必修科目
科目名	理学療法学特別研究 Research Thesis (Master's) in Physical Therapy	
担当教員	大平 雅美	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学領域 / 2年次	通年 ,不定期
単位数、講義室	10単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<p>医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。</p> <p>学術情報の収集・分析を通して信頼性・妥当性のある研究活動を展開できる。</p> <p>医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。</p> <p>倫理的・科学的に妥当性のある理学療法学研究を計画・実践できる。</p> <p>高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。</p> <p>CITIに基づく高い倫理観とEBPの概念に則った科学性に基づいて研究活動を展開できる。</p> <p>保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。</p> <p>保健学の視点から独創的な理学療法学研究を計画・実践できる。</p>	
授業概要	共通科目、運動器・スポーツ理学療法学特論、障害予防理学療法学特論や他領域の特論で修得した理論と技術に関する実践的な研究を、研究法や運動器・スポーツ理学療法学演習、障害予防理学療法学演習で学んだ研究方法論の知識に基づいて展開し、いわゆる内部障害（呼吸障害、心血管障害、糖尿病や糖尿病など）や加齢による機能障害、生活障害に対する予防的介入の臨床、研究を論文としてまとめる。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究計画に基づいた研究活動を展開する。</li> <li>2) 研究活動の結果を研究論文やプレゼンテーションによって発表する。</li> </ol>	
SB0s（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 先行研究のレビュー等を通して研究計画を立案する。</li> <li>2) 研究計画に基づいて、データ収集、データ解析、統計処理を行なう。</li> <li>3) 先行研究を参考に研究結果を考察する。</li> <li>4) 研究活動の結果を研究論文としてまとめる。</li> <li>5) 研究論文の概要をプレゼンテーションする。</li> </ol>	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究背景の整理</li> <li>2) 研究計画の立案</li> <li>3) 被験者の収集</li> <li>4) データ収集</li> <li>5) データ解析</li> <li>6) 統計処理</li> <li>7) 研究結果のまとめ</li> <li>8) 研究結果の考察</li> <li>9) 研究論文の作成</li> <li>10) 研究論文の概要に関するプレゼンテーション</li> </ol>	
授業の進め方	複数の教員と相談しながら、研究計画書の作成、倫理審査、データ収集、データ解析、論文作成、研究発表を通じて、理学療法に関する先行研究を概観・整理し、基本的な臨床研究を実践できる能力をつける。	
テキスト、教材、参考書	適宜、紹介する。	
成績評価の方法	指導教員による研究論文、プレゼンテーションの内容評価および指導教員以外による論文審査	
成績評価の基準	論文審査結果	
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	臨床的な疑問に対する科学的かつ倫理的妥当性のある研究活動を展開できるよう、主体的な学習に取り組んでください。	

科目名	理学療法学特別研究 Research Thesis (Master's) in Physical Therapy
担当教員	GOH AH CHENG
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学領域 / 2 年次 通年 ,不定期
単位数、講義室	10 単位
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	
授業概要	共通科目、運動器・スポーツ理学療法学特論および演習、そして、他領域の特論で修得した理論と技術に関する実践的な研究を研究法や運動器・スポーツ理学療法学演習で学んだ研究方法論の知識に基づいて展開する。
一般学習目標G10(期待される学習効果)	1) 研究計画に基づいた研究活動を展開する。 2) 研究活動の結果を研究論文やプレゼンテーションによって発表する。
SBOs(行動目標)	1) 研究計画に基づいて、データ収集、データ解析、統計処理を行なう。 2) 先行研究を参考にして、研究結果を考察する。 3) 研究活動の結果を研究論文としてまとめる。 4) 研究論文の概要をプレゼンテーションする。
授業計画	1) 被験者の収集 2) データ収集 3) データ解析 4) 統計処理 5) 研究結果のまとめ 6) 研究結果の考察 7) 研究論文の作成 8) 研究論文の概要に関するプレゼンテーション
授業の進め方	指導教員と相談しながら、研究活動を進める。
テキスト、教材、参考書	適宜、紹介する。
成績評価の方法	研究論文の内容、プレゼンテーション
成績評価の基準	
事前事後学習の内容	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	臨床的な疑問に対する科学的かつ倫理的妥当性のある研究活動を展開できるよう、主体的な学習に取り組んでください。

登録コード:MA760503		授業科目区分	必修科目
科目名	理学療法学特別研究 Research Thesis (Master's) in Physical Therapy		
担当教員	横川 吉晴		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	理学療法学領域 / 2 年次	通年	,不定期
単位数、講義室	1 0 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において 独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	指導に基づき研究論文を作成・発表できる。	
授業概要	共通科目、運動器・スポーツ理学療法学特論および演習、そして、他領域の特論で修得した理論と技術に関する実践的な研究を、研究法や運動器・スポーツ理学療法学演習で学んだ研究方法論の知識に基づいて展開する。		
一般学習目標G10(期待される学習効果)	1) 研究計画に基づいた研究活動を展開する。 2) 研究活動の結果を研究論文やプレゼンテーションによって発表する。		
SBOs(行動目標)	1) 研究計画に基づいて、データ収集、データ解析、統計処理を行なう。 2) 先行研究を参考にして、研究結果を考察する。 3) 研究活動の結果を研究論文としてまとめる。 4) 研究論文の概要をプレゼンテーションする。		
授業計画	1) 被験者の募集 2) データ収集 3) データ解析 4) 統計処理 5) 研究結果のまとめ 6) 研究結果の考察 7) 研究論文の作成 8) 研究論文の概要に関するプレゼンテーション		
授業の進め方	指導教員と相談しながら、研究活動を進める。		
テキスト、教材、参考書	適宜、紹介する。		
成績評価の方法	研究論文の内容、プレゼンテーション		
成績評価の基準	i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」、(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」。		
事前事後学習の内容	【事前学習】毎回の研究打ち合わせの最後に、次の回につながる課題を出す。  【事後学習】課題の理解を確認するので、発表・説明できるようにする。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	臨床的な疑問に対する科学的かつ倫理的妥当性のある研究活動を展開できるよう、主体的な学習に取り組んでください。		

登録コード:MA770100		授業科目区分	選択科目
科目名	機能障害学特論 Special Lectures in Disability Science		
担当教員	寺田 信生 他 百瀬 公人, 杉山 暢宏, 青木 薫		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	機能障害学領域 / 1 年次	後期	水曜, 6 時限
単位数、講義室	2 単位	保健学科 1 3 1 講義室	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	運動機能障害・脳機能障害の基本原則を理解する。	
授業概要	運動機能障害・脳機能障害の基本原則を理解した上で、個々の疾患に応用できるより高度な理論や相互関係を探求する。その手法は、神経系・筋骨格系の組織解剖学・分子生物学・生化学・生理学・運動力学など多岐にわたる。これらの科学的知識を基に、運動機能障害の治療を目的とした理学療法・作業療法の理論的背景を掘り下げる。また、大脳病変に由来する認知機能障害や行動障害などの高次機能障害について臨床的視点から学ぶ。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経系・筋骨格系の解剖学・生化学・生理学を修得する。</li> <li>2. 神経系・筋骨格系を代謝の面から捉える。</li> <li>3. 神経系・筋骨格系科学の最近の知見を幅広く理解する。</li> <li>4. 筋や神経疾患の病態生理を理解し、臨床的にどのようなアプローチが可能なのかを探求するための理論や技法について修得する。</li> <li>5. 筋電図解析や運動力学的解析などの解析手法の応用と限界を理解し、健康者と機能障害のあるものの運動解析の差異から運動機能障害の理解を深め、障害の予防と治療に必要な原因と結果の論理体系を修得する。</li> <li>6. 高次脳機能障害を呈する病態に対し治療を実践するのに必要な診断・治療などの医学的知識について学習する。</li> <li>7. 神経心理学や認知神経科学などの脳行動科学理論について学習する。</li> <li>8. 脳機能の障害に基づく多彩な認知・感覚・行動障害の症状と病態を学習する。</li> <li>9. 高次機能障害のある患者の臨床評価や画像診断及びその解析法を学習する。</li> </ol> <p>以上の学習を通して、情報収集能力・分析能力・情報発信能力を習得する。</p>		
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経系・筋骨格系科学の基本を理解できる。</li> <li>2. 骨の生理学を理解できる。</li> <li>3. カルシウム代謝を説明できる。</li> <li>4. 最新の筋・神経科学の分子生物学的解析法を説明できる。</li> <li>5. 形態、筋、関節、中枢神経系の異常を説明できる。</li> <li>6. 運動機能の障害による動作を説明できる。</li> <li>7. 局所病変と高次脳機能障害の関係を説明できる。</li> <li>8. MRIや脳血流シンチグラフィなどを用いた病巣解析と機能障害の関係を説明できる。</li> <li>9. 病態に応じた機能評価のための神経心理検査が選択できる。</li> </ol>		
授業計画	第1回（10月4日） 神経系・筋骨格系科学の基本（青木） 第2回（10月11日） 骨の生理学（青木） 第3回（10月18日） カルシウム代謝（青木） 第4回（10月25日） 骨格筋・神経の解剖生理学（基礎編1）（寺田） 第5回（11月1日） 骨格筋・神経の解剖生理学（基礎編2）（寺田） 第6回（11月8日） 骨格筋・神経の分子生物学（応用編）（寺田） 第7回（11月15日） 合同討論1 第8回（11月22日） 機能障害学と研究：研究結果の応用（百瀬） 第9回（11月29日） 健康者の運動の理解：重心と加速度と全身運動（百瀬） 第10回（12月6日） 障害者の運動の理解：重心（百瀬） 第11回（12月13日） 神経心理学と認知神経科学1（杉山） 第12回（12月20日） 神経心理学と認知神経科学2（杉山） 第13回（1月10日） 高次脳機能障害（杉山） 第14回（1月17日） 合同討論2 第15回（1月24日） 合同討論3		
授業の進め方	講義を中心に行い、その内容に関連したレポートを課す。		
テキスト、教材、参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 標準生理学 医学書院</li> <li>2. 筋・神経科学に関しては特に教科書を指定しない（一流ジャーナルの最近のレビューを配布する）。</li> <li>3. 立ち上がり動作の分析 医歯薬出版</li> <li>4. 歩き初めと歩行の分析 医歯薬出版</li> </ol>		
成績評価の方法	出席、レポート、授業中の口頭試問などを総合的に評価する。		
成績評価の基準	授業で解説した内容と同レベルの課題が理解できれば「水準にある」、応用課題が理解できれば「やや上にある」、やや難しい応用課題が理解できれば「かなり上にある」、解説した内容より難しい応用課題が理解できれば「卓越している」。		
事前事後学習の内容	授業計画や授業で配布する資料等で、予習しておくべき内容を示してあるので、教科書や参考書で事前学習する。また、授業中に、これまでの授業で学習した内容について質問をするので、自分の言葉で端的にわかりやすく説明できるように事後学習する。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	受講希望者は、あらかじめ担当教員（寺田）にメールで連絡すること。 また、授業の各教員の日程について、随時変更することがあるので、メールで情報を得ること。  e-mail 青木：kin29men@shinshu-u.ac.jp 寺田：nobot@shinshu-u.ac.jp 百瀬：kmosose@shinshu-u.ac.jp 杉山：nslugi@shinshu-u.ac.jp		

登録コード:MA770200		授業科目区分	選択科目
科目名	機能障害学演習 Practice in Disability Science		
担当教員	寺田 信生 他 百瀬 公人, 杉山 暢宏, 青木 薫		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	機能障害学領域 / 2 年次	前期	水曜, 6 時限 水曜, 7 時限
単位数、講義室	4 単位	保健学科 1 3 1 講義室	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において独自の観点で研究を推進する能力を有する。 運動機能障害に対する既存の理学療法・作業療法を検証する。		
授業概要	運動機能障害に対する既存の理学療法・作業療法を検証し、組織解剖学・分子生物学・生化学・生理学・運動力学などの科学的根拠に基づいたより有効な手技、新しい治療方法を探究する。高次機能障害とそのリハビリテーションに関連する最新知見を文献調査し、高次機能障害の理学療法・作業療法領域で扱う研究課題を明らかにする。		
一般学習目標G10(期待される学習効果)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経系・筋骨格系の生理作用を、分子生物学的手法を用いて探究する。</li> <li>2. 筋・神経の機能について、形態学的手法を用いて検証する。</li> <li>3. 3次元動作解析装置、筋電図、最大酸素摂取量計測などによる運動力学的・運動生理学的な計測、臨床で簡便に用いられる評価スケールや評価器具を用いての検証、既存のリハビリテーション機器の有効性評価・改良などについて深く追求する。</li> <li>4. 高次機能障害とそのリハビリテーションに関連する知見や現在の課題を学習する。高次脳機能障害の研究を行う際の、評価尺度を施行できる。</li> </ol> <p>以上の学習を通して、情報収集能力・分析能力・情報発信能力を習得する。</p>		
SBOs(行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 骨の生理作用を分子レベルから理解する。</li> <li>2. 神経の生理作用を分子レベルから理解する。</li> <li>3. 骨格筋・神経の正常電顕像を理解する。</li> <li>4. 骨格筋・神経の再生過程を理解する。</li> <li>5. 正常運動時の重心の加速度を理解する。</li> <li>6. 正常運動時の間接角度、角速度、角速度を理解する。</li> <li>7. 運動機能障害と正常運動時の違いを理解する。</li> <li>8. 高次脳機能障害研究を行う際に疾病や病態別の臨床評価尺度を選択する能力を身につける。</li> <li>9. 高次脳機能障害に関する論文の評価や意義を理解することが出来る。</li> </ol>		
授業計画	第1回(4月12日)分子レベルから見た骨・神経の生理作用1(青木) 第2回(4月19日)分子レベルから見た骨・神経の生理作用2(青木) 第3回(4月26日)分子レベルから見た骨・神経の生理作用3(青木) 第4回(5月10日)骨格筋・神経の機能解析のための顕微鏡の役割1(寺田) 第5回(5月17日)骨格筋・神経の機能解析のための顕微鏡の役割2(寺田) 第6回(5月24日)骨格筋・神経の機能解析のための顕微鏡の役割3(寺田) 第7回(5月31日)合同討論1, 中間まとめ 第8回(6月7日)重心の運動学, 四肢の運動と関節角度, 角加速度1(百瀬) 第9回(6月14日)重心の運動学, 四肢の運動と関節角度, 角加速度2(百瀬) 第10回(6月21日)重心の運動学, 四肢の運動と関節角度, 角加速度3(百瀬) 第11回(6月28日)高次脳機能障害の研究を行う際に必要な評価尺度等の演習1(杉山) 第12回(7月5日)高次脳機能障害の研究を行う際に必要な評価尺度等の演習2(杉山) 第13回(7月12日)研究テーマに関連する原著論文や総説の収集(杉山) 第14回(7月19日)合同討論2 第15回(7月26日)合同討論3		
授業の進め方	講義, 演習, 課題発表, 討論などを行う。		
テキスト, 教材, 参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 標準生理学 医学書院</li> <li>2. 筋・神経科学に関しては特に教科書を指定しない(一流ジャーナルの最近のレビューを配布する)。</li> <li>3. 立ち上がり動作の分析 医歯薬出版</li> <li>4. 歩き初めと歩行の分析 医歯薬出版</li> </ol>		
成績評価の方法	出席, 講義中の試問, レポートなどを総合的に評価する。		
成績評価の基準	授業で解説した内容と同レベルの課題が理解できれば「水準にある」, 応用課題が理解できれば「やや上にある」, やや難しい応用課題が理解できれば「かなり上にある」, 解説した内容より難しい応用課題が理解できれば「卓越している」。		
事前事後学習の内容	授業計画や授業で配布する資料等で、予習しておくべき内容を示してあるので、教科書や参考書で事前学習する。 また、授業中に、これまでの授業で学習した内容について質問をするので、自分の言葉で端的にわかりやすく説明できるように事後学習する。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	受講希望者は、あらかじめ担当教員(寺田)にメールで連絡すること。 また、授業の各教員の日程について、随時変更することがあるので、メールで情報を得ること。  e-mail 青木: kin29men@shinshu-u.ac.jp 寺田: nobuot@shinshu-u.ac.jp 百瀬: kmomose@shinshu-u.ac.jp 杉山: nsugi@shinshu-u.ac.jp		

科目名	機能障害学特別研究 Research Thesis (Master's) in Disability Science	
担当教員	寺田 信生	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	機能障害学領域 / 2年次	通年 , 不定期
単位数、講義室	10単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。	従来の実験方法を確実に習得して総合的に活用でき、かつ不足点を見出せるようにする。
	自らの得た成果を世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力を有するとともに、国際的な諸課題に積極的に取り組むことができる。	新しい結果の再現性を確認したうえで、英語論文として発表できるようにする。
	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	研究が人類の健康に役立つように応用できることを考えるようにする。
	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。	科学的知識に基づいた普遍性を追究し国際的に倫理観をもって発信できる力をつける。
授業概要	最新の科学的な細胞組織学的解析法に基づいて、理学療法学・作業療法学の確立に貢献できる運動機能障害・高次機能障害に関する基礎的研究を行う。 特に細胞膜構成蛋白である膜骨格のネットワークを研究する。 この授業は、人体構造の基本を理解する観点から、男女共同参画に関する内容を含んでいます。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	細胞膜骨格を中心に、蛋白複合体の基本構造を追究する。 その破綻による疾患の病態を解剖生理学的に理解し、治療法を整理する。 新たな治療法について考察する。	
SBOs(行動目標)	各種の実験を通して生体の基本構造の解析とそれが破綻する種々の病態について検討し、病気の新しい説明や考え方を導く。	
授業計画	<p>(1) 以下の手法を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 光学顕微鏡・電子顕微鏡を用いて観察する形態学的実験法</li> <li>2) ウェスタンブロット法・免疫沈降法・PCR法などの遺伝子の扱い・遺伝子改変の細胞から個体への応用などの分子生物学・生化学の実験法</li> <li>3) 神経電気伝導機能や筋力測定などの生理学的実験法</li> </ol> <p>(2) これらの実験方法を適時利用し、研究の目的に沿って総合的に構造と機能を理解する能力をつけていく。</p> <p>(3) 基本技術を用いて、目的 仮説 実験 考察を繰り返す研究するサイクルについて身につける。</p> <p>なお、これらの具体的な日程については、修得度に応じて決めていく。</p>	
授業の進め方	国際誌に発表できるテーマを用いて、目的 - 仮説 - 実験 - 結果 - 考察を繰り返して、自らの研究サイクルが確立できるようにしていく。	
テキスト、教材、参考書	適宜、指示する。 英文の文献検索や読解は必須である。	
成績評価の方法	自ら研究に取り組む態度、実験ノート、結果発表(学会発表)、論文作成を総合的に評価する。	
成績評価の基準	研究が自ら遂行できるようになり、英文論文としてまとめられることが評価基準である。	
事前事後学習の内容	研究において、常に結果のフィードバックをかけて学習内容を確認していく。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	最新の科学的研究法を用いて、未知の生物の構造と機能の解明に挑戦してほしい。	

科目名	機能障害学特別研究 Research Thesis (Master's) in Disability Science	
担当教員	百瀬 公人	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	機能障害学領域 / 2年次	通年 ,不定期
単位数、講義室	10単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<p>医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。</p> <p>自らの得た成果を世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力を有するとともに、国際的な諸課題に積極的に取り組むことができる。</p> <p>医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。</p> <p>高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。</p> <p>保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。</p> <p>国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。</p>	<p>研究を具体的に進める過程に於て身につける。</p> <p>国際学会および国際誌に発表することを通して身につける。</p> <p>収集した情報を吟味し、研究で得られたデータをもとに討論することにより身につける。</p> <p>収集した情報を吟味し、研究で得られたデータをもとに討論することにより身につける。</p> <p>研究を進める過程の討論を通して身につける。</p> <p>共同研究者との協力のもとに研究を進めることにより身につける。</p>
授業概要	特論や演習で学んだ理論と技術を基に、新しい科学的な理学療法学・作業療法学の確立に貢献できる運動機能障害・高次機能障害に関する基礎的研究を行う。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	情報収集能力を高め、疾患の病態を解剖生理学的情報、その治療に関する情報を集約するとともに、分析能力を高め集めた情報を整理し、新たな治療法の考え方を構築する。また、グローバルな情報発信能力を高めることにより得られた研究成果を発表する。	
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種実験を通して様々な病態を検討し、新しい考え方を導く。</li> <li>・研究計画を立案できる。</li> <li>・研究に必要な論文を収集し、研究目的を明らかにすることができる。</li> <li>・具体的研究方法を実施、改善できる。</li> <li>・統計学的処理が実施できる。</li> <li>・論理的考察が実施できる。</li> <li>・関係学会あるいは雑誌に発表できる。</li> </ul>	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献講読会と研究ミーティングに基づいた研究計画の立案</li> <li>2. 調査・実験の実施</li> <li>3. データ処理</li> <li>4. 修士論文の作成</li> <li>5. 研究成果のプレゼンテーション</li> </ol>	
授業の進め方	個別指導	
テキスト、教材、参考書	適宜、指示する。	
成績評価の方法	学位論文（100%）	
成績評価の基準	<p>秀： 授業の達成目標水準から見て卓越している。高度な論文を作成でき、深い討論ができる。</p> <p>優： 授業の達成目標水準よりかなり上にある。高度な論文を作成でき、討論できる。</p> <p>良： 授業の達成目標水準よりやや上にある。論文が作成でき、討論できる。</p> <p>可： 授業の達成目標水準にある。論文が書ける。</p> <p>不可： 授業の達成目標水準より下にある。</p>	
事前事後学習の内容	<p>一単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成するため、自主学習時間は次のようになる。</p> <p>週1回の授業で10単位の授業（450時間の学修が必要）授業時間60時間（2時間×30回）、自主学習時間390時間（2時間×195回）論文作成は年間を通して行われるため、また自主学習は週1回とは限らないので、適時自分の配分で準備を進めてください。</p> <p>関連論文の収集と読み込み、研究計画の立案、倫理審査会への申請、データ収集、統計解析、学会発表および論文作成の準備を上記の時間で行うことになります。</p>	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	メールにてお問い合わせください。kmosose@shinshu-u.ac.jp	

科目名	機能障害学特別研究 Research Thesis (Master's) in Disability Science	
担当教員	杉山 暢宏	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	機能障害学領域 / 2 年次	通年 , 不定期
単位数、講義室	10 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において 独創的な観点で研究を推進する能力を有する。	高次脳機能に関わる論文の作成
授業概要	特論や演習で学んだ理論と技術を基に、新しい科学的な理学療法学・作業療法学の確立に貢献できる運動機能障害・高次機能障害に関する基礎的研究を行う。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	疾患の病態を解剖生理学的に理解し、その治療に対する考え方を整理するとともに、新たな治療法の考え方を構築する。	
SBOs（行動目標）	各種実験を通して様々な病態を検討し、新しい考え方を導く。	
授業計画	高次機能にかかわる研究および論文の作成	
授業の進め方	高次機能にかかわる研究および論文の作成	
テキスト、教材、参考書	適宜、指示する。	
成績評価の方法	学位論文によって評価する。 学位論文完成時に成績は評価する。	
成績評価の基準	論文の作成 (i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している(秀)」、(i) ~ (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある(優)」、4項目までできていれば「やや上にある(良)」、3項目までできていれば「水準にある(可)」。	
事前事後学習の内容	適宜、指示する。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問、相談：オフィスアワー参照。	

科目名	機能障害学特別研究 Research Thesis (Master's) in Disability Science	
担当教員	青木 薫	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	機能障害学領域 / 2 年次	通年 ,不定期
単位数、講義室	10 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。	研究成果を発表する。
授業概要	特論や演習で学んだ理論と技術を基に、新しい科学的な理学療法学・作業療法学の確立に貢献できる運動機能障害・高次機能障害に関する基礎的研究を行う。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	研究を実践する過程において、情報収集能力・分析能力・グローバルな情報発信能力を習得する。	
SBOs(行動目標)	疾患の病態を解剖学的・生理学的に理解し、その治療に対する考え方を整理すると共に、新たな治療法の考え方を構築する。 各種実験を通して様々な病態を検討し、新しい考え方を導く。	
授業計画	1) 研究テーマにそって文献調査および予備実験のデータを踏まえて実験計画を立てる。 2) 計画にそって実験および調査を実施する。 3) 実験や調査結果をまとめ、その結果を評価・考察する。  以上のような研究サイクルによって、研究テーマを発展させる。 教員は、討論および研究方法の助言を通して研究推進をサポートする。	
授業の進め方		
テキスト、教材、参考書	適宜、指示する。	
成績評価の方法	出席・レポート	
成績評価の基準	研究に取り組む姿勢、研究内容で評価を行う。	
事前事後学習の内容		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	定期的に研究の進捗状況に関するミーティングを行う。 質問、相談は、その際に受け付けるが、必要があれば適宜、対応する。	

登録コード:MA780100		授業科目区分	選択科目
科目名	生活支援作業療法学特論 Special Lectures in Occupational Therapy Focused on Activities of Daily Living		
担当教員	上村 智子 他 務臺 均, 佐賀里 昭		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学領域 / 1年次	後期	木曜, 5時限
単位数、講義室	2単位	保健学科111講義室	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。 作業療法の視点を生かした生活支援プログラムとその開発プロセスについて学習する。		
授業概要	身体障害や老年期障害を有する人の日常生活活動を支える作業療法の実践と研究について学術的に探求する。 授業では、脳卒中患者や高齢の骨折患者やがんサバイバーのための作業療法、さらに支援機器や住環境整備といった臨床のトピックを取り上げ、EBPにそった、在宅生活支援プログラムについて学習する。 さらに、作業療法実践の科学的エビデンス構築のための基礎研究の手法についても学習する。		
一般学習目標G10(期待される学習効果)	脳卒中患者や高齢の骨折患者やがんサバイバーの生活を支える作業療法や、疾病や加齢で機能が低下した人のための支援機器や住環境整備に関するEBPにそった実践について理解を深める。 さらに、EBP構築に資する生体計測を用いた基礎研究手法についても理解する。		
SBOs(行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳卒中などの加齢性疾患を有する人の在宅生活維持における具体的な課題が列挙できる</li> <li>・課題に対して、地域包括ケアシステムの中で作業療法の視点を生かしたプログラムの提案ができる</li> <li>・がんサバイバーに対する作業療法士の役割を説明できる</li> <li>・緩和ケアにおける作業療法士の役割を説明できる</li> <li>・住まいのハザード評価が実施できる</li> <li>・認知機能を補う支援機器とその活用について事例を通して説明できる</li> <li>・支援機器・住環境整備サービス向上への作業療法士の貢献について考えが述べられる</li> <li>・作業療法基礎研究で用いる生体計測機器の特徴と研究のねらいを説明できる</li> </ul>		
授業計画	第1回 在宅高齢者の生活に関する課題と支援(務台) 第2回 在宅脳卒中患者の生活に関する課題と支援(務台) 第3回 在宅大腿骨近位端骨折患者の生活に関する課題と支援(務台) 第4回 地域包括ケアシステムと作業療法1(務台) 第5回 " 2(務台) 第6回 がんサバイバーに対する作業療法1(佐賀里) 第7回 " 2(佐賀里) 第8回 緩和ケアと作業療法(佐賀里) 第9回 支援機器や住環境整備と作業療法(上村) 第10回 生活機能への環境の影響を確認する評価(住まいのハザード評価)1(上村) 第11回 " 2(上村) 第12回 認知機能を補う機器とその活用1(上村) 第13回 " 2(上村) 第14回 作業療法基礎研究の理解とその応用1(佐賀里) 第15回 " 2(佐賀里)		
授業の進め方	授業は、配布資料に基づく講義形式、もしくは、学生のプレゼンテーションとディスカッション形式で進めます。 また、各単元の最初に提示する課題を実施していただきます。		
テキスト、教材、参考書	資料を配布します。 参考書は、授業で紹介します。		
成績評価の方法	出席と課題の成果に基づいて、総合的に成績を評価します。 遅刻・早退は1回で-2点、欠席は1回で-4点とします。		
成績評価の基準	出席と課題の成果による成績評価の判定基準は、下記の通りとします。 90 - 100点：秀, 80 - 89点：優, 70 - 79点：良, 60 - 69点：可		
事前事後学習の内容	【事前学習】単元ごとに教員が指示します。 【事後学習】各自、まとめを作成して、その内容を反映して、課題を実施してください。 質問には、メールで対応します。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問・相談は、随時、受け付け、可能な限り積極的に対応します。 履修希望者は、事前に連絡してください。 開講日については、別途、連絡します。 メールでの連絡先は以下の通りです。 上村：tkamimu@shinshu-u.ac.jp 務台：hitmutai@shinshu-u.ac.jp 佐賀里：sagaria@shinshu-u.ac.jp		

登録コード:MA780300		授業科目区分	選択科目
科目名	生活支援作業療法学演習 Practice in Activities of Daily Living and Assistive Technology		
担当教員	上村 智子 他 務臺 均, 佐賀里 昭		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学領域 / 2年次	前期	水曜, 6時限 水曜, 7時限
単位数、講義室	4単位	保健学科111講義室	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において独自の観点で研究を推進する能力を有する。	作業療法学的手法を用いた研究方法について学習する。	
授業概要	身体障害や老年期障害を有する人の在宅生活支援に関する研究論文の系統的レビューを行って、国内外の研究の動向を把握する。 さらに、当事者や専門家からも情報収集して、顕在・潜在する重要な課題を把握して、自らの研究テーマの抽出につなげる。 さらに、選択した課題を実証的に検証する方法を検討し、研究を進めるための条件を整える。		
一般学習目標G10(期待される学習効果)	1. 身体障害や老年期障害を有する人の在宅生活支援に関連した文献の系統的レビューと当事者や専門家からの情報収集に基づいて研究課題を精選する。 2. 研究課題に適した研究方法を検討する。 3. 研究フィールドや対象と調整して、協力を得られるように条件を整える。		
SBOs(行動目標)	1. 身体障害や老年期障害を有する人の在宅生活支援に関連した文献レビューと当事者や専門家からの情報収集に基づいて研究課題を絞り込むことができる。 2. 研究課題に適した研究方法を選択することができる。 3. 研究フィールドや対象と調整して、協力を得られるように条件を整えることができる。		
授業計画	第1~3回 身体障害や老年期障害を有する人の在宅生活支援に関する研究の動向 第4~9回 関心領域の系統的文献レビュー&当事者や専門家からの情報収集 第10~11回 研究テーマの精選 第12~13回 研究テーマに適した研究方法の検討 第14~15回 研究遂行に必要な諸条件の整備		
授業の進め方	演習を中心に行います。 文献レビューでは複数の論文を担当し、研究のデザイン、介入方法、測定指標、評価方法、ニューエビデンスをレジュメにまとめて発表していただきます。 研究課題の精選や方法の検討、諸条件の整備の学習では、学生のプレゼンテーションとディスカッション形式で進めます。		
テキスト、教材、参考書	適宜、紹介します。		
成績評価の方法	出席、課題のプレゼンテーションとディスカッションの内容に基づいて、総括的に成績を評価します。		
成績評価の基準	秀: 課題に対する具体的な対応を十分に行うことができる。 優: 課題に対する具体的な対応を概ね行うことができる。 良: 課題に対する具体的な対応を基本的なレベルで行うことができる。 可: 課題に対する具体的な対応を最低限のレベルで行うことができる。		
事前事後学習の内容	【事前学習】身体障害や老年期障害のある人の在宅生活支援の課題を事前に把握して授業に臨んでください。  【事後学習】授業の中で疑問に感じたり、自身の知識が足りないと感じた事柄に関しては、テキストや文献等を通して復習するように取り組んでください。  質問には、メールで対応します。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問・相談は、随時、受け付け、可能な限り積極的に対応します。 履修希望者は、事前に連絡してください。 開講日については、別途、連絡します。  メールでの連絡先は以下の通りです。 上村: tkamimu@shinshu-u.ac.jp 務台: hitmutai@shinshu-u.ac.jp 佐賀里: sagaria@shinshu-u.ac.jp		

登録コード:MA780400		授業科目区分	選択科目
科目名	精神作業療法学特論 Special Lectures in Occupational Therapy in Mental Health		
担当教員	小林 正義 他 下里 誠二, 杉山 暢宏		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学領域 / 1年次	後期	木曜, 6時限
単位数、講義室	2単位	保健学科111講義室	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。 保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。		
授業概要	精神障害のリハビリテーションにおいて効果が検証されている介入プログラムについて学習し、支援技術について理解を深める。		
一般学習目標G10(期待される学習効果)	1) 精神保健に関連する情報収集能力と分析能力を高める。 2) 地域生活移行支援の方法論を理解する。 3) 就労支援の方法論を理解する。 4) 家族心理教育プログラムの実践方法を学ぶ。 5) 精神保健に関する情報発信能力を高める。		
SBOs(行動目標)	1) 精神保健領域のEBPとフィデリティ測定を説明できる。 2) ACT・FPE・IPS・IMRの実践方法を説明できる。 3) 精神保健医療福祉の課題とその解決方法について議論できる。		
授業計画	第1回(9月28日) 心理社会的リハビリテーションの潮流1(小林) 第2回(10月5日) 心理社会的リハビリテーションの潮流2(小林) 第3回(10月12日) 精神科リハのEBPプログラム1(小林) 第4回(10月19日) 精神科リハのEBPプログラム2(小林) 第5回(10月26日) 認知リハビリテーション1(小林) 第6回(11月2日) 認知リハビリテーション2(小林) 第7回(11月9日) 認知リハビリテーション3(小林) 第8回(11月16日) 統合失調症治療のトレンド1(杉山) 第9回(11月30日) 統合失調症治療のトレンド2(杉山) 第10回(12月7日) 気分障害治療のトレンド1(杉山) 第11回(12月14日) 気分障害治療のトレンド2(杉山) 第12回(12月21日) ストレスマネジメント(下里) 第13回(1月11日) アンガーマネジメント(下里) 第14回(1月18日) 精神保健医療福祉の研究課題1 第15回(1月25日) 精神保健医療福祉の研究課題2		
授業の進め方	講義, 演習		
テキスト, 教材, 参考書	日本精神科リハビリテーション学会(監訳) :EBPツールキットシリーズ(Vol.1~Vol.5).  その他, 適宜, 紹介する。		
成績評価の方法	出席, ディスカッション, 期末試験		
成績評価の基準	心理社会的リハビリテーションの変遷が説明できれば「水準にある(可)」, 加えて, EBPプログラムの概要が説明できれば「やや上にある(良)」, 精神医療・福祉の課題解決に向けた方法論を具体的に説明できれば「かなり上にある(優)」, 以上の内容を踏まえた自身の研究計画書が説明できれば「卓越している(秀)」と評価します。		
事前事後学習の内容	【事前学習】 精神保健領域の課題を事前に把握して授業に臨んでください。  【事後学習】 最新の論文を参照し, 学習内容と照らして理解を深めてください。		
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	DVD教材等を取り入れ, 最新の実践に即した内容を工夫する。  相談等は, メールにて以下のアドレスに連絡してください。  mkobaya@shinshu-u.ac.jp		

登録コード:MA780500	授業科目区分	選択科目
科目名	精神作業療法学演習 Practice in Occupational Therapy in Mental Health	
担当教員	小林 正義 他 務臺 均, 杉山 暢宏	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学領域 / 2年次	前期 木曜, 5時限 木曜, 6時限
単位数、講義室	4単位	保健学科111講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<small>医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。</small> <small>自らの得た成果を世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力を有するとともに、国際的な諸課題に積極的に取り組むことができる。</small> <small>高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づき臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。</small> <small>保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。</small>	
授業概要	テーマに沿った系統的な文献調査により内外の最新知見を入手する。研究デザインを作成し予備調査（実験）を行う。交絡因子とバイアスを考慮した研究計画を作成し倫理審査を受ける。	
一般学習目標G10（期待される学習効果）	1) 系統的な文献調査の方法を習得し、情報収集能力と分析能力を高める。 2) 研究計画書・倫理審査申請書を作成し、プレゼンテーションによる情報発信能力を高める。 3) コンピュータ統計の手法を学ぶ。	
SBOs（行動目標）	1) 系統的な文献レビューを行うことができる。 2) 研究計画の妥当性と倫理的配慮を説明できる。 3) 目的に応じた統計解析を選択し実行できる。	
授業計画	第1回（4月13日）文献レビューと研究デザイン 第2回（4月20日）文献レビューと研究デザイン 第3回（4月27日）文献レビューと研究デザイン 第4回（5月11日）文献レビューと研究デザイン 第5回（5月18日）文献レビューと研究デザイン 第6回（5月25日）予備調査（実験）と交絡因子・バイアスの検討 第7回（6月1日）予備調査（実験）と交絡因子・バイアスの検討 第8回（6月8日）予備調査（実験）と交絡因子・バイアスの検討 第9回（6月15日）予備調査（実験）と交絡因子・バイアスの検討 第10回（6月22日）予備調査（実験）と交絡因子・バイアスの検討 第11回（6月29日）研究計画と倫理審査，統計解析演習 第12回（7月6日）研究計画と倫理審査，統計解析演習 第13回（7月13日）研究計画と倫理審査，統計解析演習 第14回（7月20日）研究計画と倫理審査，統計解析演習 第15回（7月27日）研究計画と倫理審査，統計解析演習	
授業の進め方	演習を中心に行う。文献調査では複数の論文を担当し、研究のデザイン、介入方法、測定指標、評価方法、ニューエビデンスをレジюмеにまとめ発表する。	
テキスト、教材、参考書	江藤裕之、他 訳：APA論文作成マニュアル（医学書院）  文献調査には、以下の雑誌を含める。 1) Australian Occupational Therapy Journal 2) The British Journal of Occupational Therapy 3) American Journal of Occupational Therapy 4) Canadian Journal of Occupational Therapy 5) Occupational Therapy in Mental Health  その他、適宜、紹介する。	
成績評価の方法	出席，研究計画書・倫理審査申請書の作成	
成績評価の基準	系統的な文献レビューができれば「水準にある(可)」，加えて，研究計画の妥当性と倫理的配慮を説明できれば「やや上にある(良)」，目的に応じた統計解析を選択し実行できれば「かなり上にある(優)」，先行研究と自身の研究疑問・仮説を連動させたプレゼンテーションができれば「卓越している(秀)」と評価します。	
事前事後学習の内容	【事前学習】 精神保健領域の課題を事前に把握して授業に臨んでください。  【事後学習】 最新の論文を参照し，学習内容と照らして理解を深めてください。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	作業療法の臨床研究に必要な手続きを実際に行うので積極的に取り組んでください。  相談等は，メールにて以下のアドレスに連絡してください。  mkobaya@shinshu-u.ac.jp	

科目名	作業療法学特別研究 Research Thesis (Master's) in Occupational Therapy
担当教員	小林 正義
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学領域 / 2 年次 通年 ,不定期
単位数、講義室	10 単位
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<p>医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。</p> <p>高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。</p> <p>保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。</p>
授業概要	共通科目、精神作業療法学特論・演習で学んだ方法を活かして精神保健医療福祉領域の臨床または基礎研究を行う。 修士論文を作成しプレゼンテーションを行う。
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．研究計画書に基づき研究活動を展開する。</li> <li>2．対象者への倫理的配慮の方法を習得する。</li> <li>3．研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を習得する。</li> </ol>
SBOs（行動目標）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．研究計画に沿ってデータ収集，解析，結果の考察を行う。</li> <li>2．修士論文を作成する。</li> <li>3．研究成果のプレゼンテーションを行う。</li> </ol>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．対象者の選定と倫理的配慮</li> <li>2．データ収集</li> <li>3．データ分析</li> <li>4．統計解析</li> <li>5．結果の考察</li> <li>6．論文の作成</li> <li>7．研究成果のプレゼンテーション</li> <li>8．論文を投稿する</li> </ol>
授業の進め方	個別対応
テキスト、教材、参考書	APA（江藤裕之，他 訳）：APA論文作成マニュアル，医学書院，2004. その他，適宜，紹介する。
成績評価の方法	修士論文，プレゼンテーション
成績評価の基準	研究計画を実行できれば「水準にある(可)」，加えて正確なデータ分析ができれば「やや上にある(良)」，結果に基づき研究成果を口頭発表できれば「かなり上にある(優)」，論理的な研究論文が執筆できれば「卓越している(秀)」と評価します。
事前事後学習の内容	<p>【事前学習】 精神保健領域の課題を事前に把握して授業に臨んでください。</p> <p>【事後学習】 最新の論文を参照し，学習内容と照らして理解を深めてください。</p>
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<p>日程は，個別に相談のうえ調整します。</p> <p>連絡先：0263-37-2403，mkobaya@shinshu-u.ac.jp</p>

登録コード:MA780601		授業科目区分	必修科目
科目名	作業療法学特別研究 Research Thesis (Master's) in Occupational Therapy		
担当教員	上村 智子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学領域 / 2 年次 通年 ,不定期		
単位数、講義室	10 単位		
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。 作業療法学的手法を用いた研究方法について学習する。		
授業概要	身体障害や老年期障害のある人の在宅生活支援に特化した作業療法の領域において、学生の主体的発想を重視した研究課題を練り上げ、研究計画を指導教員の指導の下に立案・実施し、一連の成果を論文にして、発表する。		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	身体障害や老年期障害のある人の在宅生活支援に特化した作業療法に関連する研究課題を設定し、研究計画を立案・実施する。 また、得られたデータの分析結果に基づき研究成果を論文として仕上げていく。 この一連の過程を通して、研究者としての研究能力を身につける。		
SBOs（行動目標）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究課題および研究目的を設定できる。</li> <li>・ 研究課題におけるこれまでの国内外の研究の動向について説明できる。</li> <li>・ 研究課題を達成するための研究デザインを適切に選択し、研究方法の信憑性や妥当性について検討した上で研究計画書が作成できる。 また、研究を進めるために必要な倫理的配慮ができる。</li> <li>・ 研究計画に基づいた、データ収集ができる。</li> <li>・ 得られたデータを適切に分析することができる。</li> <li>・ 結果に基づき、科学的論文として仕上げることができる。</li> <li>・ 実施した研究課題を解りやすく、かつ論理的に発表することができる。</li> </ul>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．研究課題の選択と文献講読</li> <li>2．研究計画書と倫理審査申請書の作成</li> <li>3．研究の実施</li> <li>4．論文の作成と発表</li> </ol>		
授業の進め方	個別およびグループでの研究ミーティングを通して、一連の研究活動を進めます。		
テキスト、教材、参考書	適宜、紹介します。		
成績評価の方法	研究に取り組む態度および学位論文と発表会の内容を総合的に評価し判定します。		
成績評価の基準	<p>研究課題の設定、研究計画の立案と実施、研究成果の発表と論文作成の取り組み状況と成果に基づいて、下記の基準で行います。</p> <p>秀：十分に信頼性・妥当性があり、独創性のある研究活動を行うことができる。  優：概ね信頼性・妥当性のある研究活動を行うことができる。  良：基本的なレベルの信頼性・妥当性のある研究活動を行うことができる。  可：最低限のレベルの信頼性・妥当性のある研究活動を行うことができる。</p>		
事前事後学習の内容			
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	<p>臨床における疑問に対して、科学的かつ論理的妥当性のある研究活動を展開できるよう、主体的に学習してください。</p> <p>質問・相談は、メールをお願いします。 tkamimu@shinshu-u.ac.jp</p>		

科目名	作業療法学特別研究 Research Thesis (Master's) in Occupational Therapy	
担当教員	務臺 均	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法領域 / 2 年次	通年 ,不定期
単位数、講義室	1 0 単位	
授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通	<small>医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。</small>	指導に基づき、研究で得られたデータから論文を作成し発表する。
	<small>高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。</small>	研究を進める過程の討議により習得する。
	<small>保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。</small>	指導に基づき、研究で得られたデータから論文を作成し発表する。
授業概要	共通科目、生活支援作業療法学特論・演習で学んだ方法を活かして身障・老年期領域の臨床または基礎研究を行う。 修士論文を作成しプレゼンテーションを行う。	
一般学習目標G10(期待される学習効果)	1. 研究計画書に基づき研究活動を展開する。 2. 対象者への倫理的配慮の方法を習得する。 3. 研究論文の作成とプレゼンテーションの方法を習得する。	
SBOs(行動目標)	1. 研究計画に沿ってデータ収集, 解析, 結果の考察を行う。 2. 修士論文を作成する。 3. 研究成果のプレゼンテーションを行う。	
授業計画	1. 対象者の選定と倫理的配慮 2. データ収集 3. データ分析 4. 統計解析 5. 結果の考察 6. 論文の作成 7. 研究成果のプレゼンテーション 8. 論文を投稿する	
授業の進め方	個別対応	
テキスト, 教材, 参考書	適宜, 紹介する。	
成績評価の方法	修士論文, プレゼンテーション	
成績評価の基準	研究計画を実行できれば「水準にある(可)」, 加えて正確なデータ分析ができれば「やや上にある(良)」, 結果に基づき研究成果を口頭発表できれば「かなり上にある(優)」, 論理的な研究論文が執筆できれば「卓越している(秀)」と評価します。	
事前事後学習の内容	【事前学習】 身障・老年期領域の課題を事前に把握して授業に臨んでください。  【事後学習】 最新の論文を参照し, 学習内容と照らして理解を深めてください。	
学生へのメッセージ並びに質問, 相談への対応	日程は, 個別に相談のうえ調整します。  連絡先: 0263-37-2405, hitmutai@shinshu-u.ac.jp	